

官報

號外 昭和十四年三月八日

第七十四回帝國議會貴族院議事速記第十九號

昭和十四年三月七日(火曜日)午前十時十五分開議

議事日程 第十九號

昭和十四年三月七日

午前十時開議

第一 昭和十四年度歳入歳出總豫算案

並昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算案

豫算案 會議(委員長報告)

第二 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

會議(委員長報告)

第三 軍馬資源保護法案(政府提出、衆議院送付)

第四 種馬統制法案(政府提出、衆議院送付)

第五 競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第六 裁判所構成法改正法律案(衆議院提出)

第七 檢察廳法案(衆議院提出)

議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマ

去ル四日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

人事調停法案

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

非訟事件手續法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル久留里線上總龜山、房總東線安房天津ノ兩驛間、鐵道敷設ノ請願外十八件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十四年度歳入歳出總豫算案、昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件可決報告書

昭和十二年、法律第五十七號中改正法律案可決報告書

大正十四年、法律第五十一號中改正法律案可決報告書

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

司法省所管事務政府委員 森山武市郎君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

軍馬資源保護法案

種馬統制法案

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案

昨六日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省所管事務政府委員 町村 金五君

議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、昭和十四年度歳入歳出總豫算案並昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算案、日程第二、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、會議(委員長報告)

御異議ナシト認メマス、委員長渡邊子爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、會議委員長報告、是等ノ兩案ハ之ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス、委員長渡邊子爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

一 昭和十四年度歳入歳出總豫算案

一 昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算案

一 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月四日

委員長 子爵渡邊 千冬

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル〕

○子爵渡邊千冬君 只今上程セラレマシタ昭和十四年度歳入歳出總豫算及同各特別會計歳入歳出豫算並豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ニ付キマシテ、豫算委員會ニ於ケル審議ノ經過ノ概略並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、今回政府ノ提出ニ係ル昭和十四年度歳入歳出總豫算ノ金額ハ歳入歳出共ニ三十六億九千四百餘萬圓デアリマスガ、歳入豫算ハ經常部二十三億七千二百餘萬圓、臨時部十三億二千餘萬圓デアリマシテ、歳出豫算ハ經常部十九億六千二百餘萬圓、臨時部十七億三千三百餘萬圓デアリマス、之ヲ前年度豫算額と比較較シマスル時ハ、歳入歳出共ニ一億八千餘萬圓ノ増加致シタデアリマス、先ヅ歳入豫算ノ內譯ハ租稅等ノ普通歳入二十八億百餘萬圓、前年度剩餘金繰入八千四百餘萬圓、公債金收入八億九百餘萬圓デアリマシテ、右

ノ普通歳入ハ之ヲ前年度豫算額ニ比較較シマスレバ、二億九千四百餘萬圓ノ増加トナツテ居リマスガ、是ハ主トシテ租稅收入ノ増加ニ基クモノデアリマス、次ニ歳出豫算ノ大體ニ付申上ゲマス、昭和十四年度豫算ノ編成ニ當リテ前年度ニ引續キ國家各般ノ施設ハ、事變目的遂行ヲ目標トシテ之ニ集中スルノミナラズ、更ニ一層之ヲ強化スルノ趣旨ヲ以テ事變關係施設ハ出來ルダケ之ガ充實ヲ期スルト共ニ、其ノ他ノ諸經費ニ至リテハ緊急差措キ難キモノノ外ハ計上ヲ見合ハセルコトニ致シタトノ政府ノ説明デアリマス、先ヅ軍事扶助費、軍事援護諸費、傷痍軍人保護諸費等ノ統後對策ニ要スル經費トシテ九千七百餘萬圓ノ新規増加額ヲ計上致シタル外、生産力擴充ニ關スル經費、物資供給調整ニ關スル經費、輸出増進ニ關スル經費、馬政計畫擴充實施ニ要スル經費、滿洲移民ニ關スル經費、民間航空及防空ニ關スル經費等、現下ノ時局ニ鑑ミ緊要ナル經費ガ計上セラレタルノデアリマス、尙近時各地ニ起リマシタル水害ニ鑑ミ、治水ニ關スル經費ヲ増加計上シ、其ノ他失業又ハ轉業對策ニ關スル經費、農村對策ニ關スル經費、中小工業振興ニ關スル經費等ニ付テモ、ソレレノ所要額ヲ計上シテデアリマス、又事變等ニ伴フ豫算超過及豫算外支出ノ必要ニ應ズル爲ニ、第一豫備金ハ前年度ヨリ千萬圓ヲ増加シテ三千萬圓トシ、第二豫備金ハ前年度通り六千萬圓ヲ計上シテデアリマス、次ニ昭和十四年度ニ於ケル既定經費ノ節約額並ニ部隊艦船ノ出征等ニ伴フ經費ノ減少額ノ合計ハ三億一千七百餘萬圓ニ上ツテ居ルノデアリマス、而シテ昭和十四年度豫算ニ於ケル歳入不足ノ金額ハ公債財源ニ依ルコトトシ、其ノ一般會計ニ於ケル公債發行豫定額ハ八億九百餘萬圓デアリマシテ、前年度ニ比シ一億九千八百餘萬圓ノ減少トナツテ居リマス、尙朝鮮總督府、臺灣總督府、帝國鐵

明治三十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

道及通信事業ノ各特別會計ニ於テ、其ノ歲出ノ財源ニ充ツル爲ノ公債ノ發行豫定額二億七千三百餘萬圓ヲ右ニ加ヘマスルト、其ノ總額八十億八千二百餘萬圓トナリマシテ、之ヲ臨時軍事費財源ニ關スル分ヲ除イタ前年度額ニ比較致シマスルト、九千百餘萬圓ノ減少トナツテ居ル譯デアリマス、昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算並ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スル要スル件ニ付テハ、其ノ説明ヲ省略シマス、以上ハ只今上程セラレテ居リマス所ノ豫算案ノ大要デアリマス、右豫算各案ヲ審議スル爲ニ豫算總會ヲ二月ノ十四日ヨリ開會致シマシテ、三月四日其ノ審議ヲ終了致シマシテ、其ノ間各分科會ニ於テハ殊ニ豫算ノ内容ニ付テモ十分ナル檢討ヲ致サレタノデアリマス、各委員皆時局ノ重大ナルニ顧ミテ、誠ニ熱誠適切ナル質問ヲ試ミ、慎重ニ審査ヲ致サレマシタガ、政府モ亦之ニ對シテ已ムヲ得ザル軍事、外交ノ機密等ニ互リマシエムトヲ除キマシテハ、赤裸々ニ其ノ所信ヲ披瀝致サレタノデアリマス、今ヨリ其ノ審議ノ大要ヲ御報告致シタイト存ジマス、先ヅ最初ニ申述ベキタイト存ジマスコトハ、現内閣ノ施設ノ方針ニ付デアリマス、改メテ申上グル迄モナク、現内閣ノ支那事變ニ對處スル政策ハ近衛前内閣ノ政策ヲ踏襲シテ居ルノデアリマシテ、内閣ノ更迭ニ依ツテ何等變更ヲ來スモノデハナク、東亞新秩序ノ建設、即チ日滿支三國互助連環ノ關係ニ於テ政治、經濟、文化ノ施設ヲ爲スコトヲ以テ其ノ大使命トシ、又其ノ主たる目標ト致シテ居ルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、唯平沼首相ハ其ノ組閣ノ初ニ於テ聲明セラレマシタ所ノ、施政ノ方針デアル國民ノ總親和ト云フコト、萬民輔翼ノ精神ト云フコト、又萬物ヲシテ各、其ノ處ヲ得セシムルコト等ニ付キマシテハ、數氏ノ委員ヨリ屢、之ニ對シテ贊意ヲ表明セラレタノデアリマス、

近頃我が國ノ政治家ハ動モスレバロ開ケバ即チ革新ト云フコトヲ叫ブノデアリマスガ、私ハ革新ノ爲ニスルノ革新、又社會ノ一部ノ爲ニスル他ノ部分ノ革新ノ如キハ、此ノ時局下ニ於テ特ニ固ク相戒メテ、濫リニ之ヲ行フベキモノデハナイト云フコトヲ信ジマス、之ニ反シテ國民總親和、萬民輔翼ノ精神ノ下ニ總テノ物ヲシテ其ノ處ヲ得セシムル爲ニ、不言實行セムトスル革新コト、一方ニハ徒ニ國民ヲ不安ナラシムルコトナク、而シテ却テ革新ノ實ヲ舉ゲルモノデアルト存ジマス、私ハ現内閣ガ時局ノ重大性ニ鑑ミ、國民ヲシテ疑心暗鬼ヲ生ゼシムルコトナク、總親和、萬民輔翼ト云フガ如キ大理想ヲ提ゲテ、國民ノ前ニ示サレマシタコトハ國民全般ニ對シテ其ノ不安ヲ一掃シ、舉國一致ノ精神ヲシテ益々牢固發刺クラシムル上ニ於テ、大ナル裨益アルモノト確信致ス者デアリマス、豫算委員會ニ於キマシテモ、國民精神總動員ノ問題其ノ他ニ關シ、是等ノ點ニ贊同ノ意味ヲ以テ屢、言及セラレタノモ誠ニ當然ノコトト存ズル次第デアリマス、次ニ財政ニ關シマシテハ主トシテ豫算ノ節約、公債ノ消化等ノ問題ガ論議セラレタノデアリマス、即チ本豫算案ヲ一覽スルニ、何レモ今年度カラ是非實施シナケレバナラヌト云フ事業バカリノヤウニハ受取レナイ、繰延ベラレルモノニ付テハ繰延ベル必要ガアルト思フガ如何、又日銀ノ公債ノ所有高モ段々増加シ、物價モ騰勢ヲ持續シテ居ル、公債ノ消化モ餘リ樂觀ハ出來ナイト思フガ政府ノ所見如何トノ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、既ニ昭和十二年度ニ於テ一般會計、特別會計ヲ通ジテ相當節減、繰延ヲ行ヒ、十三年度ニ於テモ一般特別兩會計ヲ通ジ、二億數千萬圓ノ節約ヲ爲シタ、本年度ニ於テハ豫算ノ編成ニ當リ更ニ一層節約ニ努メタノデアルカラ、今ノ處、實行、豫算ヲ組ム考ハ持

タナイガ、豫算ノ實行ニ付テハ十分御趣旨ヲ考慮スル、公債ノ消化ニ付テハ、今日ノ處、相當順調ニ行ハレテ居デ、將來モ政府ノ撤布資金ガ銀行ニ還ヘルヤウニナリ、又民間ノ貯蓄モ十分ニ行ハレテ來タナラバ、公債ノ消化ハ循環的ニ行ハレルノデアツテ、強チ悲觀スルニ當ラヌトノ答辯ニ關シマシテハ、物價問題ガ各方面ノ見地ヨリ最モ熱心ニ檢討セラレタノデアリマス、政府ノ物價對策ニ關スル所信如何、中央物價委員會ニ於テハ、政府ヨリ原案ヲ提出シテ、委員會ガ承諾ヲ與ヘルニ過ギナイ、會議ハ形式ニ流レテ居ル、商品別ニ最モ公平ナル價格ヲ決定スルニハ、原價計算ガ必要デアル、而モ原價計算ナルモノハ專門家デナケレバ出來ナイモノデアルカラ、物價委員會ニ其ノ道ノ專門家ヲ集メル必要ガアルト思フガ如何、將來物價ノ騰貴ヲ抑ヘ、消費ヲ節約セシメル爲ニハ、商品ノ單純化ガ必要デアルト思フ、闇相場ノ取締ニ付テハ同業組合ヲ動員シテ、連帶ノ責任ヲ負ハセル必要ガアルト思フガ如何等ノ質問ガ發セラレマシタ、之ニ對スル政府トシテハ、物價對策ハ從來ハ取敢ズ、物價ガ現狀以上ニ騰貴スルノヲ抑制スルコトヲ目的トスル應急對策デアツタノデアルガ、今後ハ單ニ製品ノ價格ヲ抑ヘルガデナク、更ニ製品ヲ構成スル原料ノ價格ヲ抑ヘ、生産カラ消費ニ至ル間ノ適當ナル利潤等モ考ヘテ決定セバナラヌト思フ、又物價ガナケレバ價值決定メテモ無理ガ生ズルカラ、物價ノ統制ハ物資ノ統制、消費ノ統制ト相關聯シテヤラナケレバナラヌ、而シテ中央物價委員會ガ根本對策ヲ定メ、此ノ標準ニ基キテ地方ノ物價委員會デゾレム、適當ニ加減シテ決メテ行キタイ、政府ノ機關トシテハ商工省ニ物價對策部ト云フガ如キ一部局ヲ作リタイト考ヘテ居ル、今後物價委員會ノ改善如何

ニ付テハ殊ニ考慮ヲ加ヘル、即チ常任委員ノ増加ト同時ニ、專門委員ヲ増加シテ、民間專門家ヲ集メタイト思フデ居ルコト、政ハ公債ニ財源ノ大部分ヲ仰グノハ已ムヲ得ナイガ、如何ナル手段ニ依ルモ物價ノ昂騰ハ阻止致サネバナラヌ、一方ニ於テハ物價自體ヲ抑ヘルコトハ固ヨリ必要デアルガ、ソレト同時ニ購買力ヲ封ジテ紙幣ノ増發ヨリ來ル惡結果ヲ除カナケレバナラヌ、其ノ爲ニ公債、貯蓄債券等ヲ發行シテ札ヲ引上ゲ、又増税モ民間ニ溢レル所ノ金ヲ取込ム手段トナルノデアアル、政府ハ今後トモ相當ノ決意ヲ以テ物價對策ニ對處シテ行ク考デアルトコトデアリマシタ、商品ノ價格ニ付テハ其ノ單純化ガ必要デアル、是ハ今後重要問題トシテ何等カノ對策ヲ施ス考デアル、闇相場ノ取締ハ一層之ヲ嚴重ニスルト共ニ、他方經濟關係諸法規ヲ周知セシムルニ努メ、尙組合ノ自肅自戒ヲ養成スルコトニ依ツテ相當抑制ガ出來ルト思フコトデアリマシタ、次ニ中南支貿易問題ニ對スル質問應答ガアリマシタ、商工會議所ヤ貿易振興會ガ中南支ニ於テ新幣制ノ出來ル迄、法幣ヲ使用スルコトヲ決議シテ居ルガ、之ニ對スル政府ノ所見如何トノ質問ニ對シテ政府ハ、當局トシテハ其ノ決議通りヤリ兼ネル、法幣ハ將政權ノ紙幣デアルカラ今後ドウナルカ分ラナイ、殊ニ今日法幣ヲ賣ルニハ一定ノ制限ガアルカラ、他ノ外貨ニ換ヘラル、限りハ之ヲ利用シ得ルケレドモ、全面的ニ法幣ヲ基礎トスルコトハ出來ナイト答辯致シマシタ、又今日ノ如ク我が國ガ大イニ海外ニ發展スル時代ニ於テハ、有力ナル金融機關ガ必要ト思フ、正金銀行ガアルガハ專ラ爲替銀行デアツテ、海外ニ在ッテ長期資金ヲ貸付ケル仕事ハシテ居ナイカラ、朝鮮、臺灣兩銀行ヲ打ッテ一丸トシテ、社債發行權ヲ與ヘテ長期資金ノ貸付

ヲ行ハシメテハ如何トノ問ガアリマシタガ、之ニ對シテ正金銀行ハ爲替銀行デハアルガ、必ズシモ其ノ業務ハ爲替ノミニ限定サレテ居ナイ、北支ニハ北支開發株式會社、中支ニハ中支振興株式會社ガアッデ、ソレノ投資、融資ヲ行ッテ居ルガ、今日ノ狀況ニ於テハ御考ノ如キ金融機關ヲ設ケテ、廣ク海外ニ資金ヲ貸付ケルガ如キコトハ事實困難デアルトノ應答ガアリマシタ、尙是ハ外交ニモ關聯スル問題デアリマスガ、北洋漁業問題、北樺太ノ石油石炭權益問題ニ關スル問答ガアッデアリマス、即チ過去ニ於テ我ガ國民ガ露國官憲ト通謀シテ不當ノ價格ヲ入札シテ、日魯漁業ノ目星シイ漁區ノ全部ヲ奪ツタコトガアリ、今回「ロシア」ハ廣田「カラハン」協定ヲ無視シテ、安定漁區ヲ入札ニ付スルト云フガ、前ノヤウニ我ガ國民ノ中ニ不都合ナ者ハアルマイト思フガドウデアルカ、「ロシア」ガ國營ノ力ヲ押シテ來ルノニ對シテ我ガ國ノ陣容ト云フモノハ之ニ耐ヘルダケノ用意ガ出來テ居ルカ、我ガ國ニ於テハ北緯五十度以北ハ農林省、五十度以南ハ北海道廳ガ管理シテ居ルガ、是ハ農林省ガ一元的ニ管理スベキデハナイカ、又北樺太ノ石油石炭ノ權益ニ付テハ、之ニ對スル「ソ」聯ノ壓迫ハ根強イモ「ソ」聯ノ國防上ノ大問題デアル、尙北樺太石油會社ハ石油ヲ掘出スダケデ、所謂井戸掘會社デアルガ、之ヲ多角經營方法ニ改メル要ハナイカ等ノ質問ガアリマシテ、之ニ對シテ「ソ」聯ノ沿岸漁業問題ガ今以テ解決ガ付カヌノハ遺憾デアル、「ロシア」人ト通謀スルヤウナ不都合ナ日本人ノ出ヌヤウニ十分ニ注意スルガ、左様ナ不都合ナ者ハナイト思フ、北洋漁業ヲ統一スル國策會社ノ設立ハ考ヘテ居ルガ、現在ノ會社ヲ合同統一シテ、一國策會社トスルコトニハ可ナリ困難ガアル、唯之ヲ統制スル別個ノ會社ノ設立ハ考ヘラレルガ、ソレニ付テハ目下研

究中デアル、北洋漁業ノ監督ハ將來之ヲ一元的ニシタイ、現在ノ處、出來ル限り連絡ヲ執ッテ居ル、北樺太ノ石油石炭ハ帝國ノ重大ナ權益デアルカラ、此ノ權益ノ維持及企業ノ付ニ維持テハ萬全ノ處置ヲ講ズル積リデアル、北樺太石油會社ノ多角經營化ニ付テハ、海軍トノ關係モアルカラ、篤ト考慮シタイトノ答辯ガアリマシタ、右ノ外經濟問題トシテハ輸出振興政策、產金政策、海運政策、蠶絲業一元統制問題等ガ論議セラマシタ、尙昭和十四年度ニ於ケル物資動員計畫及生産力擴充四箇年計畫ニ付テハ、秘密會ニ於テ政府ヨリ詳細ナル説明ガアッタデアリマス、次ハ外交問題デアリマス、今日英米ノ我ガ國ニ對スル感情ハ頗ル宜シクナイ、ソレガ又支那事變ニ對スル反感ヲ益、強カラシメテ居ル、是ハ我ガ國ノ政治機構ヲ獨裁政治ナリト誤解シテ居ルコトニ基クモノデアル、故ニ世界ヲシテ我ガ國ノ憲法政治ノ本質ニ付認識ヲ深カラシムル必要ガアリト思フガ、政府ノ所見如何トノ質疑ガアリマシタ、之ニ對シテ首相ハ、我ガ國ハ民主國デモナク、獨裁國デモナイコトハ明カデアル、肇國ノ初ヨリ統治ノ大權ハ天皇之ヲ御掌握ニナリ、萬民ハ總テ之ヲ輔翼シ奉ルノガ我ガ國體デアッデ、憲法ハ其ノ趣旨ヲ明カニシテ居ル、我ガ國ハ民主主義ノ國デナイト同時ニ、全體主義ノ國デナイトトワ、世界ニ向ッテ明カニスルコトガ最も大切デアルトノ所信ヲ示サレマシタ、又新東亞建設ノ根本方針竝ニ支那事變ニ關係スル列國トノ懸案解決ニ關スル政府ノ所見ヲ質セルニ對シテ、外務大臣ヨリ、皇道主義ノ精神ハ列國ヲシテ各、其ノ處ヲ得セシムルコトデアアル、故ニ支那ヲシテ我ガ國ニ從屬サセル考ハナイ、日滿支三國ノ結合ニ依リ東洋ノ繁榮、延イテ世界ノ繁榮ニ寄與スルコトヲ目的トスルデアアル、懸案ノ解決ニ付テハ、外國カラノ要求ガナクモ、解決ス

ベキモノハ進シテ解決ニ努力シタイ、唯問題ノ緩急難易ノ點ハ考慮ヲ要スルトノ説明ガアリマシタ、尙又國際聯盟脫退ノ際ニ賜リマシタル詔書ノ旨ヲ奉體シテ、東亞ノ一角ニ偏局シテ孤立スルガ如キコトナキコトヲ希望セルニ對シ、外相ヨリ聖旨ハ明カニ我ガ國ノ嚮フ所ヲ御示ニナッテ居ル、質疑者ノ御心配ハ御無用デアルトノコトデアリマシタ、次ニ上海ノ「テロ」事件ニ關シテ、我ガ國ニ取ッテハ大陸進出ノ基地デアル上海ニ於テ種々ノ事件ガ勃發シ、國威ヲ損ズルヤウナ事態ニ至リツ、アルハ看過スルコトハ出來ナイ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル對策ヲ有スルカ、工部局ニ對シテ政府ハ治安維持ノ能力アリト考ヘルカ、工部局ハ此ノ種ノ事件ニ關シテ誠意ガナイト思フガ如何トノ質問ニ對シテ、政府カラ、上海ノ治安狀態ハ甚ダ遺憾デアル、是ハ或意味デハ工部局ニ能力ナシトモ見ラレ、又誠意ナシトモ見ラレ、故ニ我ガ國トシテハ工部局ヲシテ誠意アラシメ、且能力ノ不足スル所ヲ補ハシメネバナラス、對策トシテハ差當リノ措置ト恒久的措置トガアルガ、今ノ處申上ゲル時期ニ至ッテ居ナイトノ答辯ガアリマシタ、「テロ」事件ニ關スル工部局トノ交渉ノ模様ニ付キテハ、秘密會ニ於テ詳細ナル説明ガアリマシタ、次ニ揚子江ノ開放問題ニ關シテ質疑ガアリマシタガ、之ニ對シテ海軍大臣ハ揚子江ハ目下作戰上ノ大動脈トナッテ居ルノデ、之ヲ閉鎖スルニハ何ノ遠慮モ要ラヌト考ヘルガ、併シ作戰上ノ必要ガ緩和サレ、バ、之ヲ開放スルコトハ、支那民衆ノ經濟生活ニ寄與シ、東亞ノ建設ニ役立ツコトハ非常ニ大ナルモノガアルト思フ、但シ是ガ將政權ノ利益トナルヤウデハ困ルカラ、假令開放スルニシテモ制限ヲ加ヘル必要ガアル、開放ノ時期ニ付テハ作戰上ノ必要モアルカラ、明言ハ出來ナイガ、出來ルダケ其ノ時期ノ早ク來ルコトヲ望シテ居

ルトノ説明ガアリマシタ、尙此ノ場合特ニ御報告致シタイコトガアリマス、ソレハ外交關係ガ世界的ニ緊張シテ居リマス今日、誠ニ喜バシキ一ツノ事實デアルト信ジマシタカラデアリマス、第二分科會ニ於キマシテハ齋藤前駐米大使ノ薨去ニ對シ、二三ノ委員ヨリ故人ノ功績ヲ賞揚シ、ソレニ次イデ米門ノ朝野ガ哀悼ノ意ヲ表シ、殊ニルーズヴェルトノ大統領ガ、齋藤氏ノ遺族及我ガ外務省ガ同意スルニ於テハ、其ノ遺骨ヲ軍艦ヲ以テ日本ニ送リタイト云フ、未ダ會テ前例ノ無イ最高ノ弔意ト儀禮トヲ示スノ申出ヲ爲シタトノ報ニ關シ感激ノ意ヲ表明シ、政府ニ向ッテ事實ノ説明ヲ求メラレタデアリマス、尙又日米間ノ八十年ノ歴史ヲ有スル傳統的親善關係ハ、日米兩國ニ於テ其ノ信ズル所ヲ述ベ、主張スベキ所ヲ主張シテモ、之ガ爲ニ傷ケラレルコトナク、斯クシテ却テ永遠ノ諒解ヲ來スモノデハナイカト思ハレテ、誠ニ欣快ニ堪ヘナイトノ意見ニ對シ、外務大臣ヨリ、齋藤前大使ノ薨去以來、米國官民ノ寄セタル深甚ノ同情ニ對シ詳細ナル報告ガアリ、併セテ議會ニ於テハ哀悼ノ演說ガ行ハレ、尙且大統領及「ハル」國務長官ノ名ニ於テ、外務大臣迄弔意ヲ表明サレ、外務大臣ヨリモ帝國政府ノ名ニ於テ謝意ヲ表シタルコト、又巡洋艦ニ依ッテ遺骨ヲ送ラムトスル「アメリカ」政府ノ申出ニ對シテモ、欣然同意セル旨ノ説明ガアリマシタ、尙又外務大臣ハ、此ノ米國政府ガ既ニ現職ヲ去ッテ居ラレタ齋藤氏ノ遺骨ヲ軍艦ヲ以テ送ルコト云フコトハ、勿論齋藤氏ニ對スル個人的友誼ニモ依ルコトデハアルガ、又米國ガ日本ノ外交代表者ニ對シ敬意ヲ表スルコト云フ趣旨ガ含マレテ居ルコトハ、米國側ガ堀内大使ニ對シテ爲セル説明ニ依ッテ明カデアアル、最近支那事變ニ關係シテ日米間ニ存在スル外交上ノ困難ニ付テモ、日本ノ眞意ノアル所ヲ諒解セシムルコト

ニ依ッテ、之ヲ漸次除去シ得ルコトヲ確信シテ疑ハナシト附言セラレマシタ、私ハ今次支那事變ノ如キ、我ニ取ッテハ非打算的デハアルガ、東洋永遠ノ平和ノ爲ニ已ムヲ得ザル最後ノ、而シテ唯一ノ殘サレタル手段トシテ、日本ガ支那ニ於テ執リツ、アル軍事行動ガ、宣傳ヲ好ム人々ノ影響ヲ受ケテ、廣ク誤解セラレ、曲解セラレツ、アル疑ノアル場合ニ於テ、「ルーズヴェルト」大統領ノ此ノ稀ナル友好的行爲ハ、由來正義觀ノ強キ多ク「アメリカ」人ニ反省熟慮ノ機會ヲ與フルモノトシテ、深ク喜ブモノデアリマス、次ハ教育ノ問題デアリマス、學制改革ハ急速ニ實行スベシ、義務年限ノ延長ハ來年度ヨリ實行スルヤ、女子青年學校ニ付テモ來年度カラ之ヲ實施スルヤ、中等學校ノ入學難ハ、各學校間ニ餘リニ優劣ノ差ガ甚ダシイ爲ニ起ルモノデアリカラ、入學難ヲ緩和スル爲ニハ、各學校ノ優劣ノ差ヲ無クスル必要ガアリト思フガ、政府ノ所見如何等ノ質問ガ提出セラレマシタ、政府ハ學制改革ニ付テハ、教育審議會ノ答申ヲ得タモノハ直チニ實行ニ移シタイ、義務教育年限ノ延長ハ、法令規則ノ改正ヤ財政上ノ都合モアルカラ、大體十五年度ノ豫算ニ計上シタイト考ヘテ居ルガ確言ハ出來ナイ、女子青年學校ノ義務制ニ付テハ未ダ直チニ之ニ著手スル程度ニ至ッテ居ナイ、入學難ヲ緩和スル爲ニハ學校ノ優劣ノ差ヲ少クスルト共ニ、或學校ノ卒業生ヲ特ニ優秀視スル弊ヲ改メル必要ガアルトノ答辯ガアリマシタ、尙教育ニ付テハ以上ノ外ニ、學術振興ノ必要ガ力説セラレマシテ、有益ナル質疑應答ガ行ハレタノデアリマス、此ノ學術振興ノ問題ガ取上ゲラレ、屢、論議セラレタコト云フコトハ、本期議會ノ顯著ナル特色ノ一ツデアルト存ジマス、既ニ本會議ニ於キマシテモ、長岡博士ヨリ基礎科學ノ重要性、天才教育ノ必要ガ力説セラレマシタコトハ尙我々ノ耳ニ

新ナル所デアリマスガ、豫算委員會ニ於キマシテモ、亦分科會ニ於キマシテモ、此ノ問題ハ屢、論議ノ的トナツタノデアリマス、今其ノ要點ヲ擧グテ申上ゲマス、我ガ國ノ現狀ハ世界各國ガ最モ力ヲ致シテ居ル基礎科學、殊ニ純正物理學ノ進歩ノ程度ニ於テ遺憾ノ程度ガ少クナイ、應用方面ノ學術ニ於テモ、我ガ國ハ歐米各國ノ後塵ヲ拜セネバナラス、我ガ國ニ於テモ科學振興調査會アリ、學術振興會アリ、又理化學研究所其ノ他幾多ノ研究所ガ各、輝カシキ業績ヲ擧ゲテ居ルハ周知ノ事實デアルケレドモ、各研究所ノ間ニ統合連絡ニ於テ遺憾ノ點ガ少クナイノミナラズ、設備ノ點ニ於テモ、經費ノ點ニ於テモ、今後大イニ完備サセネバナライ、之ヲ「ドイツ」ノ「カイザー・ウィルヘルム」ガゼルシヤフト、「アメリカ」ノ「ロックヘラー・インスティテュート」等ニ比スレバ、其ノ規模ニ於テ遙カニ及バナイモノガアル、又大學等ニ於テモ教授、助教、助手等大イニ充實セネバナライ、又在外研究員モ事變前ニ比シテハ非常ニ減少シテ居ル、國際學術會議ニモ適當ナル人ヲ内地カラ派遣スルコトナク、間ニ合セ人デ一時繕ワテ居ルヤウナ有様アル、目下ノ事變カラ言ッテモ必要ナルハ物的資材バカリデナク、智的資材モ必要デハナイカト云フヤウナ、熱心ナ意見ガ一度ナラズ發言セラレタノデアリマス、之ニ對シテ文部大臣モ亦全く同感デアルト云フコトヲ表明セラレ、生産擴充ノ爲ノ應用化學、産業科學ノ重要性ニ付テハ、多クノ人ガ關心ヲ持ッテ居ルケレドモ、純正科學、物理學等ノ基礎的研究ニ於テモ政府ハ心ヲ致シ、本年モ九州大學理學部設置ノ豫算ヲ提出致シテアルノミナラズ、名古屋ニ於ケル綜合大學理學部設置ノ計畫ヲ有シテ居ラレル旨ノ答辯ガアリマシタ、又大藏當局ニ於テモ財政困難ノ今日ナルニモ拘ラズ、學術振興

會ニ關シテハ三割三分ニ當ル増額ヲ認メテ居ルガ、其ノ外科學振興調査會ノ答申ヲ待ッテ、來年度ニ於テハ尙十分ナル施設ヲ致シタイト云フ説明ヲ附加セラレタノデアリマス、尙此ノ問題ニ關聯シテ國際知識ノ涵養ニ付テモ論及セラレタノデアリマス、私ハ嘗テ文部當局ノ態度ニ遺憾トスル所ガアリマシテ、此ノ所ニ立ッテ知識尊重ノ必要ヲ申述ベ、各方面ヨリ數十通ノ同感ノ旨ヲ述ベラレタル書信ヲ受領致シタコトガアリマスガ、今期議會ニ於テ圖ラズモ右申上ゲマシヤウニ、政府及議員諸君ノ力強イ御意見ヲ拜聽スルコトヲ得マシテ、衷心歡喜ノ念ニ堪ヘナイ次第デアリマス、尙所謂大學肅學問題ニ關シ、國體明徴ノ趣旨ヲ徹底セシメル爲、大學内ノ人事ニ於テモ、教授科目ニ付テモ、文部大臣ガ進シテ之ヲ實行セラニ付テモ、意思ナキヤト云フ質問ニ對シ、文部大臣ハ質問者ノ御趣旨ハ全く同感デアルガ、物ニハ順序ガアル、之ヲ急激ニ外部ヨリ手ヲ下スヨリモ、文部當局ハ大學ト協力シテ、自肅自戒ニ依リ内部的ニ改善セシメムト欲シテ居ル旨ノ答辯ガアリマシタ、以上申上ゲマシタ以外ニモ内政問題トシテ種々論議セラレタノデアリマス、先ヅ近衛無任所大臣ノ樞相兼任問題ニ付、平沼首相ハ衆議院デ之ヲ妥當ナラズト申サレタガ、是ハ將來行フベカラザルコトヲ了解シテ宜イカ、又適當ノ機會ニ何レカ一方ヲ辭任サレルコトガ必要デアルト思フガ如何トノ質問ガアリ、之ニ對シ首相カラ、今回ノコトハ時局ノ必要ニ依ッテ行フタモノデアリ、先例ニ從ッタモノデモナク、又先例トシテ將來此ノ事ガ行ハレルトモ考ヘナイ、近衛公ヲ現在ノ地位カラ去ラシムル事情ニハ至ッテ居ラスカラ、近い將來ニ何レカヲ辭スコトハナイト思フトノ言明ガアリマシタ、又近來議會ハ其ノ機能ヲ失ヒ、官僚政治ガ行ハレニ至ッテ居ル、國民ノ聲ガ政治上ニ現ル

ルヤウニ努力セラレタイ、民間ノ言論統制ガ餘リニ行キ過ギテ居ル、言論統制ニ關スル所見如何、又民間ノ言論統制ヲヤカマシク言ヒナガラ、却テ國家ノ官吏ノ言論統制ガ行ハレザル其ノ理由如何等ノ、諸質問ニ對スル政府ノ應答ハ、今日ハ政黨ノ首領ガ内閣ヲ組織シタ時代トハ狀態ガ異ツテ居ルガ、斯カル事態ノ下ニ於テハ、民意ヲ政治ニ反映セシメルコトガ必要デアルカラ、今後種種ノ施設ヲ講ジタイ、言論ノ取締ニ付テハ目下支那事變中デアアルノデ窮屈ニナツテ居ルガ、出來ルダケ國民ノ希望ト、國家ノ必要トヲ調和シテ行キタイ、官吏獨善ノ弊ニモ慎マネバナラス、此ノ點ハ十分注意スルコト云フコトデアリマシタ、又吏道刷新ノ問題ニ關シテ、下剋上トカ、官吏獨善ノ弊ニ付熱心ナル意見ノ陳述ガアリマシタガ、之ニ對シテ總理大臣ハ遺憾ナル例ガ皆無トハ考ヘラレナイ、今後ハ自分ノ責任トシテ之ヲ是正致シタイト考ヘル旨ノ答辯ガアリマシタ、神社行政ニ關シテハ、神社ノ行政機構ヲ擴充スルノ意ナキカトノ質問ニ對シ、來ル十五年度ヨリ實現ヲ見ルヤウニ努力スル、特別ノ官衙ヲ設クルヤ否ヤニ付テハ、今俄ニ明言ヲナスコトヲ得ナイト内務大臣竝ニ總理大臣ヨリモ答辯ガアリマシタ、次ニ臺灣米ノ移出管理案モ論議セラレマシタ、質問ノ要旨ハ戰時ニ於テハ食糧問題ハ重要デアアル、然ルニ臺灣ニ於テハ米ノ増産ニ努メズ、寧ロ米ノ減産ヲ招ク移出管理案ヲ實施スルノハ何故デアルカ、又本案ノ實施ハ臺灣ノ人心ニ惡影響ヲ及スト思フガ如何ト云フノデアリマスガ、之ニ對シテ臺灣米移出管理案ハ米作ヲ減少セシメムトスルモノデハナク、戰時ニ必要ナル他ノ作物ノ増産ヲ圖ルト同時ニ、米ニモ計畫的増産性ヲ與ヘムトスルモノデアアル、本案ノ實施ニ依リ農民ノ收入ガ一時減少スルコトハ事實デア

總督府ハ耕地ノ新開拓、水利ノ施設其ノ他農民ノ福祉ニ付積極的ニ乘入出管ダカラ、結局ソレ等ハ收入ヲ増加スル原因トナルモノナル、總督府ニ於テハ今後モ此ノ案ガ農民ノ福祉ノ爲ニ役立ツモノデアリコトヲ、認識セシメル爲ニ努力スル考デアルトノ答辯ガアツタノデアリマス、更ニ東北振興ノ問題ニ關シマシテ、政府ハ東北振興ノ國策ト考ヘルカ、東北ノ特性ニ基イテ、東北廳ヲ設置スルノ要ハナシカ、東北興業會社ノ重大ナル創業期ニ、二年間ニ三人モ總裁ガ更迭スルノ遺憾デアアル等トノ質疑ニ對シテ、東北振興ハ勿論國策ノ一トシテ考ヘナケレバナライ、東北廳ノ設置ニ付テハ、今之ヲ設置スルトハ申上ガ兼ネル、總裁ノ更迭ハ人事ノ都合上已ムヲ得ナカッタコトダガ、將來ハ深く考慮スルノ答辯ガアリマシタ、森林事業ノ發展ニ關スル質疑トシテ、國有林ヲ特別會計トシテ剩餘金ヲ森林事業ニ使用シテハ如何、森林金融ニ對シ特別ノ途ヲ講ジテハ如何等ノ問ニ對シマシテ、國有林ノ經營ノ爲、特別會計ヲ設置スルコトハ、目下考慮中デアアル森林金融ハ甚ダ不完全デアアル、是ハ日本ノ森林行政上注意スベキ點デアルトノ答辯ガアリマシタ、尙又何等カ府縣ト市町村トノ間ノ中間機關ヲ設置スルノ必要ガ、時局對策トシテノ地方機關ノ改善ノ見地ヨリ論ゼラレマシタガ、政府ハ之ニ對シテ中間機關ノ設置ハ研究中ナル旨ノ答辯ヲ致シマシタ、其ノ他砂防工事ノ促進、國民精神總動員ノ強化、非常警備ノ組織、司法官ノ地位向上、義勇軍、液體燃料、國家總動員法第十一條、二千六百年記念事業等ノ諸問題ニ付テモ、有益ナル質疑應答ガアリマシタ、尙詳細ニ互リマスコトヤ、各分科會ニ於ケル質疑應答等ニ關シマシテハ、會議録ニ依ッテ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス、而シテ三月四日ノ總會ニ於キマシテモ、國策ニ關スル論

議ガ行ハレ、次イデ熱誠ノ溢レルタル討論ノ後、直チニ三案ヲ一括シテ採決致シマシタル處、全會一致ヲ以テ可決ヲ致サレタノデアリマス、豫算委員各位ノ總會及分科會ニ於テ、連日御精勵下サイマシタコトニ、對シ、茲ニ改メテ感謝ノ意ヲ表シマシテ、私ノ報告ヲ終リタイト存ジマス
○議長(伯耆松平賴壽君) 質疑ノ通告ガゴザイマス、是ヨリ通告順ニ依リマシテ、順次發言ヲ御許シ致シマス、佐々木八十八君(佐々木八十八君演壇ニ登ル)
○佐々木八十八君 我ハ工藝教育ノ振興ニ付テ文相閣下ニ質問ヲ申上ガ、閣下ノ御高見ヲ拜承致シタイト存ジマス、私ハ嘗テ國立工業指導所ノ擴充ニ付テ、當時ノ所管當局タリシ町田商相、小川商相、村瀬商工次官ニ對シ、御質問申上ガマシタ處、三閣下ニ於カセラレテハ我々ノ質問ニ對シ、大イニ御共鳴下サイマシテ、既ニ之ガ實現スルニ至リマシタルコトハ、今尙感謝新タナル所デゴザイマス、尙私ハソレニ關聯シテ第七十議會ニ於テ、當時ノ衆議文相林閣下ニ對シ、工藝教育ノ振興ニ關シ、此ノ壇上ヨリ御質問申上ガマシタル處、林閣下ニ於カセラレマシテハ、我々ノ要望ニ對シ大イニ御共鳴下サイマシタノデゴザイマス、然ル處、爾來三星霜ヲ閱、當該問題ニ對シ、未ダ具體的ノ施設モナク、忝トシテ何等ノ御計畫モ聞クコトヲ得ナカッタコトハ、私共ノ大イニ遺憾トスル所デゴザイマス、今ヤ我國ハ舉國一致ヲ以テ東亞建設ノ大事業ヲ遂行シツ、アリ、尙國際貸借ノ均衡ニ對シテハ、飽ク迄モ之ヲ維持シナクテハナラナイト云フ時ニ當リ、更ニ進シテ第三國ニ對シテ輸出超過ヲ以テ金ノ獲得ヲヨリ大ナラシメナクテハナラナイノデゴザイマス、茲ニ於テ最近各方面デハ、日滿支ノ資源開發ニ對シ、我々及々タルモノガアリマスルケレドモ、今日ノ所デハ、輸出製品ニ要スル原料ノ

如キ、圓「ブロック」以外ノ第三國ニ之ヲ仰ガナクテハナラナイト云フコトニナッテ居リマス、先ヅソレガ對策トシテハ、輸出製品ニ要スル輸入原料ノ代價支拂額ヲシテ、成ルベク少額ナラシムルト同時ニ、輸出製品ニ對シマスル外貨ノ受入金高ヲシテ、成ルベク多額ナラシメ、之ヲ差引シテ、金ノ獲得ヲシテ成ルベク多カラシメナクテハナラナイノデゴザイマス、カルガ故ニ、金ノ獲得ヨリ見テ、輸出製品ニ要スル輸入原料ハ成ルベク價格ノ低イ物ヲ選ビ、又成ルベク容量ノ少クテ足リルヤウナ、輸入原料ニ對シ、工藝技術ノ加工ヲ施シテ、優秀ナル製品、即チ高級化シタル商品ニ仕上ガ、可及的、高價ナル要品ニ美化シテ、之ヲ第三國ニ輸出スルヨリ他ニ方法ハナイノデゴザイマス、是ガ輸出超過ノ促進トナリ、所謂加工工業國トシテノ金獲得ニ對スル是ガ唯一ノ方策デアルト思フノデアリマス、又「ハヴ・ナット」ノ國トシテ生キテ行クベキ、無二ノ途デアルト斯様ニ考ヘテ居リマス、蓋シ人ニハ先天的ニ美ヲ愛好スル趣味ガアリマシテ、總テノ物ハ形狀及色彩ノ上ニ新規ナル意匠ヲ加ヘテ、其ノ價值ヲ上ゲ、人ノ趣味ニ惹ヘテ販路ヲ開拓或ハ擴張シ得ルノデアリマス、カルガ故ニ出來得ル限り之ヲ高度ニ利用シテ、只今申上ガマシタヤウナ工業雜貨ノ輸出進展ニ資セキデアルト、斯様ニ思フテ居リマス、而シテ其ノ趣味性ニモ亦文化ノ高イ程度ノ國民程、ソレ程洗煉サレテ居リマスルケレドモ、各國ニ於ケル民族モ、眠色毛色ノ變ルガ如ク、種々雜多デ、決シテ一樣デハナイノデアリマス、從ッテ其ノ仕向地ニ於ケル文化ノ程度及嗜好等ニ對シ、具サニ比較研究シテ、其ノ人々ノ好ミニ投スルヤウ苦心慘澹、巧ミニ最善ヲ盡スベク努力ヲ要スルノデアリマス、幸ニ我ガ國民ハ美的情操ニ富ミ、工藝技術加工ニ對シ最モ良イ素質ヲ持テ居リマスルケレドモ、

悲シイ哉往々ニシテ半製品ノ儘輸出サル、コトモアリ、或ハ安價品ヲ以テ海外市場開拓セラル、ヤウナ現狀ヲ思フニ當リマシテハ、轉々寒心ニ堪ヘナイモノガアリマス、斯クノ如キ我ガ國ノヤウナ資源ニ乏シイ國トシテ、輸出貿易ノ進展ヲ圖ラムト欲スレバ、勢ヒ工藝教育ノ振興ニ對シ、一日タリトモ之ヲ忽セニスルコトハ出來ナイノデアリマスガ故ニ、多年ニ互リ我々ハ先ヅ其ノ指導機關ヲ擴充スル必要ヲ痛感致シマシテ、屢當局ニ要望スル所ガアリ、遂ニ國立工藝指導所ヲ増設セラル、ニ至リマシタルコトハ、先程申上ガマシタ通りデゴザイマス、併シナガラ是ガケデハ恰モ諺ニ謂フ所ノ、佛作ッテ魂ヲ入レナイト云ツタヤウナモノデアリマシテ、本當ニ工藝技術ノ進歩發達ヲ促ス爲ニハ、百尺竿頭一歩ヲ進メテ、大イニ工藝教育ノ振興ヲ圖リ、多數ノ工藝技術者ヲ養成スルコトガ、現下ニ於ケル喫緊ノ急務デアルコトハ勿論、我ガ工業品ニ優秀ナル工藝美ヲ發揮セシメ、更ニ積極的ニ進シテ第三國ニ對シ輸出超過ノ促進ヲ圖リ、工藝雜貨ノ海外進出性ノ増大ニ努メ、須ク我ガ國ノ對外信用ニ對シ飽ク迄モ維持シナクテハナラナイト思フノデアリマス、之ニ依ッテ我ガ國ノ經濟力ヲ培養スル所トナリ、今後ノ長期戰ニ備ヘ、斷乎トシテ此ノ非常時局ヲ突破スルノ大覺悟ヲ極メナケレバナラナイト思フノデアリマス、左レバ工藝教育ノ振興及普及ハ、上述ノ通り我ガ國ノ國力ノ消長ニ影響スル所極メテ重大ナル事柄デアリマスガ故ニ、多年ニ互リ我々ハ之ニ對シ重要性質ヲ強調致シマシタ所以ノモノハ、我ガ國傳統ノ國民的性能ヲ發達培養シテ、其ノ卓越セル技能ニ依ッテ、須ク國富ノ増進ヲ圖リ、以テ工藝奉仕ヲ期セナクテハナラナイト云フ信念ニ外ナラナイノデゴザイマス、政府ハ輸出振興ヲ其ノ政綱中ニ御掲ゲニナッテ居ラル、ヤウニ思ヒマスルガ、ソレナラ

バ殊更、工藝教育振興ノ必要ヲ御認メニナッテ居ラシヤルノデハナカラウカト存ジマス、以上私ガ申上ガマシタ事毎ニ對シ、文相閣下ノ御高見ヲ拜承致シタク存ジマス

〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今ノ御尋ノ工藝教育振興ニ付キマシテ、現在ノ我が國ノ工藝技術教育ハ、專門學校ニ於テ五學科ヲ設ケテ居リマス、府縣ノ中等程度ノ工業學校ニ於テ百八ノ學科ヲ設ケマシテ、此ノ方面ニ於ケル技術者ノ養成ニ努力致シテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ方ニ於テハ只今御述ニナリマシタ如ク、我が國民ノ天賦ノ十分ニ發揮致サセマシテ、之ヲ總テノ工藝ノ上ニ活用致サスルヤウニシテ、獨創ノ各種々工夫ヲサスルヤウナ方針ヲ執ツテ居ル次第デアリマス、併シテナガラ只今御述ニナリマシタ如ク、工藝技術ガ輸出入ノ收支關係ニ大ナル關係ヲ持ッテ居リマス、コレニ鑑ミマシテ、更ニ世界ノ此ノ方面ニ對スル趨勢ニ能ク鑑ミ、又各國民、各國家ノ趣味ヲ能ク斟酌致シマシテ、斯様ナ意味ニ於ケル工業教育ノ進展ニ關シテ、將來一段ノ努力ヲ致シ、更ニ商工省方面トモ連絡ヲ緊密ニ圖リマシテ、今日ノ必要性ニ應ジテ、ソレノ適當ノ處置ヲ執ッテ其ノ振興ヲ圖リタイト存ジテ居ル次第デアリマス、ドウゾ御了承ヲ願ヒマス

○佐々木八十八君 至極簡單デゴザイマス、ルノデ、自席ヨリノ發言ヲ御許シ願ヒタイト存ジマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○佐々木八十八君 只今ハ文相閣下ヨリ、イトモ詳細ヲ極メタル御答辯ヲ辱ウ致シマシタニ對シ感謝ノ意ヲ表シマス、何卒政府ニ於テ之ガ爲ニ能ク善處ヲ爲サレマシテ、之ガ實現スルコトノ一日モ速クナラムコトヲ庶幾シテ私ノ質問ヲ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 二荒伯爵

〔伯爵二荒芳徳君演壇ニ登ル〕

○伯爵二荒芳徳君 會期切迫ノ今日ニ當リマシテ、暫ク時間ヲ頂戴致シマシテ、豫算ノ執行ト云フコトニ付キマシテ、質問ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、問題ハ文部省關係ニ互ルコトガ主デアリマス、又外務省ノ關係ニモ及スト存ジマス、此ノ點御含ミヲ願ッテ置キタイト存ジマス、先ヅ御斷リヲ致シテ置キタイト存ジマス、ハ、昨年文部省ノ補助費ト致シマシテ、日獨青少年交驛ノ費用ト致シマシテ、十萬圓ヲ計上致シタノデアリマス、而シテ委員會ニシテハ詳細ナリ質疑應答ガゴザイマシテ、或團體ヲ特ニ作リマシテ、其ノ團體ヲシテ青少年交驛ノ事業ヲ行ハシメルト云フコトデアッタノデアリマス、凡ソ補助費ナルモノハ、補助ナル、團體ガアツテ初メテ計上サルベキモノデアアルノデアリマス、其ノ團體ガ數箇團體ゴザイマシタノデ、其ノ數箇團體ヲ一括致シマシテ、茲ニ交驛團ト云フモノヲ作ッテ之ニ補助費ヲ與ヘタノデアリマス、從ッテ其ノ補助費ヲ受ケタ交驛團ハ、其ノ補助費ヲ計上サレタ目的ニ從ヒマシテ、能ク之ヲ使フト云フコトガ必要デアアルノデアリマス、然ルニ其ノ補助費ノ使用方法及此ノ補助費ヲ助クル爲ニ更ニ民間カラ集メマシタ所ノ其ノ費用等ニ付キマシテ、不幸ニシテ私ノ見ル所ハ政府當局ノ見ル所ト全ク相反スルモノガアリマス、故ニ、今日ノ如ク多額ノ補助費用ヒマス國家ノ現狀ニ於キマシテハ、ドウシテモ政府ノ御方針ヲ聽キマシテ、之ニ對スル我々ノ心構ヲ致シタイト思フノデアリマス、尙此處デ御斷リヲ申シテ置キタイノハ、此ノ十萬圓竝ニ寄附金ハ萬何千圓ト云フモノノ使途ガ、會計法上ノ見地ヨリ見テ不正デアッタカ、或ハ疑惑ガアルト云フ意味ヲ含ンダモノ

デハ毛頭ナイノデアリマス、又私ノ只今申出マス質問ニ對シテハ、一ツノ行政上ノ方法ノ批判ニモナリマス、或ハ議政壇上ニ於テ問題トスルノハ小サイ事デアアルト云フ御考ヲ御持チニナル方ガアルカモ知レマセズ、此ノ問題ヲ此ノ壇上ニ於テ論ジマスコトハ、實ハ一ツノ例示ニ過ギナイノデアリマス、由來社會教育關係ニ於テハ斯クノ如キ事柄ガ多々アルノデアリマシテ、之ヲ具體的ニ申上ガナレバ問題ノ核心ニ觸レルコトガ出來ナイカラ、已ムヲ得マセヌデソレヲ申上グル所以デアリマス、尙更ニ國民精神ノ根本的ノ原動力ハ、私常ニ申シテ居リマス、ヤウニ社會教育ニ在ルト思フノデアリマス、從ッテ社會教育ノ振興ナルモノハ、國防上實ニ軍備等ニ匹儔スベキト申サムヨリハ、ソレ以上ニ道義的、精神的ノ意味ニ於テ重大性ヲ持ツト思フノデアリマス、故ニ、其ノ中核ヲ衡イテ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、尙最後ニ御斷リ申上ゲタイト存ジマス、近頃官吏獨善ト云フ言葉ガ流行リマス、私ハ斯クノ如キ重大ナル事變下ニ於テハ、種々革新或ハ改善、總テノ整理ト云フモノガ急速ニ行ハレナレバナラヌト思フノデアリマス、從ッテ舊態ヲ維持シテ居ル人々ノ眼カラ見マスレバ、恰モ官吏ガ獨善主義ニ事ヲ運シテ居ルカノ如ク見エラウト思フノデアリマス、故ニ、一面ニハ官吏ノ獨善ヲ我々ハ十分警戒スル必要ガゴザイマス、ガ、他ノ意味ニ於テハ革新ノ企テヲ一概ニ官吏獨善ナリトシテ貶スヤウナ見方ハ、深ク注意ヲ致シテ差控フベキモノダト思フノデアリマス、唯官吏ノ所信ニ適進スル以上、苟モ其處ニ嚴肅ナル批判ヲ加ヘラレタトキニハ、心ヲ慮シシテ其ノ批判ヲ聽キ、サウシテ直チニ次ノ正シキ途ニ蹈ミ進ムト云フ寛容ナ、又眞摯ナル態度ガ必要デアルト思フノデアリマス、斯クノ如キ諸點ヨリ見

マシテ、私ハ今日次ノ質問ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、即チ日獨青少年團交驛ノ費用、十萬圓ナルモノガ與ヘラレマシタ交驛會ハ、數個團體ノ青少年團教育ノ團體デゴザイマシテ、民間カラ更ニ此ノ團體ノ名前ニ於テ八萬數千圓ノ寄付金ヲ仰ギマシテ、日獨青少年團交驛ノ完成致シタノデアリマス、不思議ナコトニハ、此ノ民間カラ得マシタ八萬數千圓ノ寄附金ト云フモノハ、未ダ會テ交驛會ノ理事等ニ於テハ報告サレタコトガナイノデアリマス、同時ニ政府補助ノ十萬圓ト云フモノノ使途ニ付テモ、未ダ會テ其ノ内容ヲ〔副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク〕

交驛會ノ理事ニハ説明サレタコトヲ聞カナイノデアリマス、即チ交驛會ト云フ存在ハゴザイマシタケレドモ、諸費ノ經理、其ノ外重要ナ事項ニ付テハ理事會ト云フモノヲ僅ニ一回開イタバカリデ、此ノ交驛會ノ事業ト云フモノハ、或一人ノ常務理事、而シテ官吏ノ身分ヲ私共ハ非常ナル道義的ノ責任ヲ其ノ人達ガ持ツベキモノデアアルト云フコトヲ申シタイト思フノデアリマス、勿論理事會ハ二回開カレテ居ルノデアリマス、其ノ二回目ハ實ハ交驛事業ノ濟シタ時ニ行ハレマシタ理事會デアリマシテ、交驛事業ノ前ニハ唯一回ノ理事會シカ開カレテ居ラスノデアリマス、御承知ノヤウニ、斯クノ如キ重大ナル國家事業、而シテ國際的ノ影響ノ大キナモノガ、誠ニ輕率ニ誠ニ不用意ニ、而モ專斷ニ依ッテ行ハレタト云フコトニナリマスレバ、將來斯クノ如キ場合ニ、再ビ此ノ轍ヲ踏ムコトアルハ非常ニ悞レルモノデアリマス、而シテ私ハ決算ノ委員會ニ於キマシテ、數字上ノ質問ヲ致スコトハ、勿論十三年度ニ行ハレマシタコトデアリマス、カラ、之ニ付キマシテ其ノ以外ノ點即チ如何ニ交驛會ト云フモノガ出來、如何ニ事

務ガ取り運バレタカト云フコトヲ質問致シマシタノニ對シテ、又不思議ヲ御答辯ヲ得タノデアリマス、**「ドイツ」**ノ青少年團體ハ國家機關ガヤツテ居ルモノデアル、即チ國家ガ中心ニナツテ居ルモノデアルガ故ニ我ガ國ニ於テモ文部省ガ中心ニナツテ居ルモノデアルト云フ御答辯デアッタノデアリマス、是ハ實ニ裁麥ヲ辨ヘナイ答辯デアルト思フノデアリマス、**「ドイツ」**ノ青少年指導廳ナルモノハ、文部省ニモ匹敵スベキヤウナ千人ニ近い役人ヲ使ッテ居リ、其ノ部局ハ十五部局ニ分レテ居リマシテ、中ニハ外交關係ヲ扱フ部局、宣傳ヲ扱フ部局、或ハ教育其ノモノヲ扱フ部局等々ゴザイマシテ、一見龐大ナル一大官省デアルノデアリマス、然ルニ文部省ノ中ニ存在致シマスル所ノ社會教育局ナルモノハ、僅カニ專任八名乃至九名ノ高等官ヲ有シ他ハ屬僚ト致シマシテ二十數人ノ官吏ヲ有スルニ過ギナイ一局内ノ一課デアルノデアリマス、**「ヒットラー」**ニゲントノ團體ガ、國家機關ニ依ッテ行ハレテ居ルガ故ニ、文部省ガ當然此方モ其ノ積リデ國家のニヤルノダト云フヤウナコトハ、内容ト云フコトニ一ツモ注視スルコトナク、全ク獨斷の判斷ニ依ッテ之ガ行ハレタト云フ所ニ、甚ダシキ不聰明ト不用意ガアルト申サナケレバナラヌノデアリマス、斯ク私ガ申シマスコトハ、文部省自身ニ對シテノ非難ヲシテ居ルノデハアリマセス、社會教育局ガドシナ大切ナ役割ヲ此ノ事變下ニ持タナケレバナラヌト云フ點ニ付テ、非常ナル不安ヲ持チマスガ故ニ之ヲ申シテ居ルノデアリマス、又其ノ事務ノ執リ方ニ付テモ、斯クノ如ク文部省ガ直接ニヤルノデアルカラシテ、或官吏ヲ之ニ專屬セシメテ、サウシテ其ノ官吏ガ專ラ之ヲ行フコトニ致シタノデアル、斯ウ云フ説明デアリマス、若シ斯クノ如キコトデアラナラバ、初カラ交離國ナドト云フモノヲ作ルト云フコ

トハ、形式的ニ之ヲ扱フ考デ、文部省自身ガ之ニ當リ、或ハ文部省ノ社會教育局自身ガ之ニ當ルト云フ肚ヲ持ッテ居タコトニナルノデアリマシテ、昨年ノ豫算ノ時ノ質問應答ト云フモノハ、全ク一ツノ方便ニ過ギナカッタト云フ結果ニナルノデアリマス、交離國ハ一ツノ團體デアリ、是ノ意思決定ヲ爲スモノハ理事會ガアルノデアリマス、是ガ唯事務理事會ガアルノ考ニ於テ行ハレルコトスラ適當デハナイノデアリマスルガ、而モ共ノ一常務理事ノ專斷ト云フコトニナリマスレバ、將來非常ナル恐ロシキ結果ヲ生ズルト思フノデアリマス、今年度ニ出シマシタ文部省ノ豫算中ノ補助費タケデモ百七十六萬圓ト云フ多額ノモノヲ計上致シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ多額ノ金ガ先程申スヤウナ事例ニ從ヒマシテ使用サレルト云フコトニナリマスレバ、共ノ結果タルヤドウ云フ恐ロシイモノガアルカト云フコトハ、皆様ノ御想像ニ委セテ御判斷ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、之ヲ要スルノ今後ノ國際的文化事業ト云フモノハ、一支部省ノヤルベキコトデハ決シテナイト思フノデアリマス、他面ニハ外國ノ事情ニ通ジタ外務省ノ部局ガヤラナケレバナリマス、之ガ全國のニ或ハ旅行シ或ハ研究ヲスル爲ニ、其ノ團體ガ動クト云フコトニナリマスレバ、内務省モ亦大キナ役割ヲ持タナケレバナラヌト思フノデアリマス、而シテ文部省ノ今日ノ社會教育局ノ威力ト云フモノハ、地方ノ社會局主事等ニモ十分徹底シナイヤウナ有様デアリマスナラバ、不用意ナ計畫ハ、時ニハ國家ノ體面ヲ傷ツケル、又精神的ニ與フベキ色々ノ糧ヲ、外來ノ賓客ニ與ヘ損ナツテシマウト云フコトハ、總テ國民精神ノ本質ヲモ彼等ニ知悉セシムル機會ヲ逸シテシマフト云フコトニナルノデアリマス、假ニ「オリムピック」大會ガ行ハレタト云フヤウナ場

合デモ、斯ウ云フ一種ノ無氣力ノ失態ト云フモノハ想像サレルト思フノデアリマス、私ハ事ハ小ニ似テ居リマスケレドモ、國家ノ前途ノ爲ニ、斯クノ如キ事ガ今後絶對ニナイコトヲ望ムト同時ニ、今日ノ世ノ中ハ兵力ノ戰爭ヲ一面ニ致シテ居リマスガ、實ハ思想戰ノ戰闘、又精神力ノ戰闘ノ時期ニ入ッテ居ルノデアリマス、其ノ本營デアアル所ノ文部省ガ斯クノ如キ不用意ナ立場ニ立ッテ居ルト云フコトハ、ドウシテモ國防ノ上カラ私共ハ默視シ得ナイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ、一面ニハ文部大臣ノ御決意ヲ伺ヒタイト存ジマスシ、國際問題ノ重要性ニ付キマシテハ、外務大臣ノ御答辯ヲ辱ウシマスナラバ誠ニ幸ト存ズル次第デアリマス

（國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル）
○國務大臣（男爵荒木貞夫君） 只今ニ荒伯爵カラ日獨青少年交離會ノ事務ノ内容ニ關スル即チ理事會ノ運営ニ關シテ適當ナラズト云フ御趣意ノ第一ノ御質問ガアッタノデアリマスルガ、日獨青少年交離會ハ、御承知ノ如ク一昨年ヨリ此ノ問題ガ起リマシテ、文部省ガ主任トナツテ此ノ成果ヲ收メルコトニ、事務ヲ進捗致シタノデアリマシテ、茲ニ交離會ナル一ツノ事務ヲ取扱フベキ組織ヲ作りマシテ、只今御述ニナリマシタ理事會ガ出來ラレテ、此ノ理事會ニ依ッテ總テノ進捗ヲ致シタノデアリマス、其ノ理事會ノ内容、其ノ運営ニ付テ御指摘ノヤウナ點ガアリトセバ、是ハ理事會ニ於ケル問題ト致シマシテ、能ク精査致シマシテ、是等ノ運営ニ誤リナカラシムルヤウニ、ソレノ主任ヲ督勵致スコトニ、御指摘ニ從ッテ謙虛ニ此ノ點ヲ十分研究致シテ、將來誤ナカラシメルヤウニ期シタイト存ジマス、此ノ交離會ハ御承知ノナヤウ徑路ハ取リマシタガ、日獨兩國ノ親善關係、殊ニ其ノ基礎の青少年ノ交離ニ付テハ、多大ノ寄與スル所ガアリマシテ、今後ニ於テモ此ノ交離會ハ更ニ繼續スル必要ヲ認メテ居ルノデアリマス、更ニ日獨文化協定モ成立致シマシタノデ、是等ノ點ニ付キマシテハ、重ネテ日獨ノミナラズ他ノ諸邦トノ間ニ於キマシテモ、文化ノ興隆、之ヲ通ジテノ理解、更ニ心ヨリ民族ノ親善ヲ期スル上ニ付テ、將來更ニ活躍ヲ期セバナラヌト存ズルノデアリマス、之ガ爲ニ只今御指摘ニナリマシタ如ク、今日ノ組織ヲ以テシテハ決シテ十分ハ申シ兼ねルノデアリマシテ、國際文化ノ振興ニ於キマシテハ、各種ノ團體ト共ニ中央機關ト致シマシテ、我ガ國ノ文化、更ニ協定ヲシテ居リマス所ノ各國ノ文化ノ眞髓ヲ五ニ交換ヲ致シマシテ、基礎アル系統ヲ立テテ、我ガ國ノ文化ヲ彼等ニ紹介スル必要ガアリマスノデ、此ノ點ニ付テハ文部省ハ主管省ト致シマシテ、今後モ更ニ是等ノ機關ヲ擴大強化致シマシテ、外務省トノ間ニ是等紹介ノ、又事務進捗ノ緊密ナル連鎖ヲ取ッテ、更ニ其ノ有終ノ美ヲ濟シタイト期シテ居ル次第デアリマス、以上御質問ノ點ニ關シマスル過去ノ經過並ニ將來ノ考ニ付テ御答ヘ申ス次第デアリマス

（國務大臣有田八郎君演壇ニ登ル）
○國務大臣（有田八郎君） 只今ノ二荒伯爵ノ御質問ニ對シマシテハ、文部大臣カラ一應御答辯ガアッタノデアリマス、外務省ト致シマシテハ、從來國際關係ノゴザイマスル問題ニ付キマシテハ、各省トノ間ニ連絡ヲ取り來ッテデアリマス、昨年「ヒットラー・ユーゲント」ノ參リマシタ時ノ狀況ニ付キマシテハ、私詳細承知ヲ致シテ居ラナイノデアリマスガ、或ハ此ノ連絡ニ於テ缺クル所ガアッタノデアアルカトモ存ズルノデアリマスガ、只今文部大臣ノ申サレタヤウニ、日獨ノ間ノ文化協定モ出來、又其ノ他ノ國

トモ是等ノ協定ガ出來ムトシツ、アリマスニ從テ是カラハ益、外國トノ間ノ文化事業ニ對スル提携、各種ノ僱等ガゴザイマスコトト思フノデアリマスガ、是等ノ際ニハ外務省ト致シマシテハ、主管省ト十分ニ連絡ヲ取リマシテ、成績ヲ舉グルコトニ遺憾ノナイヤウニ努メタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○伯爵二荒芳徳君 簡單デゴザイマスカラ、自席カラ發言ヲ御許ヲ願ヒマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 宜シウゴザイマス

○伯爵二荒芳徳君 只今文部大臣、外務大臣ヨリ御答辯ヲ得マシテ満足ニ存ジマス、
「ヒットラー・ユーンゲン」トノ日本訪問ト云フコトハ、其ノ效果ニ於テハ、彼我多大ノ功績ヲ殘シタト存ジテ居リマス、殊ニ「ドイツ」方面ニ於ケル交際團ノ歸國以後ノ活動、即チ日本文化ヲ國內ニ宣傳シテ、實ニ最努力ヲ拂ツテ日本ヲ諒解セシメテ居リマスコトヲ知リマシテ、其ノ效果ハ非常ニ大キカッタト存スルノデアリマス、又我が國內ニ於テモ其ノ效果ハ決シテ少クナカッタト存ジマスガ、先程兩大臣カラ御話ノヤウニ、今後此ノ種ノ企テハ益、起ツテ來ルト思フノデアリマス、從ヒマシテ此ノ事業ノ十分ナル用意ノ下ニ行ハレムコトヲ切望致シマシテ已マナイ次第デアリマス、之ヲ以テマシテ私ノ質問ヲ終リト致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 三上參次君(三上參次君演壇ニ登ル)

○三上參次君 私ハ戰時及戰後ノ國民思想問題ニ付テ、總理大臣、内務大臣ニ、半バハ希望ヲ申上ゲ、半バハ御質問ヲ申上ゲタイト考ヘルノデアリマス、世ノ中ノ泰平ガ續キマスと云フト、或ハ社會ノ狀態ガ固著シマシタリ、又其ノ間ニ色々ノ學說ガ起リナド致シマシテ、矢張り思想問題ガ時々起ルノデアリマス、サウシテソレガ往々世ノ

中ニ大ナル波瀾ヲ起スト云フコトハ、今古東西ノ國々ノ能ク體驗シテ居ル所デアルノデアリマス、況ヤソレガデス、此ノ度ノ如キ國ヲ舉ゲテハ大戰争ト云フ風ナコトニナリマスと云フト、一段サウ云フ心配ハ加ルノデアリマス、大正十二年ノ彼ノ大震災、誠ニ見ルニ忍ビズ、言フニ堪ヘザル大被害デアリマシタケレドモ、之ヲ地方カラ見マスト云フト、尙一地方ノ事デアッタノデアリマス、然ルニ若シ斯カル出來事ガ全國民ノ頭ノ上ニ直接ニ繋ルト云フコトデアッタナラバ、其ノ影響スル所ハ、及ス所ハ如何ニ大キイカト云フコトハ、大抵想像ノ出來ルコトデアラウと思フノデアリマス、アノ震災ノ時デサヘモ可ナリ自暴自棄的ナ考ヲ起シタリ、即チ俗ニ申ス所ノ捨鉢的ノ考ヲ述ベタ者モアツタヤウニ私ハ記憶致シテ居リマス、大戰争ガ續キマスと云フト、之ニ依ツテ一種ノ宗教心ガ強クナッタリ、若シクハ社會ニ迷信ノ程度ガ増スナドト云フコトガ多イノハ、即チ原因ハソコニアルト思フノデアリマス、戰争ニ於テ古來敗北ヲ致シタ所ノ國ハ、其ノ社會ノ機構ガ或ハ變リ、又人情風俗ガ大イニ變ルト云フコトハ、固ヨリ申ス迄モナイ話デアリマスルガ、戰捷ヲ最後ニ占メタ國ニ於テデモ、同様ノコトガ屢ニ是迄繰返サレテ居ルノデアリマス、殊ニ今日ノ我が國ノ事變ノ如ク、當面ノ支那ハ申スニ及バズ、其ノ背面ニハ最モ厭フベキ「ロシア」ノ共產主義ト云フモノガ織込マレテ居ルノデアリマスルガ、此ノ共產主義「ロシア」主義ト云フモノハ、苟モ我が國體ト相容レナイモノデアアル、私共ハ之ヲ不俱戴天ノ仇ト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、ソレガ敵方ニ廻ツテ大イニ腕ヲ揮フテ居ルノデアリマスルカラシテ、我が國ノ上下ノ人ノ之ニ對シテ關心ヲスルト云フコトモ誠ニ尤モナコトデアリマス、申上ゲマスル迄モナク、支那ニ於テハ四五千年ノ昔ヨリ、

或ハ時ニ依ツテハ均產主義ヲ採ル、或ハ共產主義ヲ以テ國ヲ治メル、若シクハソレニ反シテ、全ク自由競争デ、弱肉強食ノ時代、即チ漢詩ニモアリマス通り、一方デハ富王侯ニ等シク、他ニハ立錫ノ地モ有シナイト云フヤウナ不權衡ノ時代ガ出來テ來ル、サウ云フ不權衡ノ時代ガ出來テ來ル、共產主義若シクハ均產主義、ソレガ行詰リマスト、元ノ如ク又自由競争ノ時代ニナルト云フヤウナコトハ、支那ニ於テハヤリ過ギテ居ルノデアリマスルカラシテ、恐ラクハ蔣介石ノ政府ニ於テハ、我々ガ不思議ニ思ヒ、苦痛ニ思フテ居ルコトヲ、彼等ハ歴史ニ考ヘテ、我々ノ先祖ノヤツデ居ル事ヲ繰返シテ居ルカモ知レナイト思フノデアリマス、サウシテ其ノ支那大陸ニ於テサウ云フコトガアリマス度毎ニ、大ナリ小ナリ我が國ニ影響ヲ及シタノデアリマスルガ、其ノ最モ大ナル影響ハ、即チ例ノ大化ノ時デアリマシテ、班田收授ノ法ト云フモノハ即チ均產主義デ、ソレヲ我が國ニ用ヒタガ爲ニ、將來大キナ影響ヲ殘シテ居ルト云フコトハ歴史上一ノツツ大キナ問題ニナツテ居ルコトデアリマス、然ルニ幸ニシテ金匱無缺ノ我が國體ハサウ云フ主義ヲ用ヒタト雖モ、却テ皇威ヲ發揚スルコトコソアレ、我が皇威ヲ毀損スルト云フコトハ少シモナカッタト云フコトハ、我々國民タル者ノ大イニ誇リトシ、喜ブベキ所デアルノデアリマス、處ガ今日ノ共產主義ハ、支那ノ昔用ヒマシタ所ノ共產主義及均產主義ヨリモ、餘程變ツタ油斷ノナラスモノニナツテ居ルト云フコトハ、今更此處デ申上ゲズトモ宜シカラウカト思フノデアリマスケレドモ、私共ハ大化ノ昔ノコトヲ考ヘテ、今日ノコトヲ想ヒマスルト云フト、慄然トシテ膚ニ粟ヲ生ズルヤウナ感じヲ時々致スノデアリマス、申ス迄モナク今日ノ支那ニ於ケル我が國ノ戰争ト云

フモノハ、恐クハサウ云フ禍根ヲ絶ツト云フコトガ戰争ノ目的ノ過半デアルト云フコトモ我々信ジテ居ルノデアリマスルガ、兎角此ノ戰争ト云フモノガアリマスルコト云フト、其ノ戰争ノドサクサ紛レニ、サウ云フ思想ガ入ッテ來ルト云フコトハ、餘程注意ヲ致シマセスト云フト、是迄ニモ例ノアルコトデアッタノデアリマス、政府ニ於キマシテモ、十分其ノ邊ノ御注意ハアッタノデアラウト思ヒマシテ信賴ヲ致シ、感謝ヲ致シテ居リマスルガ、併シナガラ尙昨日デシタカ、今日デシタカノ新聞ニ、黑色「ギヤング」團ガ檢舉サレタトカ、告發サレタトカ、若シクハサウ云フ硬派ノ「ギヤング」デナク、軟派ノ「ギヤング」ノ或印刷物ガ押收セラレタト云フヤウナコトヲ見マスルコト云フト、此ノ上下一致、聖戰ニ從事シテ居ル間ニ於テ、尙我が同胞中ニ斯クノ如キ者ガアルカト云フ感じヲ深ク致スノデアリマス、大體ニ於テ此ノ問題ニ對シテハ政府ニ於テモ十分ニ警戒ヲシ、各方面ニ向ツテソレノ施設ヲシテ下サルコトデアルト信ズルノデアリマスルケレドモ、尙ソレニ關聯シマシタ事柄ニ於キマシテハ、アチラコチラニ多少ノ穴ガアルヤウニ思フノデアリマス、大キナ堤モ蟻ノ穴カラ崩レルト云フヤウナコトガアリマスヤウニ、我々ハサウ云フ點ヲ懸念セズニハ居ラレナイノデアリマス、昔カラシテ德ヲ以テ政ヲスレバ民ガ悅ンデ服スル、法ヲ以テ政ヲスルト云フト民免レテ耻ヅルコトナシト云フコトヲ言ツテ居リマスルガ、今日ノ世ノ中ノ狀態ヲ見マスルコト云フト、甚ダ言ヒタクナイ言葉デアリマスルケレドモ、免レテ耻ヅルコトナシト云フ民ガ餘程マダ多イヤウニ考ヘラレルノデアリマス、私ハ青少年ニ接觸スル機會ガ割合ニ多イノデアリマシテ、彼等ノ心理狀態、思想ナドヲ少シク知ツテ居ル積リデアリマス、又古ク昔ニ遡ツテ之ヲ比較シテ見マスルコト云フ

フモノハ、恐クハサウ云フ禍根ヲ絶ツト云フコトガ戰争ノ目的ノ過半デアルト云フコトモ我々信ジテ居ルノデアリマスルガ、兎角此ノ戰争ト云フモノガアリマスルコト云フト、其ノ戰争ノドサクサ紛レニ、サウ云フ思想ガ入ッテ來ルト云フコトハ、餘程注意ヲ致シマセスト云フト、是迄ニモ例ノアルコトデアッタノデアリマス、政府ニ於キマシテモ、十分其ノ邊ノ御注意ハアッタノデアラウト思ヒマシテ信賴ヲ致シ、感謝ヲ致シテ居リマスルガ、併シナガラ尙昨日デシタカ、今日デシタカノ新聞ニ、黑色「ギヤング」團ガ檢舉サレタトカ、告發サレタトカ、若シクハサウ云フ硬派ノ「ギヤング」デナク、軟派ノ「ギヤング」ノ或印刷物ガ押收セラレタト云フヤウナコトヲ見マスルコト云フト、此ノ上下一致、聖戰ニ從事シテ居ル間ニ於テ、尙我が同胞中ニ斯クノ如キ者ガアルカト云フ感じヲ深ク致スノデアリマス、大體ニ於テ此ノ問題ニ對シテハ政府ニ於テモ十分ニ警戒ヲシ、各方面ニ向ツテソレノ施設ヲシテ下サルコトデアルト信ズルノデアリマスルケレドモ、尙ソレニ關聯シマシタ事柄ニ於キマシテハ、アチラコチラニ多少ノ穴ガアルヤウニ思フノデアリマス、大キナ堤モ蟻ノ穴カラ崩レルト云フヤウナコトガアリマスヤウニ、我々ハサウ云フ點ヲ懸念セズニハ居ラレナイノデアリマス、昔カラシテ德ヲ以テ政ヲスレバ民ガ悅ンデ服スル、法ヲ以テ政ヲスルト云フト民免レテ耻ヅルコトナシト云フコトヲ言ツテ居リマスルガ、今日ノ世ノ中ノ狀態ヲ見マスルコト云フト、甚ダ言ヒタクナイ言葉デアリマスルケレドモ、免レテ耻ヅルコトナシト云フ民ガ餘程マダ多イヤウニ考ヘラレルノデアリマス、私ハ青少年ニ接觸スル機會ガ割合ニ多イノデアリマシテ、彼等ノ心理狀態、思想ナドヲ少シク知ツテ居ル積リデアリマス、又古ク昔ニ遡ツテ之ヲ比較シテ見マスルコト云フ

ト、成ル程斯ウ云フモノデアラウト云フヤ
ウニモ感ズルノデアリマスルガ、今日ノ青
少年ハ法律萬能主義ト個人主義ト云フモノ
ヲ固ク持ッテ居ルト云フコトハ、我々驚クノ
デアリマス、斯ク迄モサウ云フ風ニ固マッ
テ居ルカト云フコトヲ驚クコトガ屢、アルノ
デアリマス、サウ云フ風デアリマスカラシ
テ政府カラ法律ガ雨ノ降ル如クニ出マス、
法案ガ多ク出マスルト云フト、之ニ觸レル
者ガ多クナッテ來マス、從ッテ昨年ノ何月デ
アリマシタカ、判事、檢事ガ一時ニ數十人
増加セラル、ト云フヤウナコトモ出來テ來
ルノデアリマス、是ハ世ノ中ガ進歩シ、社
會ガ複雑ニナルニ從ヒマシテ已ムヲ得ナイ
現象デアリマシテ、判檢事ノ一時ニ數十人
増加ト云フヤウナコトモ、蓋シ其ノ時ニ於
テハ已ムヲ得ナカッタコトデアラウト思フ
デアリマス、併シナガラ政治ノ本ヲ成スモ
ハモウ少シ末ニ走ラズニ、本ニ立還ッテ、
本ヲ正スト云フコトヲシナケレバイケナイ
ノデナカラウカ、私共ノ敬愛シテ居ル平
沼首相ナドハ、平生サウ云フ御考ノ人デア
リマセウと思ヒマスルカラシテ、私ハ是ハ
平沼首相ニ向ッテハ特ニ御註文モシ、サウ云
フ御心持デアラシヤルノデアアルカト云フ
コトヲ確メテ置キタイノデアリマス、今日
屢、地方カラ參ッテ者ナドニ聞キマス所ニ依リ
マスト云フト、此ノ度ノ聖戰ニ於テ支那ヲ
膺懲シ、君國ノ爲ニ身ヲ犠牲ニ供シ、東亞
興隆ノ爲ニ捨シトナッテ亡クナッタ所ノ忠勇
義烈ノ士ハ、實ニ澤山アルノデアリマスル
ガ、其ノ人々ノ遺族ノ間ニ於テ、一時賜金
ヲ繞ッテ甚ダ面白カラザル等ノ起ルコト云
フモノハ、地方ニ依ッテハナカ、多イト云
フコトヲ承ッテデアリマス、而モ其ノ數タ
ルヤ分數ニ於テ甚ダ少クナイト云フコトヲ
承ッテデアリマス、私ハ斯ウ云フコトハ縱
令此ノ壇ニ於テデサヘモ申スコトハ甚ダ
辛イノデアリマシテ、若シサウ云フコトガ第

一線ニ於テ働イテ居ル人ノ耳ニ入り目ニ觸
レマス云フト、此ノ上モナク氣ノ毒ニ感
ズルノデアリマス、若シモ國民ガ、殊ニソ
レ等ノ遺族ノ人々竝ニ親戚、郷黨ノ人々ガ
一般ニ謙讓ノ德ニ富シテ居ッテ、唯法律上ノ
議論ヲシテ、金錢ヲ爭フコト云フ風ナコトガ
ナカッタラバ、左様ナ醜イコトハ見ズシテ
濟ムコトガ出來ルノデナイカト、大變ニ遺憾
ニ思フノデアリマス、サウ云フ場合ニ於テ
遺族竝ニ家族ニ付テ政府ハ固ヨリ十分ナル
御注意ガアリ、御手當ガアルト云フコトデ
アリマセウト存ジマスケレドモ、其ノ上下
トノ間ニハ、ドウモシツクリ取扱ナドガ一致
ヲシナイデ、不平ヲ言ヒ、若シクハ中ニハ
困難ニ陥ッテ居ル人モアルト云フヤウニ聞
イテ居リマスガ、斯ウ云フコトハ或ハ陸軍
大臣ノ御所管ノコトカモ知レマセウガ、私
ハ唯一般ニ總理大臣ニ向ッテ、國民ノ間ニサ
ウ云フ怨嗟ノ聲ガ聞エルト云フコトヲ御耳
ニ入レテ置キタイと思フノデアリマス、又
其ノ遺族ノコトニ付テ關聯シテ申シマスル
ガ、日々ノ官報ヲ見マスルト云フト、數十
人ノ戰死者ノ遺族ガ一時賜金ヲ貰ッテ居ル
辭令ガ出テ居リマス、其ノ中ニハ隨分婦人
ノ名前モ多イノデアリマシテ、殊ニ婦人ノ
名前ノ方ガ多イデアリマセウ、若クシテ寡
婦トナッタ人モアル、處ガ斯ウ云フ氣ノ毒ナ
ル、若クシテ寡婦トナッタ人ノ將來ヲ考ヘテ
見マスルト云フト、是ハ一ツノ社會問題デ
アルノデアリマス、私ハ嘗テ記憶致シテ居
リマスルガ、明治二十七八年戰役ノ時ニ、
或有名ナル官員ガ自分ノ子ヲ戰死サセタ、
若イ未亡人ガソコニ出來タ、茲ニ於テ
其ノ方ハ或時私ニ向ッテ、君、昔カラシ
テ貞女兩夫ニ見エズト云フ言葉ガアル
ガ、アレハドウ云フ意味ノ言葉デアル、
僕ノ近頃ノ研究ノ解釋ニ依ルト云フト、
貞女ハ一時ニ兩夫ニ見エズト云フ解釋デ宜
カラウト云フコトヲ言ハレタ、ソレハ餘リ

ニ寛大過ギル言葉デアル、一時ニ兩夫ニ見
エタラ、ソレハ法律上ノ問題ニモナルコト
デアッテ、當時其ノ説ハ、其ノ方ハ雜誌ニモ
出サレタコトガアル、其ノ方ノサウ云フコ
トヲ言ハレ、サウ云フ説ヲ雜誌ニ發表サレ
タ動機ト云フモノハ、誠ニ同情ニ堪ヘナイ
モノデアッテ、若イ寡婦ヲ此ノ儘ニ宅ニ置ク
ノハ氣ノ毒ダト云フ點カラ、サウ云フ風ニ言
ハレタノデアリマセウガ、其ノ昔ノ言葉ノ解
釋ニ迄持ッテ行カレルト云フコトハ、餘リ寛
大過ギルト云フ風ニ私ハ思ッタノデアリマ
ス、斯カル寛大過ギル思想ノ言葉ト、在來
ノ道德思想トノ對立ト云フモノモ、是カラ
追々現レテ來ルコトデアラウト思フ、武家
時代ノコトデ言ヒマス云フト、御承知ノ
通りニ貞永式目ノ中ニ、人ノ妻妾タル者夫
ヲ讓リテ受ケタ其ノ時ニハ專ラ夫ノ菩提ヲ
弔フベキデアルガ、改メテ他ニ嫁シタ時ニハ、
其ノ領地ハ其ノ當人ハ持ッテ居ルコトガ出
來ナイト云フコトガ原則ニナッテ居ル、ソレ
ハ多少形ガ變リマシタケレドモ、武家時代
ヲ通ジテズツソレガ婦人ノ道德デアリマ
シテ、今日ニ至ル迄堅イ方面デハサウ云フ
コトヲ原則トシテ居ルト云フコトハ御承知
ノ通りデアラウト思フ、處ガ今日ニ於テハ、
一方ニ於テハ餘程軟カクナリ過ギル、寛
大ニナリ過ギル、制裁ガ少クナリ過ギル、
一方ニ於テハ依然トシテ昔ノ道德ヲ成ルタ
ケ守ラウト云フ説ガアリマシテ、政府ニ於テ
モ日本ノ古來ノ醇風美俗ヲ維持シテ行カウ
ト云フ一般ニ付テノ御考デアラウト思フ、
是ハ文部大臣ニハ別ニ御意見ヲ伺フ機會モ
幾ラモアリマスカラシテ、今日ハ御考ヲ伺
フ必要モアリマセウガ、總理大臣ニ於テハ
大體ニ於テサウ云フ古イ醇風美俗ヲ出來ル
ダケ維持シテ行ク御考デアアルカ固ヨリ時代
ニ依ッテ多少ノ變化ハ免レヌト云フコトハ
承知ヲ致シテ居リマス、併シナガラ進ンデ
其ノ醇風美俗ヲ離レタ當世風ノ御考デ、世

ノ中ノ事ヲ律シテ行ク御考デアリマセウカ、
ソコノ所ヲ一ツ伺ヒタイノデアリマス、總
理大臣ノ此ノ御答辯ヲ下サレバ、其ノ一言
ハ世間ノ、是カラ後ニ向ッテノ人心ニ如何ニ
大ナル影響ヲ與ヘルカ、ソレガ根源トナル
カト云フコトニ、私ハ極メテ重キヲ置ク者
デアアルノデアリマス、又一ツは同ジヤウ
ナ性質ノモノデアリマスガ、内務大臣ニ御
伺ヲ致シタイノデアリマスガ、是ハ決シテ
今日ノ内務大臣ノ御關係ニナッタコトデハ
アリマセウ、少シ古イコトデアリマス、或
友人ガ近頃不思議ナ芝居ヲ見タ、ソレハ袈
裟御前ハ貞節ヲ守ッテ居ルコト云フコト
ノ芝居ヲヤッテ居ルト云フコトデアアル、ドウ
モ變ナコトダト思ッテ私ハ態々其ノ芝居ヲ見
ニ行キマシタ、處ガ成ル程袈裟御前ガ一旦
遠藤武者盛遠ノ脅迫ニ遭ッテ其ノ身ヲ許シ
テ、結局ソレノ繼續ヲ強ヒラレタガ爲ニ、
昔ノ傳説ノ通りニ自分ノ身ヲ殺シタト云フ
筋書ニナッテ居ルタノデアリマス、是ハ實ニ
驚イタコトデアリマス、文學者ガ自分ノ構
想ニ依ッテ新シイモノヲ如何様ニ書カウト
モ、是ハ警保局ナドデ御止メニナラヌ限リ
ハ御自由デアリマスガ、苟モ七八百年來我
ガ國ニ於テ貞女ノ鑑トナリ、國民道德ノ龜
鑑トナッテ居ル人ヲ、サウ云フコトニ於テ傷
ツケテシマウト云フコトガ甚ダ怪シカラヌ
コトデアアル、サウ云フコトノ興行ヲ芝居ニ
許サレタト云フコトノ御取締ハ、私ハ當局
者ニ於キマシテモ其ノ責ナシトハ言ハレナ
イト思フノデアリマス、況ヤ其ノ芝居ノ筋
書ハ其ノ人ノ全集ニ載ッテ世ノ中ニ流布サ
レテ居ルト云フコトデアリマス、併シハ
其ノ後、アトカラ其ノ御注意ガアリマシテ、
ソコガ削除セラレテ居ルカ、其ノ儘ニナッテ
居ルカハ存ジマセウガ、兎ニ角サウ云フ事
實ガ一ツアル、ソレデスウ云フ方面ニ向ッテ
ハ矢張り一方黒色「ギヤング」ト云フヤウナ
モノヲ御取締ヲ爲サルト同ジヤウニ、一

方ニ向ツテモサウ云フ軟派ノ「ギヤング」ト私ハ申シテ差支ナカラウト思フ、サウ云フモノニ向ツテモ相當ノ御取締ヲシテ下サレタイト思フノデアリマス、内務大臣果シテ私ノ希望ヲ容レテ下サルデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、殊ニ私ノ憂慮スル所ハ、戰爭中ニハ國民上下一般ガヒドク緊張シテ居リマス、固クナッテ居リマスノハ申スニ及バヌコトデアリマス、併シナガラ一旦戰爭ガ濟ミマスト云フト、久シイ間ノ緊張ノ反動力ト云フモノガ起リマスト云フトハ、是ハ世ノ常ノコトデアリノデス、然ルニデス、不思議ナコトニハ今日ニ於テハ戰爭中ニ於テ、既ニ社會ノ一部分ニ於テハ反動デハアリマセスガ、大イニ其ノ弛緩シタ形勢ノ見エルト云フトコトヲ聞キモシ、新聞雜誌ニ見ルノデアリマス、勿論政府ニ於テハサウ云フ餘裕ノアルモノニ向ツテハ、出來ルダケ貯蓄ヲ獎勵セラレテ居リマスト云フトモ能ク存ジテ居リマス、其ノ外サウ云フ方面ノコトモ講ゼラレテ居ルト云フトモ承知シテ居リマスケレドモ、私ノ眼カラ見マスルト云フト、マダ其處ニ十分ナラザル所ガアルト思フノデアリマス、是ハ私ハ大藏大臣ニ對シテ申スノデハアリマセス、矢張り國政一般ノコトニ於テサウ云フ遺憾ガアリマスト云フトヲ總理大臣ニ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、ソレカラ最後ニモウ一ツ申上ゲテ置キタイコトハ、御承知ノ通り官報ニハ時々彙報欄内ニ褒賞、即チ御褒美ヲ貰フ人名前ガ列舉セラレテアリマス、又ドウカスルト云フト地方行政ト云フ欄ニ旌表、即チ篤行家ガアッテ、之ヲ賞美セラレタト云フコトノ揭示ノ出テ居ルコトガアルノデアリマス、偶、金錢ニ餘裕ノアル人ガ社會事業ニ貢獻スルカ、學校ノ建築費ヲ寄附スルトカ、水難救済ノ爲ニ金ヲ出ストカ、赤十字ノ事業費、滿洲事變ノ義金、學藝獎勵費、

其ノ外有ラユル方面ノコトニ向ツテ金ヲ寄附セラル、ト云フトハ實ニ結構ナコトデアッテ、申ス迄モナク賞讃スベキコト、政府ガ之ニ向ツテ褒賞條例ニ依ツテ紺綬褒章ヲ與ヘ、ソレニ飾版ヲ加ヘテ與ヘラレト云フトハ是ハ當然ノコト、至極結構ナコトデアリマス、金錢ニ餘裕ノアル方ハサウ云フ方面ニ常ニ心ヲ用ヒテ戴キタイノデアリマス、併シナガラ之ニ對シテ地方行政ノ欄ニ出テ居ル所ノ國民ノ篤行表彰ト云フトニ付テハ其ノ割合ガ甚ダ少イヤウニ私ハ感ズルノデアリマス、其ノ數ノ割合ヲ統計的ニ取ツテ申スコトデアリマセスケレドモ、ドウモ少イヤウニ思フ、即チ孝子、義僕、節婦、其ノ外昔カラ孝子傳トカ忠義傳トカ云フヤウナモノニ出テ居ルヤウナ、平和ノ時ニ於テノ最モ國民ノ模範トスベキ、龜鑑トスベキ出來事ニ付テノ政府カラノ注意ガマダモウ少シ足りナイノデヤナカラウカト思フノデアリマス、例ヘバ多クハ毎年ノ紀元節ノ佳節ヲトシテ各地方廳ニ於テサウ云フモノヲ旌表セラレルノデアリマシテ、官報ニハ二月ノ末カラ三月四月頃ニ出ルノデアリマス、中ニハ纖弱キ女ガ永イ間病氣ノ夫ヲ看護シタガ遂ニ亡クナッタ、寡婦トナッタ、併シナガラ尙病メル所ノ舅姑ヲ看護シ、家ノ經濟ヲ計ツテ行ッテ、幼弱ナル子供、娘等ヲ育テテ行クト云フヤウナ艱難辛苦ガ數十年ニ亙ツテ居ル、之ニ依ツテ表彰セラレト云フヤウナ涙グマシイ記事ガ時々出ルノデアリマス、サウ云フトハ之ヲ仕組ンデハ小說ニ致シテモ立派ナモノニモナリマセウシ、或ハ芝居ノ一幕モノニシテモ觀ルベキモノニナルデアラウト感ズルコトガ多イノデアリマス、ケレドモドウ云フモノカ其ノ地方ノ新聞ニハ出ルデアリマセウケレドモ、東京ノ新聞ナドニハ餘リ其ノ事ハ見ナイノデアリマス、或友人ノ新聞記者ノ有名ナル人ニ其ノ事ヲ申シマシタ所ガ、ソレハ官報ニ

出テシマフト云フト、ドウモ「ニュース・ヴァーリニ」ガナイカラネット云フヤウナコトヲ言ハレル、モウアトハ私ハ何モ申シマセスケレドモ、ソレデハ甚ダドウモ物足リナイ感じガ致スノデアリマス、是ハドウ云フヤウナ取扱ニナッテ居ルカ分リマセスケレドモ、學校ヘ「ピアノ」一臺寄附シタト云ツテ褒賞デ取扱フ、サウ云フ孝子、節婦ノアツタ時ニハ地方廳限リデ取扱ハレテ、最モ立派ナル國民ノ龜鑑ガ出テモ、ソレハ地方廳限リノ取扱ニ任シテ中央政府ニ於テハ關知セラレナイノデアリマセウカ、此處ハ私ハ能ク存ジマセスガ、若シソレデアリマスナラバ、私少シ物足ラナク感じルノデアリマス、餘裕ノアル人ガ金錢ヲ寄附シタルト同ジヤウニ、民間ノ如何ナル職業ニ從事シテ居ル者ト雖モ、數十年ノ間忠孝、貞烈、鄉黨ヲ感ゼシメタト云フヤウナコトデアラナラバ、ソレハ同ジヤウニ御取扱下サツテ宜クハナイカト思フノデアリマス、要スルニ私ガ感じマス所ハ、是カラ一方ニ向ツテハ戰時及戰爭ガ濟ミマスト云フト、新シイ思想ガ各方面カラ湧イテ來ルダラウト思フ、即チ貧富ノ懸隔ト云フトモ昔ト違ッテ新シイ形デ現レテ來マセウ、學說デモ新シイ學說ガ又昔ト違ッテ形デ現レテ來ルダラウト思フ、其ノ外色々ノ事ニ付テ人情、風俗ニ付テ、世ノ中ノコトニ付テ殆ド總テニ違ッテ新シイ思想ニ支配サレルモノガ出來テ來ルデアラウト思フ、此ノ際ニ於テ政府ハ出來ルダケ之ヲ適當ニ手綱ヲ御取り下サルコトヲ願ヒタイ、無論悉ク之ヲ阻止スルコトハ出來マスマイケレドモ、又之ヲ悉ク其ノ水ノ低キニ流ル、ガ如ク、世ノ中ノナルガ儘ニ委シテ置クト云フトハ勿論出來ナイコトデアリマセウト思ヒマス、幸ニ現總理大臣ハ平生ノ御思想カラシテ私共トハ大變ニ御共鳴下サル方ト思フノデアリマスガ、果シテサウデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、是

ハ私一人ニ御答ヘ下サルコトガ即チ世ノ中ヲ御指導下サル所以デアリマスカラシテ、御返答ヲ願ヘレバ有難イ仕合セデアリマス、又内務大臣ハ今ノ印刷物ノコトニ付テ一層御注意ヲシテ下サルコトガ出來マセウカ、ドウデセウカ、ソレヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

〔國務大臣男爵平沼驥一郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平沼驥一郎君) 三上君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、御述ニナリマシタ中ニ、御希望ニ屬スル點又御質問ニ屬スル點ト兩様ゴザイマスルガ、併シ之ヲ纏メマシテ御答ヲ致シタイト考ヘマス、最初御述ニナリマシタ泰平ノ續イタ場合ニ色々ナ思想ガ入ッテ世ヲ索スコトモアル、殊ニ此ノ事變ノ後ニハ其ノ憂ガ最も多イヤウデアリマス、現今ノ事態ニ於テ共產主義ノ思想ガ蔓延致シマシテ、我が國民ヲ毒害スルト云フ憂ガアルヤウデアリマス、之ニ對シテハ如何考ヘルカト云フ御趣意ノヤウニ承リマシタガ、固ヨリ三上君ノ御心配ニナリマス點ハ同様ニ心配ヲ致シテ居リマス、御承知ノ如ク斯クノ如キ思想ニ對シマスル是迄ノ取扱方ハ、先ヅ教育ノ方面カラ致シマシテ成ルベク之ニ陷ラスヤウニ、又既ニ之ニカブレマシタ者モ、成ルベク之ヲ改メシムル、尙之ニ服シマセス者ハ之ヲ彈壓スルト云フノガ御承知ノ通りマア大體ノ方針デアリマス、今後ニ於キマシテモ此ノ方針ヲ以テ臨ミマスル積リデゴザイマス、又現今此ノ事變中、殊ニ此ノ取締ハ嚴重ニ致シテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ次ニ政治ハ德ヲ以テ導クト云フトガ本デナケレバナラス、法ヲ以テ臨ミ、刑ヲ以テ齊フルト云フコトデアッテハ、所謂民免レテ恥ナシト、斯ウ云フ事態ニ陷ルノテアルガ、近頃青少年ノ如キ者モ、多ク此ノ法律ト云フトヲノミ考ヘテ居ルヤウデアアル、是ハ三上君ノ

御述ノ通り、大體政治ハ徳ヲ以テ導クト云フコトガ大切デゴザイマス、法モ必要デゴザイマス、唯法律ノミデ治メヨウト致シマスルト、御心配ニナルヤウナ結果ニ相成リマス、近頃青少年ノ、固ヨリ三上君ノ御述ニナリマシタヤウナ思想ノ人モゴザイマセウガ、併シ段々青少年モ日本ノ固有ノ道ヲ尊重スルト云フコトハ、現今ノ青少年ニ於キマシテハ殊ニ能ク心得テ居リマスヤウデゴザイマス、殊ニ地方ノ農村ノ青少年ノ如キハ、最も此ノ點ニ付キマシテ正シイ道ニ進ンデ居ルヤウニ自分ハ考ヘテ居リマス、段々能ク指導シテ参リマスレバ、唯法律ニ獨レナケレバソレデ宜シイト云フヤウナ觀念ハ、段々改メテ參ルコト自分ハ考ヘテ居リマス、又之ニ對シマシテハ教育方面カラ致シマシテ十分ニ指導ヲ致シテ參ル積リデゴザイマス、ソレカラ次ニ具體的ノ事實ヲ御舉ゲニナリマシテ、現今出征將兵ノ戰歿セラレタ人々ノ遺族、之ニ對シテ與ヘラレル所ノ手當、之ニ付テ親族間ニ爭ノ生ズルヤウナコトガアルヤウデアル、是ハ誠ニ憂フベキコトデアル、蓋シ唯一片カラ致シマシテ、其ノ曲直ヲ爭フト云フコトハ善クナイコトデアルト云フ御趣意ノヤウニ承リマシタ、先達テ政府ガ提出致シマシタ人事調停法ノ如キモノモ、此ノ點ニ最も重キヲ置キマシテ、斯クノ如キコトハ法律ニ依ッテ裁クト云フコトデナシニ、成ルベク圓滿ニ總テガ納得シテ解決ノ出來ルヤウニ致シタイト斯ウ云フ考デ居リマス、ソレカラ次ニ我が國ノ醇風美俗ハ嚴格ニ之ヲ維持スル、是ハチヨット私ガ誤解ヲ致シテ居ルカモ知レマセヌガ、戰歿者ノ寡婦ニ對シテ賜ツタ賜金、其ノ他是ハ其ノ家ヲ去リマシタ者ニモ尙與ヘル、斯ウ云フコトハ貞永式目等ニハナイヤウデアルガ、之ヲ與ヘルト云フコトハ餘リ寛大ニ過ギルデハナイカト云フ御趣意ニ承リマシタ、現今左様ニ

ハナッテ居リマセヌデ、其ノ家ヲ去リマスレバ其ノ恩典ニハ與ラスコトニ相成ッテ居リマス、又概括的ニ我が國ノ醇風美俗、之ヲ具體的ニ個々ノコトニ付テ考ヘマスレバ、是ハ古來ノ醇風美俗デアルヤ否ヤト云フコトニ付テハ色々異論ノアルコトモゴザイマセウ、大體醇風美俗ハ是ハ何處迄モ維持スルノガ至當ト考ヘルノデアリマス、一面ニ於テハ舊來ノ陋習ヲ打破スルベキモノト考ヘルハ總テ是ハ維持セラルベキモノト考ヘルノデアアル、併シ個々ノ事項ヲ、是ハ醇風美俗ニ屬スルカ或ハ否ヤト云フコトハ是ハ個個ノ問題ニ付テ決スベキコトト考ヘルノデゴザイマス、其ノ他事項ヲ舉ゲテ御答ヲ致スコトニ致シマシテ、尙漏レマシタ點ハ其ノ後ニ申上ゲルコトニ致シタイト存ジマス

〔國務大臣侯爵木戸幸一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 三上サンノ私ニ對シマスル御尋ハ、芝居ノ脚本ノ取締ニ付テノコトデゴザイマシタ、此ノ問題ハ實ハ私ハ詳シイコトハ承知致シテ居リマセヌノデアリマス、唯御話ノ通りデゴザイマセレバ、即チ歷史上顯著ナル人物ノ事績ヲ殊更歪曲致シマシテ、國民ヲシテ其ノ事績ヲ誤リ認識サセマス云フコトハ、是ハ餘程國民ニ與ヘマス影響ハ大キイノデアリマスカラ、注意ヲ要スルコトデアルト考ヘテ居リマス、事ハ具體的ノ問題デゴザイマスカラ、尙取調ベマシテ善處シタイと思ヒマス、尙三上サンカラノ御尋ノ中ノ孝子、義僕、節婦等ヲ表彰致シマスコトニ付テノ御尋デゴザイマシタ、從來是等ノ孝子、義僕、節婦等ハ、御話ノ通り大體ニ於キマシテ地方長官ニ於テ、紀元節ノ機會ニ於テ表彰ヲ致シテ居ルノデアリマス、併シナガラ御話ノ通り此ノ種ノ表彰ハ、トモスレバ地方的ニノミ傳ヘラレルダケニ止マリマシテ、中

央ニ於テ關心ヲ持タヌト云フ點ニ付テハ御話ノ通りノ缺點ガアルト存ジマス、從ヒマシテ殊ニ此ノ事變下ニ於テ、益、斯ウ云フ方面ノ道義心ヲ涵養致ス必要ガアル際デアリマス、十分此ノ點ハ考慮シタイト考ヘテ居リマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 三上君ニ御尋ネ致シマスガ、御質疑ハ終了致シタモノト認メテ宜シウゴザイマス

○三上參次君 兩大臣ノ御答辯デ満足致シマシタ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 是ニテ休憩致シマス、午後ハ二時ヨリ開會致シマス

午後零時三十七分休憩

午後二時八分開議

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマ

〔丸龜書記官朗讀〕

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

裁判所構成法中改正法律案可決報告書

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ休憩前ニ

引續キ會議ヲ開キマス、本日男爵今國貞君

病氣ニ付名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大

學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關

スル法律案外一件特別委員ヲ辭任致シタイ

旨御申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可スルコ

トニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認

メマス、就キマシテハ男爵沖貞男君ヲ補關

トシテ指名ヲ致シマス、土方寧君

〔土方寧君演壇ニ登ル〕

○土方寧君 從來總理大臣其ノ他ノ國務大

臣ニハソレノ官舎ヲ持チ、且相當多數ノ

巡查ヲシテ其ノ官邸私宅等ニ身邊ノ護衛ヲ

サスコトニナッテ居リマス、之ニ付キマシテ

ハサウ云フ待遇ヲ受ケテ居ラレル方々ノ御

考ハドウデアルカ、多分ソレガ善イトモ惡

イトモ別段ニ今迄御考ニナツタコトハナカラ

ウト思ヒマス、世人モ亦多年ノ慣例デ、サ

ウ云フ事ガ善イカ惡イカ、無駄デハナイカ

ト云フヤウナコトヲ何モ考ヘテ居ラナイダ

ラウカト想像致シマスケレドモ、私ハ官邸

モ護衛ノ巡查モ、二者共ニ無用無益、見ヤ

ウニ依ッテハ有害デアルト豫テ考ヘテ居マス

ノデ、是ハ廢スベキモノト存ジテ居リマス、

ソレニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイ、

先ヅ第一ニ官邸ノコトデアリマス、總理大

臣ニハ別ニ主務官廳ガアリマセヌカラ、無

論サウ云フ總理大臣ノ官邸ハ必要デアリマセウ、ソレカラ又外務大臣モ外交官トノ交際上或ハ必要デアリマセウ、ケレドモ他ノ各大臣ノ官舎ハ全ク無用デアアル、實ハ外務大臣ノ官舎モ同様デアリマス、同ジ構内ニアリマス陸軍大臣ノ官舎トカ、海軍大臣ノ官舎トカハ主務官廳ノ隣ニアリマスカラシテ、是ハ在ル物ハ態、廢スルコトモアリマスマイガ、其ノ他ノ官邸ハ多クハ主務官廳ガ多少ノ距離ヲ隔テアリマス、斯ウ云フ主務官廳ト多少離レタ所ニアル官邸ニ居ラレル大臣ハ主務官廳ニ出動シテ職務ヲ執ラレルコトモアリマセウシ、官邸デ職務ヲ執ラレルコトモアリマセウ、ソレハ各大臣デ色色區々ニナッテ居リマセウガ、主務官廳ニ出動シナイデ、官邸ニ居ッテ事務ヲ見ル時ニハ部下ノ官吏ガ書類ヲ持ッテ主務官廳ト官邸ノ間ヲ往復シマス、其ノ時ヲ浪費スル、今日最も節約ヲ要スル「ガソリン」モ浪費スル、ソレナ不合理ナコトハナイト思ヒマス、私ノ考デハ、各大臣ハ主務官廳ニ出動シテ事務ヲ見ラレルト云フコトニシテ、官邸ヲ設ケナクテモ宜イト思フ、官邸ハ私邸デハアリマセヌガ、兎角官邸デ國務ヲ見ラレルト、公私混淆スルト云フ弊害モ起リ易イノデアリマス、今日銑後ノ國民ハ平時ト違ヒマシテ舉國一致、節約ニ各、分ニ應ジテ奮闘努力シテ居ル時期デアリマス、ソレニ比シマスト

大臣方が官邸ニ居ラレテ、部下ノ官吏ヲ官邸ニ呼付ケテ事務ヲ見ルト云フコトハ如何ニモダラシナイ、緊張味ヲ缺イテ居ルヤウナ風ニ國民ノ腦中ニ映ズルヲラウト思ヒマス、贅澤ダト思ヒマス、ソレデ私ノ考デハ、各大臣方が本當ニ重大ナ時局ニ直面シテ、眞剣味ヲ以テ其ノ職ヲ執ツテ居ラレルト云フコトノ狀況ガ外ニ現レナイ、残念ニ思ヒマス、是ハドウシテモ私ノ考デハ、金ニシマシタラシタコトハアリマセヌ、龐大ナ、未曾有ノ豫算ノ金額ニ比スレバ、官邸ヲ廢シテ浮ク所ノ費用ハ幾ラデモアリマセヌガ、併シテガラ官邸ト主務官廳ト兩方ドチラカデ事務ヲ見ルト云フヤウナ不合理極マル方法ト云フモノハ誠ニ感服シナイト思ヒマスカラ、是ハ全廢スベキダト思ヒマス、ソレカラモウ一ツハ、是ハ總理大臣、各國務大臣ノ外ニモ護衛巡查ヲ附シテ居ルハ、官内大臣トカ、内大臣トカ、其ノ他前官待遇ノ人モアルト思ヒマス、隨分多數アリマス、今ハ總理大臣ト、各國務大臣ハ遞相ト拓相ハ兼任デスカラ十一人カト思ヒマス、總理大臣ノ官邸私邸ヲ警戒スル巡查ノ數ハ幾人カ知ラスガ、十人以上ダト思ヒマス、他ノ大臣ノハソレ程アリマスマイガ、幾人カ能ク知リマセヌガ、マア十人近イダラウト思フ、サウスルト皆合セマスト百何十人ガ十二人ノ大臣ヲ護衛スルコトニナッテ居ルハ、然ルニ東京府内、警視廳管内ニ於ケル巡查ノ保護ヲ受ケル府民ノ割合ハ、數年前ニ聞キマス所デハ一人ノ巡查ガ四五百人ヲ保護スルコトニナッテ居ルト云フコトデアリマシタガ、現在ハ巡查モ多少殖エテ居リマセウ、殊ニ元ノ郡部ニ於テ……、ケレドモ人口ガ更ニ多ク殖エテ居ルカラ、多分巡查一人ガ五六百人ヲ保護スルコトニナッテ居ルダラウト思ヒマス、サウスルト其ノ中ノ百何十人ト云フモノヲ十二人ノ大臣ガ獨占セラレルト云フト、五六萬人ノ府民ヲ保護スベキ

巡查ガ獨占セラレテ居ル、是ガ若シ是等ノ大臣方ヲ保護スル爲ニ必要ナラ仕方アリマセヌガ、今迄ノ例ニ依ッテ見マス、ドウモ一ツモ此ノ護衛巡查ガ用ヲ爲シタ例ハナイヤウデアリマス、東京驛ニ於ケル原、濱口兩君、總理大臣官邸ニ於ケル犬養君、ソレカラ私邸ニ於ケル高橋、齋藤君、官邸ニ於ケル岡田君、是ハ身代リガ出タカラ助カッタト云フノデ、護衛巡查ガ居タガ爲、危害ヲ加ヘラレムトシテソレヲ防止シタ例ハ一ツモアリマセヌ、全ク無駄ニナッテ居ル、ソレモ無理ガナイノデアリマス、斯様ニ申スト警察官ノ方ヲ罵倒スルヤウニ聞エマスケレドモ、決シテサウ云フ譯デハナイ、仕組ガ悪い、若シ或大臣ニ危害ヲ加ヘムトスル人ガ刀劍ヲ以テ斬付ケムトスルナラバ接近シナケレバナラスカラ、接近スル前ニ巡查ガ發見シテソレヲ防止スルコトガ出來マセウ、ソレダカラ彼等ハソナナ凶器ハ持チマセヌ、ピストルデアリマス、型ガ小サイノデ隠シテ持ッテ居レバ分リマセヌ、而モソレハ相當遠方カラ撃テマス、唯近所ニ巡查ガ居ッタカラト云ッテ防ギヤウハナイ譯デアル、之ヲ國防ニ比シテ考ヘマスト云フト、國防ノ大方針ハ、成ルベク本土ヨリ遠方ノ第一線ヲ目標トシナケレバナラスノデアル、然ルニ日本ノ本土以外朝鮮、滿洲、蒙疆等ノ方ノコトハ考ヘナイデ、本土ヲ守ル爲ニ四面海ノ我が本土ニ於キマシテ、海岸ニ多ク要塞ヲ設ケ將兵ヲ置クト同ジヤウナ譯デアル、ドウシテモ國ヲ護ル爲ニハ、成ルベク本國カラ離レテ、遠方デ外敵ヲ喰止メルコトノ方針ヲ執ラナケレバナラスコトハ言フ迄モナイコトデアリマス、ソナナ譯デ保護セムトスル大臣方ノ身邊ニ直接附イテ居リマシテモ、今迄一ツモ目的ヲ達シタコトハアリマセヌカラ、畢竟大臣方ハ皆東京ニ御イデデスカラ、警視廳管内ノ全般ニ互ル所ノ治安維持ヲ護ルヤウナ警察網ト

云フヤウナモノヲ建設スルノガ必要デアル、十一ノ大臣ガ五六萬人ノ分ヲ占有セラレル結果、ソレダケ、警視廳管内全般ニ互ル警察力ト云フモノハ薄弱ニナッテ居ル譯デアル、ソレダカラ警戒ノ目的ヲ達シナイト云フ實況ニナッテ居リマス、是ハ是非廢スルガ宜カラウト思ヒマス、ソレダケ警視廳管内ノ警察ノ取締等ガ行届クコトニナル、之ニ牽聯シマシテ、モウ一ツ伺ヒタイコトハ、東京ノ舊市内十五區内、數多クノ警察署ガアリマス、ソレハ巡查ノ勤務地域ガ定メテ居リマス、處ガ十五區ニ於キマシテハ家賃ガ高イカラシテ、多クハ舊郡部ノ相當遠方ノ家賃ノ安い所ニ住ッテ居ッテ通勤シテ居ルノデアリマス、是デハ警察官ノ能力ガ擧ラヌ譯デアリマス、ソレデ私ノ考デハ麹町區ナラ麹町區、神田區ナラ神田區デ、警察署内ノ勤務巡查ハ其ノ區内ニ、獨身ノ者ハ合宿所デモ設ケテヤル、妻子ノアル者ハ小舎宅ヲ設ケテヤル、無料デ宿泊セシムルト云フヤウナコトニシマスレバ、非番ノ時デアリマシテモ、自分ノ居ル所ノ周圍ノ者ニ始終色々ノ事ガアルノハ見聞シマスシ、妻子ノアル者ナラバ近所ノ者カラ妻子モ色々ノコトヲ聞キマスカラ、其ノ勤務ノ管内ノ事情ニモ能ク通ズルコトニナラウカト思ヒマスカラ、警察ノ能力ガ擧ルト思ヒマス、官舎ヲ廢スル金ハ幾ラ浮クカ知リマセヌガ、多分其ノ金デ警察署内ノ同ジ區内デモ、方々ニ巡查ノ合宅ヲ拵ヘテヤル、待遇ガ誠ニ惡イモノデアリマスカラ、其ノ點ハ今後大イニ考慮スベキコトト思ヒマスカラ、無料デ宿泊サス、幾分彼等ノ境遇ヲ改善スルト云フコトガ必要デアラウト思フ、サウデモシマス、非番ノ時デモ自分ノ住ッテ居ル所ノ地域ノコトハ自然自ツト見聞シマスカラ、其ノ地域ノ事情ガ分ッテ來マスカラ、不心得ノ者ガドウ云フ惡イ事ヲショウト云フヤウナコトガアル時ニ、遠方ニ居ッタ見聞ガ

出來マセヌガ、ソレモ多クノ場合ニハ氣ガ付クコトダラウト思ヒマス、警察ノ能力ガ擧ルコトト思フ、ソレデ私ノ考デハ總理大臣、外務大臣ノ外ノ官舎ヲ全廢スベシ、尤モ海軍大臣、陸軍大臣ハ本省ノ隣ニアリマシテ、大キナ建物ノ一室カラ他ノ室ニ行ク位ノコトデ、時ノ違フ餘計アリマセズ、自動車ニ乗ル必要モナイノデスカラ、是ハ在ルモノダカラ止メル必要ハアリマセヌ、其ノ外ノモノハ主務官廳ト多少ナリ離レタ所ニアル官舎ハ全廢スル、護衛ノ巡查ハ實驗ニ徴シテ少シモ效能ガナイカラ止メテ、其ノ護衛巡查百何十人ト云フモノヲ警視廳管内全體ノ警衛ニ當ラシメル、其ノ方ガ遠方ニ警衛ノ實效ヲ擧ゲルコトニナリハスマイカト思ヒマス、ソレデ此ノ護衛巡查ノ廢止ハ、實ニ私ハ大臣方モ或場合ニハ迷惑ニ思ッテ居ラレダラウト思フ、サウ言ッテハ惡イケレドモ、巡查ガ居ナケレバ何處カハ微行シタイト云フヤウナ時ニ、巡查ガ居ルカラ行ケナイト云フコトガアルカモ分ラナイ、ソレ位ノ效能ハアルカモ知レマセヌガ、外ニハ何モ效能ハナイト思フ、ダカラ是ハ全廢スルト云フトガ、私ノ意見デアリマスガ、此ノ二點ニ付テ總理大臣、内務大臣、治安維持ノコトハ内務大臣ノ主管ノ事務デアリマス、御所見ヲ國民ノ納得スルコトガ出來ルヤウニ、明確ニ御答ヲ願ヒタイ、必要ナラ必要ト云フコトニ付テ……

○國務大臣(石渡莊太郎君) 御答(致シマス、大臣官舎ハ大體ニ於テ無用、無益、寧ろ有害デアルカラ此ノ際止メテハ如何デアラス、斯ウ云フ御尋デアッタヤウデゴザイマス、今日此ノ官舎ノ問題ハ大抵ノ官廳ニ於キマシテ官廳ノ延長トシテ用ヒテ居ルヤウナ譯デゴザイマシテ、一面ニ於テ官舎、一面ニ於テ官廳、斯ウ云フ譯ニナッテ居ルノ

デゴザイマシテ、必要ナ場合ガ多スアルノ
デゴザイマス、又能率上カラ考ヘマシテ有
害デアルト云フヤウナ御話モゴザイマス
ガ、是ハ官邸ト官廳トヲ通ジマシテ能率ノ
舉ルヤウニ十分皆考ヘテ居ルコトデゴザイ
マスノデ、今日ノ場合大臣官舎ヲ大體ニ於
テ廢止スルト云フ考ハ持ッテ居リマセヌデ
ゴザイマス

（國務大臣侯爵木戸幸一君演壇ニ登ル）

○國務大臣（侯爵木戸幸一君） 大臣其他ニ
付ケテ居リマスル護衛ヲ廢シテハドウカト
云フ御尋デゴザイマシタ、御話モアリマシ
タガ、此ノ大臣ニ護衛ヲ附ケマスコトハ、
矢張り附ケラレル方デハ相當却テ迷惑ナト
云フコトハ屢言ハレルノデアリマス、併シ
ナガラ是ハ矢張り警視廳其ノ他警察ノ方カ
ラ見マスト治安ノ關係、殊ニ今日ノヤウナ
時勢トナリマス、相當ニ治安上ノ問題モ
アリマシテ、矢張り警衛シナケレバナラヌ
ヤウナ實情ニアルノデゴザイマス、唯長イ
コト附ケテ居リマス關係デ、或ハ形式ニ流
レルト云フヤウナコトモゴザイマスシ、其
ノヤリ方ニ付キマシテハ又色々ト研究致シ
マス餘地ハアルト存ジマスノデ、ソレ等ニ
付テハ尙篤ト考究シタイト考ヘテ居リマス、
ソレカラ此ノ大官ニ附ケマスル護衛ノ爲ニ
警視廳管内ニ於テ相當ノ手不足ガ出來ハセ
ヌカト云フ御尋デゴザイマシタガ、其ノ點
ニ付キマシテハ警視廳ニ於キマシテハ十分
ノ整備ヲ致シテ居リマスノデ、只今ノ所サ
ウ云フ心配ハナイト考ヘテ居リマス

（國務大臣男爵平沼騏一郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（男爵平沼騏一郎君） 私ノ考モ
御尋デゴザイマシタ、只今大藏大臣、内務
大臣ノ述ベマシタ通りデ、内務大臣モ述ベ
マシタ通り隨分個人トシテハ迷惑ナ人モ必
ズナイトハ申シマセヌ、是ハモウ已ムヲ得
ナイコトト考ヘテ居リマス

（土方寧君演壇ニ登ル）

○土方寧君 只今大藏大臣、内務大臣、總
理大臣カラ御答ヲ得マシタガ、ドウモ何レ
モ私ハ不満足極マルコトデアリマス、大藏
大臣ハ官邸ハ主務官廳ノ延長ダト仰シヤ
ル、成ル程延長ト言ヘバ文字ハサウ言ヘヌ
コトハアリマセヌガ、其ノ延長ニ距離ノア
ル場合ニ依ッテ色々長短ガアルヤウデアリ
マス、延長ト言ッテモ中間ニハ色々ノ住宅ガ
アリマス、ソレ故ニ延長セラレテ居ル官舎
ニ官廳カラ官吏ガ往復スルノニ自動車ニ乗
ル、時モ掛ル、全ク無駄デアリマス、延長
ダト云フ一ツノ御説明デハ私ハ承服出來マ
セヌ、此ノ間答ヲ聽イタノデハ、恐ラク民
衆モ満足スマイト思ヒマス、ケレドモ是
レ以上ハ討論ニナリマスカラ深クハ述ベマ
セヌ、内務大臣ノ御考デハ、大臣方ガ百何
十人モ巡查ヲ獨占セラレテ居ッテモ、警視廳
トシテハ、警視廳管内ノ治安維持ノコトニ
付テハ十分注意シテ居ルト仰シヤイマスケ
レドモ、ドンナニ注意ナサツタ所ガ、百何十
人ト云フモノハ大臣ノ身邊ヲ擁護シテ居ッ
テ、區内ノ全般ノ治安維持ノ任ニ當テ居ナ
イコトハ、數字上爭ハレナイ、ソレダケ警視
廳管内ノ全般ニ互ル警察網ト云フモノガ、
力ガ弱クナツテ居ル、今ノ御説明デハ私ハ承
服出來ナイ、今ノ御答ヲ世人ガ知ツタナラバ
矢張り、尤モト思ハヌダラウト私ハ思ヒマ
ス、是モ討論ニナリマスカラ止シマス、總
理大臣ハ兩大臣ノ言ツタ通りト仰シヤッテ、
總理大臣自身ノ御考ヲ仰シヤイマセヌカラ
何モ申スコトハアリマセヌ、是レ以上ハ
討論ニナリマスカラ申シマセヌガ、此ノ議場
ヲ通ジテ、只今ノ兩大臣ノ御説明ニ依ッテ、
從來ノ通り官舎モ維持シ、護衛モ廢止スル
ト云フコトハシナイト云フコトガ、十分ニ
道理デアルト云フヤウニ考ヘラレルデアラ
ウカドウカ、大イニ疑問デアリマス、私考ヘ
マスノニ、大臣方ガ護衛ガ無ケレバナラヌ

トフ云ノハ實ニ情ナイ、私ノ考ヘテ居ル所
デハ、警視廳管内デモ、全國ノ府縣内デモ、
恐ラク歐米ノ諸文明國ニ比シテ治安維持ノ
點ニ於テハ何モ遜色ハナイト思ヒマス、然
ルニ帝都ニ於テ、大臣ト云フヤウナ高位高
官ノ人ハ特ニ身邊ニ護衛ヲ置カナケレバ危
險ダト云フノナラバ、ソレハ即チ帝都ニ於
ケル警察ノ不行届……

○議長（伯爵松平賴壽君） チョット申上ゲ
マス、質問ニ御止メヲ願ヒタイト思ヒマス

○土方寧君 宜シウゴザイマス、サウ云フ
コトニナルト思ヒマシテ、誠ニ國ノ體面ニ
モ關スルト思フ、見ヤウニ依ッテハ、私ノ考
デハ大臣方ハ危險人物デアアル、危險人物ト
云フトワカシイケレドモ、被危險人物デア
ル、情ナイ話デアアル、私ノ考デハ、サウ云
フ特別ノ護衛ヲ置カナクテモ大事ナイト思
フ、若シ特別ノ事情ガアツタ場合、特定ノ場
合ニ危險ガアルト云フノナラ臨時ニ身邊ヲ
護衛スレバ宜イ、一般ノ場合ニハ廢シテ宜
イト思ヒマス

○議長（伯爵松平賴壽君） 小林嘉平治君
（小林嘉平治君演壇ニ登ル）

○小林嘉平治君 私共ハ今回ノ事變デ色々
ノコトヲ教ヘラレマシタ、獲物ハナカク、
ニ大キイ、第一ニ、我が日本ノ國體ガ如何
ニ有難イカ、我が日本ガ如何ニ有難イ國柄
デアアルカト云フコトヲ今更ノ如クニ體驗サ
シテ戴クコトガ出來マシタ、是ハ私共バカ
リデナイ、今朝、國カラ來タ新聞ヲ見マス
ト、此ノ間「ドイツ」或博士ガ日本ヘ參リマ
シテ御伊勢參リヲ致シマシタ、サウシテ歸
リニ松坂ノ本居宣長翁ノ遺蹟ヲ訪ネ、國ヘ
歸ッテカラ日本ニ於ケル感想談ヲ松坂ノ方
ヘ送ッテ來タ、ソレニ依リマス、日本ニハ
マダ武士道ハ廢ッテ居ナイ、日本ノ強イノハ
ココニアル、斯ウ云フコトヲ書イテ送ッテ
寄越シタノデアリマス、事變前ノ様子ヲ見
マス、日本ノ武士道ハ一體何處ニ在ルノ

カ知ラント心配シタヤウナ……我々自身モ
サウ云フ感じヲ懷イタコトガアル、然ルニ
所謂中外ニ互ッテ、日本ノ國體ガ如何ニ有難
イカト云フコトヲハッキリト認識サセルコ
トガ出來タ、又私ハ今日ノ此ノ豫算會議ニ
臨ミマシテ、今日ノ數字ハ三十三億七億デ
アルガ、次ニ來ルモノハ六十億デアアル、恐
ク百億ニ近イモノガ現レテ來ル、而モマダ
其ノ議案ノ現レナイ中カラシテ、我々ハ此
處デハッキリト全會一致ヲ以テ可決サレマ
スト云フコトヲ明言ガ出來ル、斯ウ云フコ
トヲ言フト皆様カラ御叱リヲ蒙ルカ分ラヌ
ガ、私ハ確信シテ居ル、日本ノ國モ大キク
ナツタモノデアアル、偉イ力ヲ持ツヤウニナ
タモノデアルト云フコトヲ私ハ痛切ニ感ズ
ル、私ハ日清、日露ノ戰役ノ時分ニ八年ハ若
カツタガ、モウ既ニ中學校ヲ卒業シテ居ッ
タ廣島ノアノ議會デ、確カアレハ一億萬圓ノ
戰費デアツタト思フガ、即決可決サレタト云
フコトデ、如何ニ國民ガ且ツ驚キ且ツ歎ン
ダカ、ソナコトヲ考ヘマス、實ニ私ハ
日本ノ國モ大キナモノニナツタ、又底力ノア
ルモノニナツタト云フコトヲ、痛切ニ感ズ
ルデアリマス、併シ油斷ハ大敵デアリマ
ス、午前中ニ三上博士ガ思想問題ニ於テ色
色心配ヲナサツテ、サウシテ政府ニ對シテ
警告ヲ加ヘラレタト云フコトモ誠ニ意義ノ
アルコトデアアル、先程土方博士ノ御説ニ依
レバ、サウ云フ方面モ安心シテ宜イノデ、
大臣ニハ護衛ヲ附ケル必要ナシ、斯ウ云フ
オ感ジヲ持ッテ居ラシヤルヤウデアアルガ、
是モ一ツノ見方デアアル、併シ事變前ニハ斯
ウ云フコトハ言ヘナカッタ、マア何ニシタ
所ガ油斷ハ大敵デアアル、矢張り私共ハ内務
大臣ノ御答辯ヲ尤デアルト聽取ツタ者デア
リマス、コンナ頭デ私共ガ此ノ間ノ衆議院
ニ於ケルアノ農林漁業ノ生産増進ニ關スル
決議案ヲ眺メマス、非常ニ私ハ意義ノ深
イモノガアルト思フ、私ガ今日此ノ問題ヲ

捉へて、此ノ壇上カラ政府ノ決意如何ト云フコトヲ御尋スルノハ茲ニアルノデアリマス、此ノ間各派共同デ提案サレタ決議案ハ斯クノ如クデアリマス、農林漁業ノ生産ヲ増進シ國民生活ノ安定ヲ期スルハ長期聖戰對應ノ絕對的要務ナリ政府ハ速ニ重要農林水産物ノ生産増進ニ關シ生産資材ノ供給、勞働力ノ調整、生産物價格ノ適正並……此處ガ大專ナ所デアリマス、農山漁村部落實行團體ヲ整備強化セシムル等適當ナル施設ヲ徹底シ以テ聖戰目的ノ達成上萬遺憾ナキヲ期スヘシ以上デアリマス、只今此ノ決議案ヲ各位ニ於カレマシテハ如何ニ御覽ニナツカ、私ハ衆議院ニ於テ全會一致ヲ以テ可決セラレタコトモ誠ニ根據ノアルコトモアルト云フ感ジヲ深クサレタコトモ思ヒマス、又現ニ是モ此ノ戰爭ガ始ツテカラ、ハッキリト國民ノ頭ニ植付ケラレタス所ノ、又食糧バカリデハナイ、第一線ニ働イテ居ル所ノ忠勇ナル軍人ノ多數ガ何處カラ出デ居ルカ、又工場地帯デ働イテ居ル所ノ勤勉ナル勞働者ガ何處カラ出デ居ルカ、此ノ人的資源モ悉ク農村カラ出デ居ルト云フテ宜イノデアリマス、此ノ決議案ハ此ノ農村ニ關スル所ノ大イナル問題ヲ解決シヨウト云フノ提案サレタモノデアリマシテ、總理大臣ニ於カレマシテモ、是ハ決シテ農林大臣一人ニ任シテ置イテ宜イ問題デナイト云フコトハ能ク頭ニ刻ンデ居ラレコト心得ルノデアリマス、殊ニ我が首相ハ疾ニ農村ヲ能ク理解サレテ、私共ノ縣農會ガ先年首相ニ、農會ノ樓上ニ掲ゲル額面ヲ一ツ頂戴シタイト云フコトヲ願ヒマシタラ、想ヒ起シマス、其ノ時ニ何ト書カレタカ、培根達枝根ヲ培ヒ枝ニ達スト云フ四字額ヲ頂戴致シマシテ、ソレガ掲ゲテアルノデアリマス、根ト云フノハ一體何デアルカ、首相ハ在野當時カラ常ニ農ハ國ノ基ナリト仰セラレタ、

即チソレデアアルノデアリマス、コンナコトハ申上ゲスデモ宜イノデアアルガ、如何ニ總理大臣ガ在野當時カラ農村ヲ理解シ、如何ニ此ノ問題ヲ解決スルノニ心ヲ碎イテ戴イテ居ルカト云フコトヲ申上ゲル譯デ、從ツテ私ノ是カラ申上ゲルコトハ、必ズ私ハ實現サレルコトヲ深信ジテ居ルノデアリマス、衆議院ニ於キマシテハ私ハ親シク傍聴シテ居リマシタ、此ノ生産資材ノ問題、殊ニ肥料ノ問題ニ力ヲ注イデ、色々ノ註文セラレタノデアリマスルガ、農林大臣ハ茲ニ思フ致サレテ、我々ノ最モ心配シテ居ル此ノ肥料ノ問題ニ付テモ、肥料ハ所謂彈丸デア、戰爭ニ於ケル彈丸デアアルト云フ強イ主張ノ下ニ、モウ既ニ此ノ春ノ肥料ニ向ツテ手當ラシテ戴イタコト云フ責任ノアル御言葉ヲ承リ、私共喜ンデ居ルノデアリマス、又次ニ大イナル、澤山ノ肥料ヲ要シマス其ノ準備ニ付テモ、只今ノ肥料ハ彈丸ナリ、斯ウ云フ思召ノ下ニ、又内閣諸公ニ於カレテモ、陸海軍ノ方々ニ於カレテモ、必ズ此ノ農林大臣ノ提唱ニハ御同意ヲサレテ、次ニ來ル肥料期ノ準備モ必ズ出來ルコトト私ハ信ジテ居ル、又勞働力ノ調整、又生産物價ノ適正ナル維持ト云フコトニ付テモ、相當ノ御心配ヲ下サレテアルコトハ、色々ノ機會ニ承ツテ居ルノデアリマス、併シ私ガ唯一ツ茲ニ心配ニナルコトガアル、不安ヲ感ジテ居ルコトガアルノデアリマス、ソレハ何カト云フト、最後ニ申上ゲマシタ農山漁村部落實行團體ヲ整備強化セシムルト云フ問題デアリマス、此ノ部落ノ實行團體ト云フノハ何デアアルカト云フト、各村ニ農會ガアリマス、ソレヲモウ一ツ掘リ下ゲテ、二三十戸單位ノ組合ヲ拵ヘル、農家組合トカ實行組合トカ名ツケテ居リマス、此ノ組合ニ總テノ農事ノ實行ヲサシテ居ルノデアリマス、又將來愈々其ノ働ヲ強化シヨウト考ヘテ居ルノデアリマス、所謂隣保相助ノ精神ニ基

イテ、此ノ一三十戸單位ノ實行組合ニ依ツテ農事ノ活動ヲ促スコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、此ノ頃農林省ニ於テ生産計畫又肥料ノ配給、勞働力ノ調整ト云フコトニ付テ、色々具體的ノ案ヲ御定メニナツテ居ルガ、此ノ實行組合ノ手ヲ煩ハサズシテハ何事モ出來スコトニ相成ツテ居ル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ參リマス、必ズ當局ハ相當ノ對策ヲ今講ゼラレツ、アルト私ハ信ジテ居リマス、先刻申上ゲタヤウニ深い意義ノアル組合、其ノ數ハドレダケアルカト云ヒマス、凡ソ二十七萬組合ガアル、其ノ數ガ如何ニ多イカト云フコトヲ御考ヘナスデ、又其ノ働キガ如何ニ大事デアアルカト云フコトヲ御考ヘ下スデ、サウシテ此ノ組合ノ活動ノ助成ヲシテ貰ヒタコト云フデアリマス、政府デ餘程才氣張り下スデ、之ヲ二三十萬ノ組合ニ分ケルト云フコトニナリマス云フト、一體ドレダケノ活動資金ニナルカ、茲ニ思フ致サレテ、相當巨額ノ支出ヲシテ貰ヒタイト思フノデアリマス、殊ニ私ハ一昨年ノ議會ノコトヲ想ヒ出シマスガ、或委員會ニ於テ、出征軍人ノ給與ノ問題ニ付キマシテ、官公吏及會社員ノ多數ニハ相當ノ給料ヲ支給シテ居ル、然ルニ農村ノ子弟ニ對シテハ如何ニ扱フ積リデアアルカ、斯ウ云フ質問ヲサレタ方ガアリマス、ソレニ對シテ政府ノ答辯ハ、農村ニハ隣保相助ノ誠ニ美ハシイ風習ガアル、之ニ依ツテ勤勞奉仕ヲヤル、サウシテ此ノ家族ヲ助ケルコトニスルノデアアルコトデアリマシタ、誠ニ結構ナコトデアリマス、農民ハ默々トシテ、此ノ兵役ハ國民ノ一大義務デナリトシテ喜んで征途ニ就イテ居リマス、是ハハッキリ申上ゲテ置キマス、此ノ一大義務ハ決シテ金錢ニ換ヘルコトガ出來ルモノデナイト云フコトヲ能ク承知シテ居リマス、是ハ日本ノ國柄デアアル、併シナガラ今茲ニ隣保相助ノ實行ヲ擧ゲ、勤勞奉仕ヲヤツテ居ル農家組合ニ向ツテ相當ノ援助ヲス

ルト云フ、此處ニ考ガ定マリマスナラバ、思フ此處ニ致サレテ、私ハ相當ノ助成ヲシテ戴キタイト思フノデアリマス、是ハ陸海軍大臣ガイラッシャラナイカラ甚ダ失望致シマスガ、殊ニドウモ政務官モイラッシャラナイヤウデ……一體今日迄ノ豫算總會ト云フモノハ、コンナモノノ議事ノ都合モアリ居ツタ、衆議院ニ於ケル議事ノ都合モアリマセウケレドモ、是ハ各省ノ豫算ガ出デ居ルノデアリマス、是レ以上ハ申上ゲマセヌ……此處ニ思フ致サレテドウカ私共ノ希望ニ副フヤウニ、一ツ御努力アラムコトヲ、幸ニシテ總理大臣、大藏大臣ガ居ラレノデアリマスカラ、何分ニ宜シク御願ヲ申上ゲテ置キマス、尙私ハ勞働力ノ調整ニ付テ一ツノ意見ヲ持ツテ居リマスノデ、此ノ機會ニ併セテ私ハ、是ハ文部大臣ニ聽イテ戴キタイノデアアルガ……幸ニ前文部大臣木戸内相ガイラッシャルコトデモアルシ、シマスノデ御聽キヲ願ヒタイ、此ノ事變以來小農家組合ガ隣保相助デ、出征農家ニ勤勞奉仕ヲ致シテ居リマスガ、其ノ他ニ小學校ノ五六年生以上、又男女ノ中等學校ノ生徒、又專門學校ノ生徒ガ、喜ンデ此ノ勤勞奉仕ニ力ヲ注イデ居ツテ呉レマス、農繁期ニ於ケル所ノ勤勞奉仕ノ有様ハ實ニ涙グマシイモノデアアルノデアリマシテ、私共寫眞ニ撮ツテ、ソレヲ公ニモシ、保存モ致シテ居ルノデアリマスガ、此ノ事ハ生徒ニ與フル所ノ、所謂精神的ノ效果ハ實ニ大キナモノガアルト思ウテ居ル、ソコデ私ハ今斯ウ云フ問題ト結付ケテ、文部省ニ於テ一歩前進シテ……私ハ中等學校以上ノコトハ此處ニ申シマセヌガ、セメテ農村ニアル所ノ、農村ニ百名内外ノ生徒ヲ有シテ居ル所ノ、此ノ高等小學ノ課程ト云フモノニ大イナル改革ヲ加ヘル所ノ意思ナキヤ如何、是デアリマス、今ノ教育ニ缺ケテ居ルモノハ何デアアルカト云フト、所謂心身ノ鍛鍊ト云フモノガ忘レラ

レテ居ル、教育ハ教場デナケレバ出来ヌト
思ッテ居ル、之ヲ一ツ田圃ニ及シテ貰ヒタイ、
所謂勤勞第一主義ノ一ツ教育ヲ始メテ貰ヒ
タイ、斯ウ云フノデアリマス、是ハ私ノミ
ノ考デハナイ、サウ云フ聲ハ以前カラ教育
界ニアル、又今ノ小學ハ幸ニ一組五十名内
外ノ生徒ヲ集メテ居ッデモ、皆個人々々ノ教
育デアル、集團ノ訓練ト云フモノハ出来テ
居ナイ、行ノ教育ト云フモノハ出来テ居ナ
イ、一ツ此ノ機會ニ其ノ集團訓練ヲ施スコ
トニシタラドウカ、若イ生徒ガ勤勞奉仕ヲ
ヤッテ居ル様子ヲ見テモ、實ニドウモ心面白
クヤッテ居ル、此ノ間モ私國ニ歸リマシテ、
郡農會ノ總會ニ臨ンダノデアリマシタガ、
山村ニ於ケル肥料問題ヲ解決スベク堆肥ヲ
拵ヘル、山村ニハ山草ガアル、是ハ今ド
ンノ風ニナッテ居ルカト云フコトヲ其ノ土地
ノ人ニ尋ネマス、澤山其ノ原料ハアルガ、
人夫賃ガ高イ、人手ガ足ラヌ、ソレダカラ
殘念ナガラ堆肥ヲヨウ拵ヘナイデ、其ノ儘
ニ枯ラスコトニナッテ居ル、是ハ農會長ガ言
フノダカラ聞達ヒナイダラウト思フ、誠ニ
殘念デアル、斯ウ云フ機會ニ小學校ノ高等
科以上デ宜シイ、其ノ生徒ニ毎日相當ノ草
刈ヲヤラシテ、サウシテ堆肥ヲ拵ヘサセル
ト云フコトニナッタラ、直チニ目前ニ見
エテ、此ノ聖戰ニ參加スル銃後ノ護リノ
大キナ役目ヲ果スコトニナル、コナナ意味
デ一ツ小學校ノ高等科ノ課程ヲ一ツ改造シ
テ戴クコトハ出来ヌカ、私ハコナナコトヲ
机ノ上デ言フノデアリ、私ノ三重縣ニハ十
年バカリ前カラ此處ニ著眼シテ、隨分文部
省ヤ縣廳カラ叱ラレテモ、規定ノ高等科ノ
課程ハソコ除ケニシテヤッテ居ッタ所ガア
ル、今現ニ公民學校トシテ都市ニ於テモ現
ニ實用教育、作業教育ヲ與ヘテ居ル所ガ、
戰前カラ既ニ出来テ居タ、斯ウ云フ情勢デ
アリマス、今此ノ機會ニ此ノ制度ヲ改メテ
貰フタラドンナモノデアル、斯ウ云フノデア

リマス、私共常ニ縣農會ノ……實ハ會長ヲ
致シテ居ルノデアリマスルガ、技術員ニ斯
ウ云フコトヲ訓シテ居ル、戰時態勢ノ平常
化ト云フコトヲ心得ナクテハイカヌ、不斷
ニ色々理論上、又實際上、是非斯クセナケ
レバナラスコト云フコトガ澤山アツタ、現ニ是
カラ具體的ニ現レテ來ル所ノ肥料配給ノ問
題、其ノ他今農林省ノ將ニ示サレムトスル
アノ種々ノ計畫ハ、不斷カラ分ッテ居ル、ソ
レガ平生ハ實行サレテ居ナカッタ、ソコデ
ヲ戰時態勢ノ下ニ實行スル、併シソレダケ
デハイカヌ、戰時態勢ノ平常化、此ノ戰時
ニ於テ十分ニ習慣付ケタコトヲ、一ツ戰後
ニモ續ケテ行カウデヤナイカ、是デアリマ
ス、私今高等小學ノ課程ノ改革ノ註文ハソ
レデアルノデアリマス、此ノ戰時態勢ノ平
常化ト云フコトハ、所謂禪ノ平常心ニシテ
外ナラヌノデアル、總テノ方面ニシテ心
掛ケルコトニ依ッテ、私ハ此ノ戰爭ガ一層意
義付ケラレルコトニ相成ルト思フ、モウ斯
ウナッテ來タラ、ドレダケ戰爭ガ續イデモ構
ハヌ、戰爭即建設デアリマス、長期ノ建設
デアルノデアリマス、ドウカ今私ノ御願ニ
對シ、又申上ゲタコトニ付テ、總理大臣、
農林大臣、大藏大臣又内務大臣ノ御答辯ヲ
煩ハスコトガ出来レバ大變ニ仕合セニ存ジ
マス、尙私事務局ヘハマダ外ニ質問ノ要綱
ヲ申上ゲテ置キマシタ、ソレハ何デアルカ
ト云フト、町村自治制ノ改正ニ付デアリ
マス、是ハ私ハ此ノ壇上デモ機會アル毎ニ
屢、私ノ持論ハ申上ゲテ居ル、ソレデ此ノ議
會ニ必ズ是ガ出ルト云フコトヲ非常ニ私ハ
期待ヲ有ッテ居タ、現ニ貴族院ニ於テモ事
務局ニ於テ其ノ積リデスウ云フ調査材料ヲ
チヤント、昨日デアッタカ箱ノ中ニ入レテ
居ッテ呉レルヤウナコトデ、非常ニ是ノ改正
案提出ノ見合セニナッタト云フコトハ殘念
ニ思ッテ居リマス、ドウモ新聞ニ發表サレ
テ居ル内務大臣ノ御發表ニハ承服ノ出来ヌ

モノデアリマスガ、丁度事務局デ調べルト、
次ノ山隈サンガ此ノ問題ニ付テ質問ナサレ
ルコトニナッテ居ルサウデアリマシテ、此ノ
問題ハモウ常識トナッテ居ルノデ、山隈サン
ノ御質問ノ要旨モ恐ラク私ト變ライモノ
ガラウ、ソレデ若シ山隈サンノ仰シヤル
コトニ私異議ガアリマシタラバ、質問ヲ
留保サシテ戴キマスガ、山隈サンニ御讓ヲ
致シマシテ私ハ是デ打切ッテ置キマス
〔國務大臣男爵平沼驥一郎君演壇ニ登
ル〕
○國務大臣(男爵平沼驥一郎君) 御答ヲ致
シマス、御述ノ通り農山漁村ノ生産ノ増加
ト云フコトハ、國民生活安定ノ基礎トモ相
成リマスシ、又輸出ノ重要ナ資料トモ相成
ルノデゴザイマスカラシテ、在來之ガ増加
ニ付キマシテハ、極力努力シ來タノデ
ゴザリマス、殊ニ今次事變ノ際ニ於キマシ
テハ、殊ニ其ノ必要ヲ痛感致シマスル次第
デゴザリマスルカラ、先達テノ衆議院ニ於
ケル所ノ決議ノ趣旨ヲ尊重致シマシテ、將
來一層此ノ點ニハ努力致ス積リデゴザリマ
ス、又農山村ノ振興ニ付キマシテ、種々具
體のノコトノ御話モゴザイマシタ、殊ニ今
日行ノ教育ニ依リマシテ、勤勞奉仕並ニ隣
保相親ムノ美風ヲ養成スルト云フコトハ、
最も是ハ大事ナコトデアラウト考ヘテ、此
ノ點ニ付キマシテハ將來深ク留意致ス心底
デゴザリマス、其ノ他種々具體的ノ事柄ニ
付キマシテノ御答ハ、主管大臣ヨリ致スコ
トニ致シマス
〔國務大臣櫻内幸雄君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(櫻内幸雄君) 只今小林君ノ御
質疑ニ對シマシテ御答辯申上ゲマス、先般
衆議院ニ於テ農漁山村生活確保並ニ生産擴
充ニ關スル所ノ決議案ニ對シマシテハ、
我々モ常ニ此ノ問題ニ對シマシテ心ヲ致シ
テ居ル所デアリマシテ、大體其ノ御趣旨ニ
付テハ同感デアアルノデアリマス、今御話ノ

如ク今日ノ戰時下ニ於テ如何ニ長期戰ト相
成リマシテモ、我ガ國民ノ生活ガ毫モ脅威
サレナイト云フ事柄ハ實ニ國土ノ恩惠デア
リマシテ、深ク我々ノ感激スル所デアリマ
ス同時ニ、之ガ生産ニ當ッテ居ル農漁
山村ノ人々ガ如何ニ努力致シテ居ルカト云
フコトニ付キマシテハ、常ニ感謝致シテ居
ル所デアリマス、殊ニ御承知ノ如ク多數ノ
出征將士ヲ出シ、又軍需其ノ他ノ重工業
ニ對シテ多數ノ従業員ヲ出シ、又國際貸借
其ノ他ノ關係上カラシテ肥料ノ手廻リモ十
分ナラズ、馬匹モ徵發サレ、非常ナル困苦
ノ中ニ於テ優ニ平生收穫ヲ致シテ居ルダケ
ノ產物ヲ出シテ居ルト云フ事柄ニ付キマシ
テハ、如何ニ現在ノ農村ガ國家的意識ニ燃
エテ居ルカト云フコトヲ如實ニ示スモノデ
アリマシテ、我々ハ只今小林君ノ御話ニナッ
タ如ク、日本精神ノ發露ガ農村ニ現レテ居
ルモノト感ズルノデアリマス、併シナガラ
今後ニ對シマシテ此隣保相助、勤勞奉仕、
是ダケノ考ヲ以テ將來ノ生産力ノ擴充並ニ
生産ヲ確保致スコトガ出来ルカ否カト云フ
コトニ付キマシテハ、我々深ク考ヘナケレ
バナラス所デアリマシテ、農林當局ト致シ
マシテハ前大臣此ノ方深ク此ノ點ニ付テ研
究考慮致シマシテ、今回ニ於キマシテモ相
當ノ案ヲ立テテ出シテ居ル譯デアリマス、
即チ一面ニ於テハ國民ノ生活安定ニ資スル
ダケノ生産ヲ致シ、一面ニ於テハ國際收支
ノ關係ニ對シテ輸出貿易ニ對シテ非常ナル
貢獻ヲ致スコトヲ云フ見地カラ、輸出ノ大宗
アル所ノ生絲ヲ初メト致シ、水産物其ノ他
ノモノニ付キマシテ輸出増進ニ對スル所ノ
相當ナル案ヲ立テ、本豫算ノ中ニ組込ンデ
提案ヲ致シタ譯デアリマス、併シナガラ今
後ノコトヲ考ヘマス時、單ニ是ダケデ果
シテ確保出來ルカ否カト云フコトヲ考ヘマ
シテ、更ニ一層其ノ生産ヲ確保シ、輸出増
進ニ資スルガ爲ニ近ク案ヲ具シテ更ニ御審

議ヲ煩ハシタイト考ヘテ居ルヤウナ譯デア
リマス、何ニ致セ只今申シタヤウナ種々ナ
ル點ニ於テ困難ガ伴フテ居ルノデアアリマ
ス、故ニ、此ノ對策モ亦種々多様ニ互ツテ居
リマス、又生産物モ單ニ米トカ繭トカ云フ
モノバカリデハナイ、例ヘテ言ヘバ「ガソリ
ン」ノ代用タル所ノ「アルコール」ノ資材デ
アル所ノ甘藷ノ増産ノ如キ、或ハ「ガソリ
ン」ノ代用ノ木炭ノ増産ノ如キ、斯ウ云フ問題モ
伴フテ居ルノデアアリマシテ、此ノ點ニ付キマ
シテハ深く留意ヲ致シテ居ル譯デアリマス、
其ノ具體的方法ヲドウ云フ手段ニ依ツテヤ
ルカト云フ御話デアリマスガ、只今ノ所ハ
各中央カラ府縣、地方町村、之ニ至リマス
迄總テ農村ニ對シテ一定ノ計畫ヲ立テマ
シテ、此ノ計畫ニ依ツテ進シテ行ク方法ヲ
講ジテ居リマス、米穀ノ増産ニ付キマシテ
ハ、或ハ勞働班ノ移動ヲ行ヒ、或ハ機械ノ
共同使用ヲ行ヒ、或ハ螟蟲其ノ他稻熱病ト
申ス如キモノノ害蟲ノ驅除ニ對シテ全力ヲ
注ギ、或ハ冷温床ノ如キモノヲ用ヒマシテ、
冷害地ニ備ヘ、種々難多ナ方法ヲ講ジテ居
リマス、是等ノ問題ニ付キマシテハ、農事
ニ關係ノアル有ルニ團體ノ總動員ヲ致シ
マシテ、即チ農村ノ總力ヲ茲ニ集中ヲ致シ
マシテ、此ノ目的達成ニ努力ヲ致シテ居ル
ヤウナ譯デアリマス、今御話ノ其ノ一番前
線デアアル所ノ農事實行組合、又一面カラ言
ヘバ部落、此ノ部落ノ活動ニ對シテ、相當
ナ考慮ヲ拂フカト云フ風ナ御意見デアリマシ
タガ、此ノ點ニ付キマシテモ相當ノ考ヲ以
テ、今日對案ヲ講ジツ、アル際デアリマス、
勞力ノ不足ヲ補フ點、並ニ肥料ノ缺乏ニ對
シマシテモ、所謂自給肥料ニ對シマシテ力
ヲ注グ點、有ラユル方面ニ付キマシテ、政
府ハ最善ノ努力ヲ致シマシテ、今日ノ此ノ
難局ヲ突破シ、以テ農村將來ノ繁榮ヲ期シ
タイト期シテ居ルヤウナ次第デアリマスガ

故ニ、一應御諒承ヲ願フテ置キタイト思ヒマ
ス

○小林嘉平治君

肝腎ノ財源ヲ有セラル、
大藏大臣ノ一ツ、此ノ際私ノ所見ニ對スル
御批判ヲ仰ギタイト思ヒマス、尙文部大臣
ハ御缺席デアリマスノツ、私ノ速記録ヲ見
テカラ、適當ナ機會ニ一ツ御答辯ヲ得タイ
ト思ヒマス

○國務大臣(石渡莊太郎君) 農産物ノ數量

ノ増加維持、又國際收支ニ關係ノアリマス
ル農産物ノ増産、其ノ他ニ付キマシテ、只
今農林大臣ガ詳細ニ述ベラレタノデアリマ
スガ、大藏省ト致シマシテモ、大體ニ於テ
御同感デゴザイマス、此ノ問題ハ銑後對策
トシマシテ、極メテ緊要ナ問題デゴザイマ
スルノデ、私ト致シマシテモ、出來ルダケ
ノ事ヲ致シタイト存ジテ居リマス

○小林嘉平治君

只今大藏大臣ノ御答辯ヲ
承リマシテ、所謂財源ヲ持テ居ラレル大藏
大臣カラ、只今ノヤウナ御答辯ヲ得マシタ
コトハ、非常ニ私ハ満足ヲ致シマス、先刻
書記官ガチヨットコトラハ見エマシテ、批評
ヲ仰ギタイト云フコトヲ私ガ申シタノハ、
先例ガ餘リナイサウデアリマシテ、私ハ御
答辯ヲ願ヒタイ、斯ウ云フコトデアッタノデ
アリマス、此ノ點訂正ヲ致シテ置キマス、
尙總理大臣及農林大臣ノ御答辯ハ、私ハ信
賴シマシテ、近ク提案サレル所ノ追加豫算
ヲ樂シンデ待ツコトニ致シタイト思ヒマス、
是ハ單ニ私バカリデナイ、此ノ點ニ思フ致
シテ居ル者ハ大イナル期待ヲ致シテ居ルノ
デアリマスカラシテ、何分ニ宜シク御願ヲ
致シマス

○議長(伯耆松平賴壽君)

山隈康君

○山隈康君 内閣總理大臣及内務大臣ニ御
伺ヲ致シタイト存ジマス、地方自治制度ガ
國家ノ根幹デアリ、又其ノ基礎ヲ爲スベキ

モノデアルト云フコトハ今更事新シク述ベ
ル迄モナイコトデアルト存ズルノデアリマ
ス、自治制ガ布カレマシタ以來、産業、教
育、衛生社會、其ノ他國民ノ生活ニ必要ナ
ル施設ニ對シマシテ、各地到ル所充實普及
シ、之ガ爲ニ國運ノ進展興隆ニ寄與シタル
コトノ大ナルコトハ明カナ事實デアリマス、
現ニ明治二十四年度ニ於ケル地方ノ歲出總
計ハ四千三百八十八萬一千圓ニ過ギナカ
タノデアリマスガ、昭和十二年度ノ地方
歲出ノ總計ハ實ニ二十億七千八百九十萬五
千二百九十二圓、丁度僅カナ年月ノ間ニ四
十七倍ノ膨脹ヲ見テ居ルノデアリマス、是
ハ如何ニ地方自治團體ノ活動ガ非常ニ旺盛
デアッタカト云フコト、從ツテ此ノ旺盛ノ爲
ニ我が國運ノ發展興隆ニ偉大ナル力ヲ與
ヘタト云フコトハ、數字ニ依ツテ明白ニ證明ガ
出來テ居ルト思フノデアリマス、東亞新秩
序ノ建設ガ提唱サレマシテ、我が帝國ハ其
ノ指導者トナリ、又中心トナルベキ大使命
ヲ有シテ居リマスル上カラ致シマシテモ、
國家ノ根幹デアアル自治精神ノ振興ヲ圖リ、
自治行政ノ刷新ヲ圖リマシテ、之ニ對應ス
ル覺悟ヲ有スルコトハ、是亦議論ノ餘地ガ
ナイト存ズルノデアリマス、殊ニ此ノ時代
ノ進運ト社會生活ノ複雜化ニ伴ヒマシテ、
現在ノ地方制度ノ上ニ於テ尠ナカラザル缺
陥ヲ見出スニ至ツタノデアリマス、現在ノ制
度ヲ此ノ儘ニ放任致シマスレバ、折角築キ
上ゲマシタル自治ノ地盤ニ龜裂ヲ生ジ、延
イテハ國家ノ基礎ニ緩ミヲ來シハシナイカ
ト云フコトヲ惧ルモノデアリマス、此ノ
地方議會ノ議員ノ選舉自體ニ於キマシテモ、
段々此ノ制度ノ不備ノ爲ニ、議員ノ素質ガ低
下致シマシテ、議場ニ於ケル議論ハ徒ニ無責
任或ハ空漠ナ議論ヲ圖ハジ、此ノ爲ニ其ノ地域
内ニ於ケル有力者、若シクハ德望、經驗學識
アル者ハ、ソレ等ノ者ト伍スルコトヲ潔シトセ
ヌ、此ノ爲ニ地方ノ自治團體ニ住ム相當識見

ノアル人ハ、次第ニ自治ニ對スル關心ヲ失フ
傾向ガ現ニアルノデアリマス、又現在ノ自
治制度ノ上ニ於キマシテ、市町村長ガ職務
執行ノ上ニ付テ何等權限ガナイ、此ノ故ニ
市町村長ガ自治制ノ圓滿ヲ期セムト致シマ
スレバ、執行機關タル此ノ執行機關ノ意思ニ
迎合致シマシテ行クヨリ外ニハ、圓滿ニ自治
制ヲ運行スル方法ハナイ、是等ノ缺陷ニ乘
ジマシテ、色々ナ忌ハシキ策動ガ行ハレ、
更ニ自治制ノ上ニ於テ、醜怪ナル事實ガ續
出スルコトハ諸君ノ御承知ノ通りデアルト
存ズルノデアリマス、恐ラク此ノ裏面ヲ遠
慮ナク爬羅剔抉ヲ致シマシタラバ、或ハ
諸君ノ御承知以上ノ腐敗、色々ナ事實ガ現
ル、コトヲ存ズルモノデアリマス、此ノ
故ニ地方制度ノ改正ニ關シマシテハ、數年
前ヨリ屢々、絶叫サレマシテ、全國ノ町村長
會議、全國ノ市長會議更ニ市會議長會議等
ニ於キマシテ、屢々、此ノ改正ニ關スル決議ヲ
ナシ、政府ニ對シテ其ノ實行ヲ迫ツタコト
ハ、政府モ御承知ノコトヲ存ズルノデアリマ
ス、政府ニ於ケレマシテモ、此ノ現在ノ自
治制ノ弊害ヲ御認メニ相成ツテ、既ニ地方制
度調査會ヲ設ケテ之ニ付議サレマシテ、調
査會ハ數箇月ニ互リ、慎重審議地方制度改
正ノ綱要ヲ決定シテ答申ヲセラレタ次第デ
アリマス、此ノ地方制度ノ改正、町村制ノ
改正、是ハ議會ノ初メ、其ノ後ニ於キマシ
テモ、内務當局ヨリ屢々、本議會ニ提出フスル
ト云フコトヲ御言明ニ相成ツテ居リマス、
殊ニ昨年十二月發行サレマシタル「地方行
政」ト題スル雜誌ニ、内務事務官吉岡惠一
君ガ自ら自己ノ職名ヲ掲ゲテ、サウシテ此
ノ今議會ニ町村制ノ改正案ヲ提出スル旨發
表サレテ居ルモノデアリマス、又先刻渡邊豫
算委員長ヨリモ御話ニナツタ如ク、平沼内閣
ハ近衛内閣ノ延長デアツテ、其ノ政策ヲ踏襲
スル、普段ノ内閣ノ編成等トハ違フテ居ルト
云フコトヲ、屢々、御聲明ニモ相成ツテ居ルノデ

アリマス、此ノ故ニ私共ハ近衛内閣ノ革新政策中、最モ力ヲ入レラレタル地方自治殊ニ町村制ノ改正案ダケハ御提出ニ相成リマシテ、近衛内閣承繼ノ實ヲ示サレルモノト深ク期待シテ居タリマス、昨年東京ニ於ケル全國ノ町村長會議モ矢張り私共ト其ノ感ヲ同ジク致シマシテ、此ノ改正案ガ當然當議會ニ提出サレルモノト云フ期待ノ下ニ、全部殆ド満場一致ニ近キ決議ヲ以チマシテ、此ノ改正案ニ贊同スル意思ヲ表シ、更ニ提案ヲ待チマシテ其ノ通過ヲ圖ル爲ニ、適當ナ機會ニ再度ノ町村會ヲ開催スル豫定ニ相成ツテ居タリマス、斯クノ如ク國民ノ全體ガ此ノ重要ナル改正案ノ提案ヲ期待シ翹望シテ居ル際ニ、案外ニモ突如トシテ此ノ提案ヲ爲サナイト云フ旨ヲ御發表ニ相成リマシテ、私共ハ期待ガ裏切ラレテ殆ド然トシタリマス、昨年四月十七日ノ自治制發布五十年記念式ニ畏多クモ、天皇陛下ノ御親臨ヲ辱ク致シマシテ優渥ナル勅語ヲ賜リ、其ノ御言葉ノ中ニ「益々自治ノ根柢ニ培ヒ以テ國家無疆ノ康福ヲ増進セムコトヲ期セヨ」、此ノ有難キ御言葉ヲ拜シマシテ、私共ハ全力ヲ自治制ノ根柢ニ培ヒ、自治制度ノ改正ヲ行ヒ、サウシテ此ノ有難キ聖旨ニ應ヘ奉ラムト存ジテ居タリマス、然ルニ折角政府ガ提案ヲスルト云フコトヲ御決定ニナツタモノヲ突如トシテ提出ヲシナイト云フ御聲明ニ對シマシテ、私共ハ實ニ痛恨措ク能ハザルモノガアリマス、政府ガ未提出ノ理由トシテ仰セラレル所ニ依リマスルト、法案中ニ若干ノ不備ノ點ヲ發見シタ、又町村制ノ改正案ハ市制、府縣制、是ト同時ニ提案スルノ必要ヲ認メタト云フ御聲明ニ相成テ居リマス、甚ダ言葉ガ穩當デナイカモ知レマセスガ、率直ニ申述ベマスレバ、是ハ政府ガ世間ヲ裝フ御言葉デアツテ、眞ニ御提出ヲサレナカッタ理由ハ別ニアルンデヤナイ

カ、是亦不遠慮ニ申述ベマスレバ、或一部ノ反對、詳シクハ申述ベマス、或一部ノ反對ノ氣勢ニ押サレテ、所謂相剋摩擦ヲ惧レタル爲ニ、政府ノ腰ガ碎ケラレテ、提出ヲ見合ハスルノ已ムナキニ至ツタト云フ疑ヲ國民ハ懷イテ居リマス、非常時局ニ際シマシテ、私共ハ首相ノ仰セノ如ク、總親和總協力ノ趣旨ニ基キ、飽迄現政府ヲ支持シ、現政府ト協力一致致シマシテ、東亞新秩序建設ニ邁進セムト存ジテ居タリマス、然ルニ折角出シタ重大ナル法案ヲ中途突如トシテ提案ヲシナイ其ノ態度ニ對シマシテハ、頗ル國民ハ不安ガアリマス、政府ノ方針、政府ノ力、政府ノ態度ニ對シテ非常ナル不安ガアリマス、ソレハ一面ニハ、豫テ平沼首相ノ御人格、手腕、平生ノ主張カラ致シマシテ、所信ニ邁進セラレル堅キ決意ヲ有シテ居ルト云フコトニ對シテ、私共ハ常ニ首相ヲ尊敬シテ居タリマス、ソレニ非ニ常ニ裏切ラレタ感ガアリマス、若シ政府ノ態度ニ疑ヲ懷キ、信任ヲ缺クガ如キコトガアリトセバ、此ノ非常時局ノ上ニ於キマシテ由々敷コトナリト存ズル者デアリマス、此ノ改正案ハ、先刻來申述ベマスル如ク、地方制度調査會有力ナ方ガ集テ、數箇月ニ互リテ慎重審議ヲサレ、又政府殊ニ内務省デハ、自治制ニ對スル弊害、缺點ハ多年ノ經驗ニ依ツテ十二分ニ御承知ニ相成ツテ居ル筈デアリマス、又之ヲ矯正スル爲ニ、如何ナル態度ニ依ルベキカト云フコトモ普段研究シ盡サレテ居ルベキ筈デアリマス、ソレニ今ニナツテ俄カニ、出來上ツタ成案ニ不滿ノ點ガアリト云フ御聲明、更ニ當初ハ府縣制度及市制ハ次ノ議會ニ提出ヲスル、併シナガラ町村制ノ改正案ハ本議會ニ提出ヲスルト云フ肚ヲ極メ、他ニ之ヲ表明シ、之ニ關スル一切ノ準備モ整ヘテ居リナガラ、今ニナツテ府縣制若シクハ市制ト同時デナケレバイケナイ、此ノ釋明ニ對シテハ何トモ國

民ハ諒解ガ出來マセス、サウ云フ簡單ナ理由デ、折角決心ヲサレタ改正案ノ提出ヲ見合ハセラレタル理由トシテハ、何トシテモ受取りニクイ、デ私ハ此ノ際、政府ハ成案ヲ得タル改正案中ドノ點ニ付テドウ云フ缺點ヲ發見シタ、故ニ更ニ再考ヲ要スルモノデアル、又當初ハ府縣制、市制ト離シテ單獨ニ町村制ヲ提案スル覺悟デアツタガ、是非ガ府縣制若シクハ市制ト同時デナケレバイケナイト云フ理由ヲ御見出シニナツタナラバ、其ノ理由、之ヲ明白ニ率直ニ御説明ニ相成リマシテ、國民ノ疑ヲ解クト云フコトハ政府ノ當然ノ責務ダト思フノデアリマス、私共ハ既ニ政府ガ改正案ノ提案ヲ御見合セニ相成リマシタル現時ニ於テ、尙會期切迫ノ今日ニ於テ、町村制改正案ノ提出ヲ迫ル者デアリマセス、併シ此處デ政府ノ言明ヲ得タイト思ヒマスルコトハ、地方制度調査會決定セラレタル綱領、是ハ一旦政府ノ方デハ其ノ綱領ヲ御採入レニナツテ居ルヤウデアリマス、デ此ノ綱領ニ基キ、百難ヲ排シ敢然トシテ所信ニ邁進セラレベキ御決意ガアルカドウカ、他ノ色ナナ反對障礙、其ノ爲ニヘコタレルヤウナコトガナイカ、ドウカ、更ニ其ノ決心ヲ以テ次ノ議會ニ府縣制、市制ト共ニ町村制ノ改正案ヲ御提出ニナル御決意ガアルカト云フコトヲ明白ニ承リタイト存ジマス、次ニ御伺ヒシタイコトハ國家ノ事業、之ヲ地方ニ御經營ニ相成リマスル場合、ドウモ近來其ノ國家ノ施設經營ニ關シ設備費ノ幾分ヲ寄附セヨ、敷地ヲ提供セヨ、斯ウ云フヤウナコトガ段々多クナツテ居リマス、國家直接ノ事業ノ施設ガ中央タルト地方タルト問ハズ、苟モ國營事業デアル以上ハ總テ國費ヲ以テ支辨セラレルト云フコトガ、是ハモウ無論當然ノ事デアルト存ズルノデアリマス、政府ハ是等ノ事業ヲ計畫セラレマスル場合ニハ、其ノ建設設備費及敷地、經營ノ費用、之ニ關ス

ル一切ノ經費ヲ御計上ニナルコトハ勿論ノコトデアリマス、經費ノ出所モ考ヘズ、事業ノ施設ヲナサルベキコトハアリ得ナイコト存ズルノデアリマス、近來私ハ殊ニ甚ダシク感ジマスルコトハ、國家ノ經營ニ關スル學校即チ大學、工業學校、斯ウ云フモノノ施設ニ對シマシテモ、矢張り土地ノ提供ヲセヨトカ、或ハ建設費ノ若干ヲ寄附セヨト云フヤウナコトヲ示唆セラレルバカリデナク、明カニ要求セラレルコトガアリマス、是ハ若シ政府ノ方デ實例ヲ示セト云フ御言葉ガアツタナラバ、私ノ直接ニ關係致シマシタル實例ヲ四五申上ゲルコトハ差支アリマセス、併シ是ハ恐ラク政府モ御承知ノコトト存ジマスカラ、實例ヲ舉ゲマスコトダケハ差控ヘタイト存ジマス、是等ノ國家事業ノ施設ハ地方ニ繁榮ヲ招來スルモノデアリマスカラ、地方民ハ極メテ熱意ヲ以テ其ノ事業ノ施設ヲ誘致シタイト云フ、熱意ニ溢レテ居リマス、從ツテ地方ノ公共團體ハ地方民ノ熱意ヲ體シマシテ、假令誘致ノ見込ナキモノデモ、大體誘致ノ見込ハ困難ダト云フ場合デモ、地方民ノ熱意ニ動かサレマシテ、運動員ヲ動員致シマシテ數回、數十回政府ニ對シテ陳情、御相談ヲスル、政府ノ當局デモ事務御繁多ノ際ニ、澤山ノ地方運動員ガ來テ、種々ノ陳情ヲ申上ゲルコトハ相當御迷惑ノコトト存ズルノデアリマス、唯地方ト致シマシテハ今申上ゲマスル如ク、若干ノ運動ノ費用ヲ投ジ、又物資ヲ提供ヲ致シマシテモ、將來ノ其ノ土地ノ繁榮ヲ招來スルコトヲ考ヘマスレバ放ツテ置ケナイ、矢張り是ハ誘致シテ目的ヲ達シ得ベキ場合ニ於テハ、運動モ已ムヲ得ナイ事柄デアルト思フノデアリマス、唯私共ガ非常ニ心配ヲスルノハ、國家ノ事業ハ國策ノ上カラシテ其ノ經營ニ關スル方法モ、亦設置ノ場所ノ計畫モ、當初ニ於テ決定サルベキモノデアル、

ソレヲ誘致運動ノ巧妙、不巧妙、或ハ物資提供ノ多少、有無ニ依ッテ設置ノ箇所ヲ變更セラル、ガ如キ思フ國民ニ懷カシムル、是ハ私ハ現今叫バレマス所ノ綱紀肅正ノ上カラ致シマシテモ、大イニ自肅ヲ望ムベキコトデハナイカト思フノデアリマス、現ニ私共ノ直接ニ關係スル所ニ依リマスルト、ドウモ君ノ方ノ地方ハ熱ガ足ラヌ、皆提供シロ、何トカ考ヘロ、無條件デヤイカヌト、斯ウ云フコトヲ御話ニナルノデアリマス、斯ウ云フ爲ニ運動ガ彌ガ上ニモ猛烈ニ起ル、私共ハ地方ヲ代表シテ運動ニ参リマスルト、省内デ各種ノ運動員ト鉢合セマス、國家ノ事業、國策ノ上ニ立ツベキ仕事、ソレヲ地方ノ運動ニ依ッテ彼此スルト云フヤウナコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ思フ次第デアリマス、現今ノ市町村ハ國家ノ委任事項ガ段々ト増加致シマシテ、之ニ要スル經費ガ激増ヲ致シマシテ、地方ノ負擔ノ上ニ於キマシテ相當困窮ヲ極メテ居リマス、政府ノ方デハ是等ノ事情カラ致シマシテ、地方交付金ノ制度ヲ設ケラレテ、地方財政ノ困難ヲ補給セラレトナシツ、アル際、國家直接ノ經營ニ對シテ更ニ負擔ノ増加ヲシ、財政ニ重壓ヲ受ケシムルト云フコトハ、大體受益者負擔法ト云フ法律トカ、其ノ他特別ノ命令ニ基ク場合ハ無論是ハ問題ナイ、サウデナイ場合、一般ノ國費ヲ以テ支辨スベキ場合ハ、其ノ國費ノ輕減ヲ圖ラムガ爲ニ地方ニ物資ヲ提供、負擔ヲ分タシムル如キコト、又ソレニ依ッテ政府ノ設置箇所其ノ他ノモノニ依ッテ變更サレル、左右サレルト云フヤウナコトハ、段々近時サウ云フ傾向ガ著シクナルノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ承リタイト存ジマス、率直ニ申上ガマスレバ、只今斯様ナ質問ヲ致シマシテモ、私地方ニ歸リ、何カ國家ノ施設ヲ聞及ビマスレバ、政府ガ儼タル國策ノ上ニ、國家ノ經營ニ屬スルモノハ地方ノ運動ニ

依ッテ左右スルモノニ非ズト云フ嚴然タル御辯明ガナイ限りハ、矢張り私共ハ地方ヲ代表致シマシテ、御迷惑デモ相變ラズ陳情ノ爲ニ運動ニ來ネバナラス實際ノ事情デアリマス、第三ニ御尋ネシタイ、是ハ政府ノ方デ御理由ヲ御持チニナッテ居ルと思ヒマスガ、何ダカ近時ノ政治ノ行キ方ハ、地方自治ハ段々ト官治ニ移ル傾向ガアリハシナイカ、第一ハ職業紹介所ノ如キ、是モ從來市町村デアッタモノガ國營ニナル、必ズシモ私ハ之ニ反對シマセヌ、併シナガラ一面國營ニナッテ其ノ費用ノ若干ハ矢張り地方ノ負擔デアル、更ニ近來防護團ト消防ト合セテ警防團ト云フ組織ノ勅令ガ下リマシテ、此ノ警防團ノ實施後ニ於テハ、無論市町村ノ協力ヲ以テスル趣旨ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、其ノ組織其ノ他ニ對シテハ縣警察部ノ專權ニ屬シテ居ル、如何ナル區域ニ何ボ造リ、人員ハ幾ラニスル、被服ハドウスル、斯ウ云フコトハ一切警察ノ權限ニ屬シテ、市町村長ハ之ニ容喙スル權限ヲ持タナイ、ソレハ人情ノアル縣當局デハ非公式ニ市ノ意見ヲ聽ク場合モアリマスケレドモ、全然是ニハ市ニ權利ガナイ、サウシテ權利ハナクシテ義務ハ負擔シナケレバナラス、是ハ斯ウ云フ種類ノコトハ、澤山別ニ例ガアルヤウデアリマス、是等ノ政策ソレ自體ニ對シテ當否ヲ私ハ云爲スルモノデハナイノデアリマスガ、何トナク初ニ申述ベマシタル如ク、自治ガ官營ニ移行致シマシテ、自治ノ根柢ヲ培フトハ正反對ニ、段々自治ノ根柢ガ一本々切抜カレテ、漸次自治ト云フ精神、自治ト云フ制度ガナクナッテ來ル傾向ガナイカト思フノデアリマス、畏多クモ先刻援用シ奉リマシタル御勅語ニ、「自治ノ根柢ニ培ヒ以テ國家無疆ノ幸福ヲ増進セムコトヲ期セヨ」ト云フ勅語ヲ拜シマシタル私共自治國民ハ、是等ノ情勢ニ對シテ甚ダ遺憾ヲ禁ジ能ハナイノ

デアリマス、此ノ點ニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス、
〔國務大臣男爵平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平沼騏一郎君) 御答ヲ致シマス、政府ハ何故ニ町村制ヲ今議會ニ提出ラシナイカト云フコトガ第一ノ御質問デアリマス、是ハ他ニ理由ハゴザリマセヌ、只今市制、府縣制、他ノ自治制トノ牽聯スル問題ガゴザリマス、之ニ對シマシテ更ニ檢討ヲ致シマシテ、然後ニ提出スル考デゴザリマス、決シテ市町村制ノ提出ヲ止メタト云フコトデハゴザリマセヌカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、次ノ御尋ハ、近頃國家ノ施設ニ付テ地方カラ物ノ供給ヲサセル、斯ウ云フコトハ宜シクナイデハナイカト云フ御趣意ノヤウデアリマシタガ、固ヨリ國家ノ事業ニ付キマシテ、之ヲ設クベキ所ノ地方カラシテ土地其ノ他ノ物ヲ供給スルト云フコトハ、必ズ是ハ惡イトハ申サレマセヌ、併シナガラ之ガ爲ニ或ハ無用ノ競争ヲ惹キ起ス、其ノ他弊害ヲ生ズルヤウナコトガアッテハ是ハナリマセヌカラ、是等ノ點ニ付キマシテハ十分注意ヲ致ス考デゴザイマス、ソレカラ第三ノ御質問ハ、段々ニ町村ノ自治ニ屬スベキ範圍ガ官營ニ移ル傾向ガアルガドウカ、固ヨリ此ノ地方自治ニ屬スベキ範圍ト、國營ニ屬スベキ範圍トニ付キマシテハ、或ハ時ニ其ノ廣狹ニ付キマシテ差異ヲ生ズルコトハ固ヨリ存スルコトデゴザイマスガ、之ガ爲ニ地方ノ自治ノ根柢ニ動搖ヲ來スト云フヤウナコトガアッテハ是ハナリマセヌカラ、其ノ點ニ付テハ固ヨリ注意ヲ致サナケレバナリマセヌ、併シ必ズシモ今日地方ノ自治ノ區域ニ屬スルコトヲ國營ニ移シマシテ、之ガ爲ニ自治ノ根柢ニ動搖ヲ來スト云フヤウナコトハ、今日ハ決シテナイ考デゴザイマス
〔國務大臣侯爵木戸幸一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 御答ヲ致シマス、第一ノ御尋ノ町村制ノ提案ヲ本議會ニ見合セマシタコトニ付キマシテハ、先程總理大臣ヨリ御答辯ガゴザイマシタ趣旨以外ニ何等ノ理由ハナイノデアリマス、而シテ内務省ト致シマシテモ、此ノ自治制度ノ刷新ヲ致シマシテ、自治精神ノ振興ヲ圖ルト云フコトニハ、勿論熱心ニ努力致サナケレバナラスノデアリマシテ、其ノ意味ニ於キマシテ成ルベク速カニ市制、町村制、府縣制等ニ互リマシテ考究ヲ遂ゲマシテ、自治制度全般ニ關スル方針ガ決定致シマシタル上ハ、速カニ法案ヲ提出スル考デ居リマス、ソレカラ第二ノ御尋ノ點デゴザイマスガ、大體總理大臣ヨリモ御答辯ガアリマシタノデ、殆ド盡キテ居ルノデアリマス、地方ニ於キマシテ色々ノ國家ノ施設事業ガ出來マス場合ニ、其ノ施設事業等ガ矢張り地方ニ相當ノ利益ヲ與ヘマスヤウナ關係上、地方ニ於キマシテ自由ニ、自發的ニ寄附其ノ他ガ行ハレマスコトハ、是ハ必ズシモ不適當トハ考ヘテ居リマセヌ、併シナガラ時ニ依リマス、只今御話ノヤウナ、何カ其ノ物資、資材等ヲ提供スルト云フコト、ガ、條件ニナリマシテ、其ノ設置ノ位置等迄ガ動クト、斯ウ云フコトニナリマス、ソレハ甚ダ行過ギデモアルノデアリマシテ、ソレ等ニ付テハ十分是正シテ行カナケレバナラスト考ヘテ居リマス、ソレカラ第三ノ御尋ノ、地方ノ自治ガ段々官治ノ傾向ヲ持ツデヤナイカト云フ御尋デアリマシタ、是ハ偶、此ノ非常時局ニ於キマシテ、例ハ警防團デアルトカ、或ハ職業紹介所デアルトカ、是ハ何レモ此ノ時局ノ當面ノ問題ト致シマシテ、防空ノ如キ、又多數ノ職業人ノ移動、紹介、是ハ全國的ニヤラナケレバナラスヤウ狀態ニアルノデアリマシテ、サウ云フ意味カラ致シマシテ之ヲ國營ト致シタヤウナ次第デアリマス、從ヒマシテ此ノ

非常時局ニ於キマシテハ偶、サウ云フ現象ガ起テ居リマスガ、根本ニ於キマシテ自治制度ノ根柢ヲ搖ガスト云フヤウナ施設、考ヘ等ハ政府トシテハ持ッテ居リマセヌ、其ノ點ニ付テハ十分將來トモ戒心シテ、地方ノ自治制度、官治ト云フコトガ紛淆致サヌヤウニ心掛ケナケレバナラヌト考ヘテ居リマス

○山隈康君 簡單デゴザイマスカラ自席カラ御許シテ願ヒマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○山隈康君 只今總理大臣並ニ内務大臣ノ御答辯ハ、私ノ主トシテ伺ハムトスル趣旨ヨリ稍、離レタル感ガアリマス、併シ今日ノ政府トシテソレ以上ノ御答辯ハ御困難ダト拜察致シマスノデ、是レ以上ハ差控ヘマス、唯自治制ノ刷新改善等ニ關シテハ、極メテ内務當局デモ御熱心ト云フコトヲ拜聴致シマシテ、ドウカ明年度、今迄數年間ノ問題デアリマスカラ、相當ニ研究ハ、成ツテ居ルモノト存ズルノデアリマス、是非明年度ニ於テ三案一緒ニ御提案アラムコトヲ切望致シマシテ私ノ質問ヲ打切りマス

(有吉忠一君演壇ニ登ル)

○有吉忠一君 今朝私共ハ渡邊豫算委員長ヨリ豫算委員會ニ於ケル報告ヲ清聴致シマシテ、政府ガ昭和十四年度總豫算ニ對シテ織込シテ居リマスル政策ノ大綱ハ之ヲ了承致シタノデゴザイマス、サレバ最早私モ是等ノ點ニ付テ政府ニ質問スル意思ハゴザイマセヌガ、最近起リマシタル事實ニ付キマシテ、國民ノ間ニ多少ノ惑ヒヲ生ジ、是ガ國家ノ上ニ餘リ好イ影響ヲ及シテ居ラスヤウニ考ヘマスルガ故ニ、茲ニ暫ク此ノ時間ヲ拜借致シマシテ、私ノ質問ヲ提起シ、之ニ對シテ政府ノ所信ヲ明カニセラレムコトヲ希望スル次第デアリマス、今日我が國ニ於テ生産力ノ擴充ト、輸出貿易ノ増進ガ最

モ重要ナル急務デアルト云フコトハ申ス迄モゴザイマセヌ、サレバ明年度ノ豫算ニ於キマシテ、政府ハ是等ノ助成ニ付テ色々ナル施設ノ費目ヲ要求サレテ居ルコトモ承知致シテ居リマス、サレバ私ハ是等ノ費目ヲ政府ガ能ク適切ニ有效ニ活用サレマシテ、是非其ノ效果ヲ擧ゲルヤウニ一層努力セラレム

(副議長侯爵佐木行忠君議長席ニ著ク)

コトヲ希望シテ已マナイノデアリマスルガ、併シ私ハ今自分ノ關係致シテ居リマスル職務ノ關係カラシテ、多少此ノ輸出ヲ増進スルコト云フコトガ今日ノ急務デアリマスルガ故ニ、是非共何トカシテモ少シナリトモ之ヲ増進シタイト云フ考カラ、色々方策ヲ熟考致シテ見マスルガ、ナカ／＼新シイ品物ヲ新シイ市場ニ送り出スト云フコトハ容易ナコトデハゴザイマセヌ、サウシテ又縱令多少ハ其ノ效果ガアリマシテモ、其ノ金額ハ誠ニ微々タルモノデアリマシテ、百萬圓ノ新ナル販路ヲ作り出スト云フコトハ是ハ容易ナコトデハゴザイマセヌ、併シ既ニ開拓サレテ居リマスル市場ニ向ッテ、其ノ市場ノ馴レテ居リマスル品物ヲ出ス、其ノ品物ノ出ル價格ヲ多クスルト云フコトハ比較的ニ樂デアリマシテ、其ノ效果ガ非常ニ多イノデゴザイマス、是ハ我が國ノ生絲ニ付テ私ガ申述ベムトスルノデゴザイマス、生絲ハモウ申ス迄モナク、先程來農林大臣モ屢、繰返シテ申サレタ如ク輸出ノ大宗デアル、此ノ支那事變ノ始リキタル昭和十二年ニハ、其ノ輸出總額ハ四億餘圓ニ上ッテ居リマシタガ、輸出ヲ大ニ盛ニシナケレバナラヌ必要ナル昨年度ニ於テハ、是ガ三億圓臺ニ減少ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ減少ノ原因ガ何處ニアルカト申シマスレバ、是ハ此ノ生絲ヲ需要スル所ノ外國ノ市場ノ事情如何ニ依ルト申スコトハ、是ハ申ス迄モゴザイマセヌ、併シナガラ又我が國內ノ狀況モ多少之ニ伴フテ影

響ヲシテ居ルト云フ所ガゴザイマス、サスレバ外國ノ事情ハ如何トモスルコトガ出來スト致シマシテモ、國內ニ於テ少シデモ輸出ヲ増進スルコトノ出來ル方法ガアリマシタナラバ、是ハ官民一致シテ其ノ方策ヲ講ジナケレバナラヌと思フノデゴザイマス、ココ極ク數日以前ニ生絲ガ非常ナ値上リヲ致シマシタ、此ノ値上リハドウ云フ譯デ起ッタラウカト云フコトヲ考ヘテ見マスルノニ、或人ハ國內ニ於テノ需要ニ對スル思惑ガ大ナル原因デアッタト申シテ居リマス、併シナガラ今日カラ之ヲ回顧シテ見マスルト云フハ、サウハ考ヘテ居ラス、日本ニ於テハ綿絲、綿布、或ハ羊毛等ノ織物ニスル所ノ原料及ビ織物ヲ非常ニ統制シテ居ル今日ニ於テハ、勢ヒ日本ニ於テ生産スル所ノ絹ヲ使ッテ織物ヲ造ルヤウニナル、故ニ國內ニ於テ此ノ生絲ノ需要ガ多クナルコトハ當然デアル、サウスレバ需要供給ノ經濟的原則ニ基テ、日本ニ於テ生絲ノ値段ガ高クナルト云フコトハ、是ハ當然ノ事ダト云フ風ニ見テ居ル、是ハ都下ノ大新聞ニ其ノ値上リノ後數日……二三日後デスカ、ニユーヨークノ通信トシテ載セテ居ル所ニ明カニ向ウノ事情ハ斯ウ見テ居ルコトヲ書イテ居ル、又此ノ度生絲ガアノ通り上リマシタ其ノ値上リノ幅ハ、アノ通り上レバ、其ノ需要スル所ノ市場ニ於テ使用ヲ減ズルヤウニナラナケレバナラヌ程、ヒドイ値上リヲシタモノデアルカト言ヒマスルト、ドウモ是モ決シテサウデハナイヤウデアリマス、當業者ノ説明ヲ聽キマスルト云フト、此ノ度上リマシタル生絲ノ値段ノ如キハ……此ノ生絲ハ「アメリカ」ニ於テハ大部分靴下ノ原料ニ用ヒラレルノデアリマスルカラシテ、其ノ靴下ニ此ノ値上リヲ轉嫁致スト致シマシテモ、一足ニ向ッテ嫁スル値上リハ極ク僅デアリマス、其ノ靴足袋ノ需要ヲ減額スル

ヤウナ、サウ云フ大キナ影響ヲ與ヘルモノデハナイト云フコトデアリマス、此ノ生絲ガ是迄値段ハ長イ間向フノ市況ノ不況ニ依リマシテ、非常ニ安ク抑ヘラレテ居リマシタノガ、段々品ガ減ッテ參ッテ、サウシテモ生産地タル日本ニ於テモ此ノ生絲ガ多ク需要サレルト云フ所ヲ考ヘテ來テ、段々ト値段ガ上ッテ參ッタ、其ノ經濟界ノ原則ガ茲ニ現レテ來タモノト云フテ差支ガナイノデアリマス、然ルニ此ノ値上リガ突然ニ起リマシタト云フ關係カラシテ、俄カニ此ノ清算取引所ニ休止ヲ命ジタノデアリマス、命ジタト云ッテハ惡ウゴザイマス、清算取引所ガ休止致シマシタ、其ノ休止ガデス、形ハ其ノ取引所ノ自發的ノ意思ニ依ッテ休止シタト云フコトニナッテ居リマス、併シナガラ世間ニ傳ヘル所ニ依リマスルト云フト、是ハドウモ其ノ筋ノ意思ヲ反映シテ休止スルニ至ッタモノデアラウト云フ風ニ取ッテ居リマス、私ハ其ノ何レガ本當デアルカト云フコトヲ今此處デ探究スル必要ハナイト思ヒマス、併シナガラ此ノ清算取引ノ休止ト云フコトガ、如何ナル影響ヲ市價ニ與ヘタカト申シマスルト、立會再開ノ時ニ折角騰ツタ所ノ生絲ノ値段ガ復下ッタルデアリマス、此ノ下ッタルガドウ云フ譯デアルカ、此ノ輸出ノ上ニ於テ最モ忌ムベキコトハ斯ウ云フ値段ノ亂高下デアリマス、値段ガ騰ルコトハ必ズシモ輸出ヲ阻止スル原因ニハナリマセヌ、一旦騰ツタモノヲ騰ツタ値段デ買ッテ者ガ、又ソレガ非常ニ下ッタル云フコトニナッタ時ニ、自分ノ受ケル損害ガキビシイノデアリマスカラ、買フコトヲ非常ニ手控ヘルヤウニ相成リマス、サレバ輸出ヲ盛ニシヨウトスルナラバ、其ノ品物ノ値段ヲ成ルベク變動ノ少イヤウニスルト云フコトガ最モ大切ナコトデアアルノデゴザイマス、先程モ申シタヤウニ、此ノ度ノ生絲ノ値上リハ需要スルアノ國ニ於テハ不當ノ値段トハ

考ヘテ居ラス、高イトハ思フテ居ナイ、又生産セラレル所ノ品物ガ負擔シ切ラナイ程ノ値段デハナイノニ、俄ニ之ヲ休止シタ、休止シタガ爲ニ値段ガ落チタ、其ノ落チタ原因ハ何處ニアルカ、茲ニ私ハ政府ニ注意ヲシテ賞ヒタイト思フ點ガ存スルノデアリマス、固ヨリ私ハ政府ノ意思ヲ付度スルダケデアリマス、聞イテ居リマセヌケレドモ、ソレハ國內一般ノ物價政策ト云フモノヲ片方ニ持ツテ居ラウト思ヒマス、又一方ニ於テハ此ノ生絲ヲ原料ニシテ輸出スル所ノ絹織物ノ輸出ト云フモノヲ減少サセヌヤウニシヨウト云フ肚ガアッタノデアリカト思フノデアリマス、是ハサウ云フ見方カラサウ云フ政策ヲ執ラレルノモ其ノ主務官廳トシテハ或ハ已ムヲ得ヌコトデアリカモ知レマセヌガ、併シナガラ今日ノ如キ少シデモ輸出ヲ増進シテ正貨獲得ヲ努メナケレバナラヌト云フ此ノ時機ニ於テ、折角大イニ輸出ヲ盛ニシ、正貨獲得ノ出來ルヤウナ狀況ノ現レテ來テ居ルモノヲ、單ニ此ノ國內ニ於ケル一般物價ニ對スル政策ノミ、又僅カナルト云フト、語弊ガアリマスガ、生絲ノ輸出カラ較ベレバ、其ノ金額ハ誠ニ少イ絹織物ノ輸出ト云フヤウナ點カラノミ考ヘテ、此ノコトヲ處理セラレタト云フコトガ、私ハ非常ナ茲ニ斯ウ云フ我々ノ遺憾ナル現象ヲ現シタ原因デハナイカト考ヘルノデアリマス、蠶絲ニ關スル主管官廳ハ農林省デアリマス、而シテ其ノ蠶絲ヲ商品トシテ取扱フ所ノ清算市場ハ商工省ノ主管デアリマス、而シテ商工省ハ一般物價ニ關スル統制ヲシヨウト考ヘテ居ラレル、又其ノ生絲ヲ原料トシテ作ル所ノ絹織物ハ、是ハ商工省ガ主管サレテ居ル所デアリマス、ソコデ此ノ取引所ニ向ツタ所ノ處置ハ、商工省ガ自分ノ主管シテ居ル職務ニ忠實ナル餘リ、外ノコトヲ十分ニ考ヘル餘地ガアツカテカッタクハ分リマセヌガ、ソレガ考ニ入ルヨ

リモ、自分ノ主管ノ方ガ非常ニ多クカッタガ爲ニ、己ノ主管スルコトノミニ意ヲ取ラレタノデアリカト云フヤウナ考ヲ私ニ起サシメルノデアリマス、殊ニ此ノ清算市場ニ於テ生絲ガ斯クモ一旦騰ツタモノガ下リマシタト云フノニハ、賣物ガ多ク出タト云フコトモ一ツノ原因デアリマスルケレドモ、又政府ガ之ニ對シテハ物價ヲ騰貴サセルコトヲ止メヨウト云フ政策ヲ行ハレルノデアラウカ、生絲ニ對シテモ其ノ政策ヲ行フノデアラウカト云フ危惧ノ念ガ當業者ニ起ツタル風説ガ飛ビマシテ、政府ハ國內ニ於ケル生絲ノ消費ヲ是ハ制限スルダラウト云フヤウナコトモアリマシタ、輸出ヲ獎勵スルガ爲ニハ國內ノ消費ヲ制限スル必要ガアルト云フヤウナ見地カラ、多分サウ云フ舉ニ出ヅルノデアリカト云フ説ガ飛出シタ、或ハ絹織物ノ値段ヲ制限スルデアラウト云フ説モ飛出シマシタ、現ニ生絲ノ消費ヲ制限スルコト云フコトハ、是ハ少シ考ヘタラバ、政府ガサウ云フ政策ヲ執ラレルヤウナ氣遣ハアルマイト云フコトハ分ルノデアリマセウガ、併シ絹織物ノ價格ヲ制限スルコト云フコトハ遂ニ是ハ實現ヲ見マシテ、政府ハ既ニ之ヲ聲明サレテ居ルノデアリマス、即チ一月十日ニ於ケル絹織物ノ値段ヲ以テ制限トシテ、ソレ以上ノ價格デ賣買スルコトヲ許サヌト云フヤウナ趣旨ヲ持ツテ居ラレルヤニ聞キマスガ、今ヤ此ノ絹織物ノ價格ノ制限額ハ物價委員會カ何カニ諮問サレテ居ルヤニ承リ及ビ居リマス、是ハ商工省ガ主管事務トシテサウ云フ處置ヲ執ラレルコトハ當然ト致シマシテモ、政府ハソレニ依ツテ何モ生絲ノ値段ヲ制限シヨウト云フ積リヂヤナカッタ、併シ民間ノ方デハ其ノ眞意ガ分ラナイ、ソコデデス、一月ノ十日ニ於ケル絹織物ノ價格カラ勞力賃等ヲ計算シマシテ、原料トナル生絲ノ値段ヲ計算致シマスル

ト、九百五十圓カラ千圓ノ相場ニナルヤウナ程度デアルサウデアリマス、然ルニ當業者ハサウ云フ當然ナ所ニ解釋ヲ取ラナカッタ、或者ガ……サウシテ政府ハ一月ノ十日ノ絹織物ノ價格ヲ取ツテ標準トセラレルト云フコトガカラ、生絲ノ相場モ一月ノ十日ノ生絲相場ヲ標準トセラレルトデアラウト云フ風ニ諒解ヲシタ者ガ多ク起ツタノデアリマス、ソコデ是デハ堪ラヌト云フノデアリマス、出タ者ガ多少アツタト云フコトヲ私ハ聞キ及ビマシタ、斯様ニ此ノ取引所ニ於ケル取引ニハ、實ニ皆ノ神經ガ非常ニ鋭敏ニ働イテ居リマスルカラシテ、政府ノ執ラレル處置ト云フモノガ實ニ敏感ニ此處ニ響クノデアリマス、而シテ此ノ生絲ハ固ヨリ取引所ハ商工省ノ主管ニ屬シテ居ルノデアリマスルケレドモ、而モ蠶絲ノ大體ト云フモノハ、桑カラ繅ニナリ生絲ニナル迄ノコトト云フモノハ、農林省ガ主管サレテ居ルノデアリマスルカラ、此ノ蠶絲ニ對スル政策ハ常ニ農林省ガ主體トナツテ考ヘラレナケレバナラヌヤウニ我ハ思フノデアリマス、此ノ度ノ此ノ取引所休止ガ果シテ主管官廳ノ意思ヲ反映シタモノデアルカナイカト云フコトヲ、私ハ追究ハ致シマセヌケレドモ、確カニ主管官廳ノ意思ガ其處ニ或程度迄加ツテ居タト云フコトハ爭ハレヌ事實ノヤウニ考ヘラレマス、サレバサウ云フ意思ヲ傳ヘラレルニ付テハ蠶絲ノ主管官廳デアル所ノ農林省ト常ニ能ク一致シテ十分ナル熟議ヲ遂ゲテ、之ヲヤラレタカドウカト云フコトヲ私ハ尋ネタイト思フ位デアリマスルガ、左様ナルコトヲ今私ハ此處デ追究ヲシテ見タ所デ、既ニ起ツタ事實ハ如何トモスルコトガ出來ナイノデアリマスカラ、ソレ迄私ハ此處ニ政府當局ノ辯明ヲ得ヨウトハ希望致シマセヌガ、今後ハ再び斯様ナル過ヲ繰返サヌヤウニサセルト云フコトガ私ハ必要デアルト考ヘマスルノデ、ソレニ付テハ是非商工、農

林兩省ガ一體トナツテ、眞ニ此ノ輸出品ニ付テノ處置ハ十分ニ慎重ナル態度ヲ以テ臨マレルヤウニセラレル必要ガアルト思フノデアリマスルシ、尙茲ニ生絲ニ對シテハ將來政府ハドウ云フ方針ヲ持ツテ行クノダ、サウ皆ガ惑ウテ居ルヤウナ生絲ノ消費ノ制限ヲスルトカ云フヤウナコトハシナイ、又絹織物ノ價格ノ制限ヲシテモ、ソレニ使用スル所ノ生絲ノ値段迄、ソレニ依ツテ、制限ヲスルモノデアリカト云フヤウナコトヲ、是ハ此ノ際國民ノ前ニ明カニシテ賞フコトヲ最モ必要デアルト考ヘルモノデアリマス、其ノ次ニ私ハ是ハ特ニ農林大臣ニ御尋ラシタイノデアリマス、今日ノ蠶絲業ニ對スル政策ハ、平時ノ場合、即チ言ヒ換ヘレバ、此ノ支那事變ガ起ル前ニ確立セラレタル所ノモノデアリマス、今ヤ事情ハ非常ニ變化シテ居ル、殊ニ輸出ヲ最モ盛ニシナケレバナラヌ時期ニ當面シテ居ルノデアリマス、是迄ノ政策ヲ何等カ變更セラレル必要ガアルト私ハ考ヘマスルガ、政府ハドウ考ヘラレルカト云フコトヲ承リタイト思フ、私ノ此ノ質問ヲ致ス趣旨ヲ説明ノ爲ニ、一二ノ例ヲ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、私ハ政府ニ對シテ政策ヲ新タニスル氣ガアルカナイカト云フコトヲ聽キマスルノハ、今輸出スル所ノ生絲ト内地デ消費スル所ノ生絲トハ、負擔ノ上ニ非常ナ不權衡ガアルノデアリマス、其ノ一二ノ例ヲ申上ゲマス、曩ニ昭和四年頃ニ絲ガ非常ニ暴落ヲ致シマシタ、ソコデ絲價ヲ維持致シマス爲ニ、製絲業者ガ寄リマシテ共同保管ヲ致シマシタ、併シ到底製絲家ノ聯合デハ之ヲ背負ヒ切ルコトガ出來マセヌノデ、遂ニ政府ニ肩替リヲ願ツタノデアリマス、其ノ時ニ非常ナ損失ガ方々ニ起リマシテ、政府ハ定メラレタル三千萬圓ノ限度ニ損失ヲ負擔シ、民間ノ製絲業者ハ三千八百五十萬圓ト云フモノヲ負擔ヲ致シ、銀行ハ又其ノ金ノ利子ヲ犧牲ニシ、保

管料ヲモ銀行ガ負擔ヲシタト云フノデアリ
マシテ、銀行及民間ノ負擔ハ殆ド一億圓位
デアリ、其ノ損失ヲ補填致シマス爲ニ、只今
輸出スル所ノ生絲ハ千人ニ付テ七十圓ヅ、
徵收サレマシテ、ソレデ此ノ損失ヲ補填シ
ツ、アルノデアリマス、是ハ絲價維持ノ爲
ニ起ツタ損失デアリマス、獨リ輸出スル
生絲ノミガ負擔スルモノデハゴザイマセヌ、
全國ノ製絲家ガ之ヲ負擔シナケレバナリマ
セヌ、ソレヲ徵收スル方法ガナイト云
フノデ、輸出スル生絲ガ之ヲ拂ツテ居ルノデ
アリマス、ソレカラ又先般製絲業ヲ整理ス
ル必要ガアルト云フノデ、釜數ノ整理ヲ致
シマシタ、丁度八萬程ノ釜數ノ整理ヲ致
シマシタ、其ノ費用ハ是ハ矢張り日
本ノ製絲家全體ノ爲ニ行ツタモノデアリマ
ス、其ノ一千萬圓ノ負擔ハ輸出スル生絲
ノミガ之ヲ負擔シテ居ル、是ガ千人ニ付テ
十三圓ヅ、支拂ツテ居ルノデアリマス、ソレ
カラ又生絲ノ値段ノ變動ヲ防グト云フガ爲
ニ、絲價安定施設組合ト云フモノガ法律ニ
依ツテ出來テ居ル、此ノ絲價安定ノ組合ノ經
費ハ是迄一般ニ製絲家ガ内地ノ需要ト外國
輸出トモノト問ハズ、同ジク恩典ニ浴ス
ルニ拘ラズ、其ノ費用ヲ矢張り此ノ輸出生
絲ノミガ負擔シテ居ルノデアリマス、其ノ
他輸出ニ付テハ強制シテ検査ヲ受ケナケレ
バナリマセヌカラ、検査ノ手数料ト云フモ
ノヲ拂ヒマス、又其ノ検査ノ手数料ヲ拂フ
コトガ、是ハ輸出生絲ノミガ受ケルノデア
リマスカラ、是ハ致方ナイト致シマシテモ、
其ノ検査ノ結果カラ間接ニ受ケル所ノ損害
ト云フモノモ少クナイノミナラズ、其ノ損
害ト云フモノガ内地デ使フ所ノ生絲ト輸出
スル所ノ生絲ト間ニ權衡ヲ失シテ居ル所
ガアルノデアリマスガ、是等ハ甚ダ微細ニ
入りマシテ、左様ナコトヲ説明スル必要モ
ナイガ、兎ニ角斯ノ如ク輸出スル生絲ト内

地デ消費スル生絲トノ間ニ不公平、不均衡
ガアルノデアリマス、是モ平素ノ如ク輸出
スル生絲ノ方ガ遙カニ内地ニ於テ消費セラ
レル生絲ヨリモ上値ヲ走ツテ居リマス時ハ、
是ハ何モ問題ニナリマセヌ、易々ト負擔ヲ
致シテ居ツタノデアリマス、然ルニ今日ノ如
ク國內ノ事情ガ生絲ニ依存スルコトガ非常
ニ多クナツテ來タト云フヤウナ場合ニハ、内
地ノ需要ノ値段ト輸出スル所ノ生絲ノ値段
ノ幅幅ニ違ヒガナイヤウニナツテ來タ、斯ウ
云フ違ヒガナイヤウニナツテ來タ、是ハハ
何トカシテ内地ノ需要ト外國輸出トノ間ニ
均衡ヲ保ツヤウニシテヤラナケレバ、自然
最モ容易ク賣リ捌クコトノ出來ル内地需要
ノ方ニ生絲ガ向フト云フコトハ當然ナ話デ
アリマス、ソコデ私ハ政府ハ此ノ問題ニ付
テ、輸出生絲ト内地消費生絲トノ間ニ横ハッ
テ居ル不均衡ヲ是正スル、訂正スル所ノ方
策ヲ持ツテ居ラレヤ否ヤ、是正スル必要ヲ
認メラレカドウカ、必要ヲ認メラレカ
ラバ、ソレニ對スル方策ヲ持ツテ居ラレヤ
否ヤ、若シ幸ニシテ其ノ方策ガ御アリニナ
ルナラバ、ドウ云フ風ニスル積リデアアル
ト云フコトヲ説明シテ貰ヘバ、私ハ皆ガ非
常ニ安心スルデアアラウト思フノデアリマ
ス、此ノ二點ニ付テ私ハ政府ノ所信ヲ質シ
テ、一般ニ惑フ所ノナイヤウニ致シタイト
考ヘマシテ、茲ニ此ノ質問ヲ提起スル所以
デゴザイマス

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

○國務大臣（八田嘉明君） 只今有吉サンカ

要ト國外ノ需要ニ付キマシテモ御話ガゴザ
リマシタガ、又其ノ點ニ付キマシテモ同感
ニ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、デ、
之ニ關聯致シマシテ只今取引所ノ休止ノコ
トニ對シテ御話ガゴザリマシタ、是ハ敢テ
特ニ御質問ト云フコトデハナイヤウニモ考
ヘマシタケレドモ、此ノ際申上ゲテ置ク方
ガ宜シイカト存ジマシテ、極ク簡單ニ商工
當局ノ關シテ居リマス點ダケヲ申上ゲタ
イト存ズルノデアリマス、御承知ノ如ク、
近時一般ノ商品ハ投機的ニ取引ヲ致スト云
フコトハ大變鎮靜ニ歸シテ居ル次第デアリ
マスルケレドモ、特ニ或制限ノ加テ居リマ
セヌ所ノ品物ニ對シマシテハ、兎角動モス
レバ思惑の取引ト云フモノモ起リツ、又
起ラムトスル傾向ノアリマスルコトハ否ミ難
イノデアリマス、生絲ニ對シマシテハ斯カ
ル情勢ガアツカドウカト云フコトハ、只今
御話ノ中ニモアリマシタル通り、見方ニ依
テ或ハ異說ガアルカト存ズルノデアリマス、
併シナガラ何レニ致シマシテモ思惑取引若
シハ思惑ニ依リマスル所ノ商品ノ賣買ト
云フコトニ付キマシテハ、當局ニ於キマシ
テハ極力之ヲ事前ニ於テ、或ハ已ムヲ得ナ
イ時ニハ、法ノ力ニ依リマシテ之ヲ抑制ス
ルト云フコトガ必要デアルト云フコトヲ現
下痛切ニ感ジテ居ルノデアリマス、處デ此
ノ取引所ニ關シマシテハ、商工當局ガ其ノ
監督指導ノ立場ニアリマスル責任上、常ニ
其ノ取引品物ノ徒ラナル奔騰ト申シマスカ、
上下ヲ致シマスルコト云フコトニ付キマシテ
ハ、成ルベク之ヲ差控ヘルヤウナ風ニ平生
ニ於テ關係理事者トモ話シ合ツテ居ルト云
フ事實ハアルノデアリマス、先頃神戸並橫
濱ノ取引所ニ於キマシテ、二日ノ日デゴザ
イマシタカ、一日ヲ休シタト云フコトニ付
キマシテハ、其ノ前日ニ於キマシテ一日ニ
五十圓ノ暴騰ヲ致シタルデアリマス、此ノ
五十圓一日ニ暴騰スルト云フコトハ、見方

ニ依ツテハ當然他ノ方面ノ需要供給ノ關係
カラサウナツタトモ見レマセウシ、或ハ又思
惑の傾向ガ及シタモノトモ考ヘラレルノデ
アリマスルガ、其ノ點ハ只今申上ゲタ通り、
必ズシモドノ點ガ、ドウ云フ理由ガ最モ正
鵠ヲ得テ居ルカト云フノハ各、觀察ニ依ツ
テ違フト存ジマスルノデ、御話ニモアリマシ
タル通りデアルト存ズルノデアリマス、併シ
ナガラ其ノ時ノ情勢ガ動モスレバ更ニ爆發
的暴騰ヲ續ケルヤニ考ヘラレタノデ、其ノ
當事者ニ於キマシテ、平生話合ツテ居ルヤ
ウナ關係カラ、自發的ニ一日ノ休止ヲサレ
マシテ、其ノ間ニ申合フサレ、詰リ取引所ニ
於テ申合フサレテ、サウシテ之ヲ委託者ニ
徹底サセルノ時間ト、サウシテ又整理等ノ
都合ガアツテ、自發的ニ立會ヲ中止シタト云
フ事實ガアルノデアリマス、之ニ付キマシ
テハ其ノ翌日又營業開始ヲシタルデアリマ
スガ、今日迄營業ヲ繼續致シテ居リマスル
ケレドモ、幸ニモソレニ依ツテ生絲ノ暴落ヲ
見ズ、又非常ナ暴騰モ見ナイト云フヤウナ
ノガ今日ノ事實デアアルノデアリマス、即チ
千何十圓ト云フ所ニ只今其ノ價ガアルヤウ
ニ承知致シテ居ルノデアリマス、併シナガ
ラ只今御話ノ如ク徒ニ物品ノ價格ニ響クヤ
ウナコトハ特ニ注意ヲ要スルコトデアルト
考ヘマスルノデ、御注意ノ點ハ今後ニ於キ
マシテ特ニ慎重ナル注意ヲ致シタイト考ヘ
テ居リマス、要スルニ生絲ノ如キモ亂調
子ヲ以テ上下スルト云フコトヲ非常ニ當業者
ニ於テモ惧レテ居ルト云フコトハ事實ヤ
ウニ考ヘルノデアリマス、又之ニ關聯致シ
マシテ、絹織物並其ノ製品ヲ……本月ノ四
日デゴザイマシタカ、物品販賣取締規則ニ
依リマシテ告示ヲ致シタルデアリマスガ、
之ニ付キマシテモ實ハ絹織物ハ昨年ノ十二
月頃カラ非常ナ暴騰ヲ續ケマシテ、先頃ニ
至リマシテハ五割、六割ノ暴騰ヲ見ルト云

フヤウナコトニナリマシタノデ、他ノ纖維品ニ付キマシテハ總テ價格ガ抑制サレテ居リマスモノデアリマスルカラ、此ノ純絹織物ニ向テノミ思惑ガ殺到致シテ參ツコトハ疑ナイ事實デアリマデアリマス、併シ之ヲ下手ニ抑制ヲ致シマスルト、其ノ結果ハ縱令其ノ製品、其ノ原料ハ國內向ノ絹織デハアリマスルケレドモ、併シナガラソレガ動モスレバ輸出等ノ關係ニ響キ、或ハ農業生産ト云フ見地カラシテ、是ガ惡影響ヲ來スト云フコトヲ惧レマシテ、其ノ暴騰ヲ見ナガラ恐ラク二三箇月手ヲ著ケナカッタノモ御承知ダト思ヒマス、併シナガラ新聞紙上等ニ於キマシテハ此ノ問題ハ盛ニ取扱ハレ、又各銀行關係ニ於キマシテモ思惑的資金ニ付テハ融通ヲ禁止スルト云フヤウナ申合モシテ居タコトヲ承知致スノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスノデ、出來ルダケ成ルベク手ヲ著ケナイノガ宜シイノデアリマシタガ、只今申上ゲタヤウナ非常ナル暴騰デアリマスノデ、他ノ自肅價格等ノ關係モアリ或ハ他ノ纖維品ハ悉ク之ヲ抑制シテ一ツノ價格ニ止メテ居リマスヤウナ關係上、之ヲ放置スルコトガ出來ナカッタ事情モ一ツ御諒察ヲ願ヒタイノデアリマス、併シナガラ此ノ結果、幸ニモ此ノ原料デアリマス生絲ニハ何等響カナカッタト云フコトハ、誠ニ幸ト存ジテ居リマスル次第デアリマスガ、併シナガラ御説ノ如ク十分ナル注意ヲ拂ヒマシテ、今後ニ於キマシテハ特ニ農林當局其ノ他トモ、更ニ將來ノコトニ付キマシテハ十分聯繫ヲ取リマシテ、徒ニ世間ニ於テ恐怖等ノ起ラナイヤウニ努メタイト存ズルノデアリマス、此ノ點ヲ私カラ御答ヘ申上ゲル次第デアリマス

(國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(櫻內幸雄君) 只今有吉君カラ生絲ニ對スル所ノ私共ノ考ノ持チ方ニ付テ御尋ガアッタデアリマス、此ノ問題ハ極メ

テ重要ナル問題デアリマスガ故ニ、大要私共ノ意見ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、生絲ガ最近ニ至リマシテ非常ナ騰貴ヲ致シタ、是ハ今御話ノ如ク現實ノ事實デアリマス、何ガ故ニ斯様ナ騰貴ヲ致シタカ、是ハ御承知ノ如ク昨年繭ガ約一割三分程減產致シマシテ、約七千數百萬石ト云フ數字ニ減タノデアリマス、其ノ結果本年生絲ノ生産量ガ減ルト云フコトガ想像致サレマス、是ガ生絲ノ騰貴シタ一ツノ重要ナ原因ヲ成シテ居ルコトト思ヒマス、更ニ大ナル原因ヲ成シテ居リマスモノハ國內ニ於ケル所ノ生絲ノ需要デアリマス、棉花ノ入リマセヌ結果ハ、自ラ綿絲ニ關係シ綿絲布ニ關係ヲ致シマスノデ、自然ト綿布類ガ騰貴ヲ致シマス、殊ニ制限ガサレテ居ルノデアリマス、又人絹類モ原料タル「バルプ」資材ヲ輸入致シマス關係上、是モ統制ヲ致サレテ居リマス、獨リ生絲ガ自由ニ賣買ヲサレテ居リマス結果、絹織物ニ對スル所ノ需要ト云フモノガ急激ニ増加致シタノデアリマス、殊ニ重工業ニ從事サレテ居ル所ノ從業員諸君其ノ他ノ方々デ、所謂現在ノ時局ニ沿ウテ相當ノ收入ガアル方々ハ自然ト絹布ヲ買フ情勢ニ相成リマシタ、是ハ織物工場ニ付テ調ベテ見マシテモ、又三越、白木屋等ノ「デパート」ニ付テ調ベテ見マシテモ相當ナル増加デアリマス、即チ何レモ生絲ヲ要スルノデアリマスガ故ニ、自然ニ國內需要ト云フモノガ増加ヲ致シマシタ結果、茲ニ生絲ガ缺乏ヲ致スコトトナツタノデアリマス、此ノ生絲ガ値上リヲスル情勢デアリマスノデ、「アメリカ」ノ市場ニ於キマシテハ、今ニ下ルデアラウ、去年ノ情勢カラ見テモサウ騰貴ハシナイデアラウト云フ關係上カラ、仕入ヲ手控ヘテ居ツタ傾モアルノデアリマス、私共ノ方デ調査致シマスル所ニ依リマスル「アメリカ」ニ於ケル所ノ、所謂靴下業者ノ手持ノ在庫品ト云フモノハ、非常ニ激減ヲ致

シテ居リマス、是等ノ事情ガ綜合サレテ、今日ノ生絲ノ騰貴ヲ見タモノト斯様ニ解釋致シテ居リマス、而シテ政策ト致シマシテハ、今日位ノ相場ヲ維持スルコトハ、農村ノ繭ノ増產ヲ圖ル上ニ於テモ私ハ必要ダト思ッテ居リマス、又幸ニシテ輸出ガ出來マスルナラバ、八百圓デ一俵ヲ賣ルヨリモ、千圓賣ツタ方ガ國際貸借ノ上ニ利益ガアリマス、故ニ此ノ點ニ付キマシテハ「アメリカ」ノ市場ニ於テ、ドノ程度迄日本ノ生絲ヲ買ヘレバ引合フデアラウカト云フコトニ付テ、深キ研究ヲ致サナケレバナラスト思ヒマシテ、私就任以來百方調査ヲ致シタノデアリマス、其ノ結果ハ、何レノ輸出商モ、亦「アメリカ」ニ市場ヲ持ッテ居ラレ方々モ、九割五分迄ハ、千圓程度若シクハ千五百圓程度迄ハ買ッテ來ラウカト云フ風ナ解釋ヲ持チデアリマス、ソレハ何故ニサウ云フ解釋ガ下ツテ來ルカ、「アメリカ」ノ市場ハ決シテ活潑デハナイ、然ルニ斯様ナ事情ガ、何處ニサウ云フ風ニ起ッテ來ルノデアアルカト云フ御意見モアリマスガ、只今有吉君ノ御話ノ如ク、從來我が國ニ輸出致シマシタ所ノ生絲ノ六割、七割ト云フモノハ、織物ニナツテ「アメリカ」ノ婦人等ガ使ッテ居リマシタガ、數年此ノ方ハソレガ非常ナル變化ヲ致シマシテ、靴下ニ大分使フヤウニナリマシタ、年々靴下ニ使用スルモノガ殖エテ織物ニスルモノガ非常ニ減ツテ、今日デハ七割何分ト云フモノハ靴下ニ使ッテ居リマス、二割幾分ト云フモノガ僅カニ織物トシテ殘ッテ居ル譯デアリマス、此ノ靴下ニ對シマシテハ「アメリカ」ノ婦人ハ全ク日本品ノ「フアン」デアリマシテ、日本品ニアラザレバ靴下ヲ使ハナイト云フ位ノ流行ニナツテ居リマス、肌觸リノ點ニ於キマシテモ、持チノ點ニ於キマシテモ、有ラユル點ニ於テ日本ノ生絲ガ優秀デアルト云フコトニナリマシテ、最早世界

何レノ國モ日本ノ生絲ニ敵スルモノハナイノデアリマス、殊ニ況ヤ一足ノ價格ガ八十「セント」内外デアリマスノニ、之ニ要スル所ノ生絲ハ僅カニ十何「セント」デアリマス、即チ極メテ生絲ガ小部分デアリマス、從ヒマシテ不幸ナル日米間ノ感情ノ疎隔ノ來リマシタ際ニモ、日本品排斥ガ起リマシタ場合ニモ、即チ此ノ生絲ノ輸入ニ依ツテ「アメリカ」ノ非常ニ多數ノ人ガ生活ヲ致シテ居リマスガ故ニ、此ノ生絲ニ對シタダケハ排貨ガ起ラナカッタ、斯様ナ關係ニナツテ居リマス、故ニ最近非常ニ暴騰致シマシタケレドモ、「ニューヨーク」ノ電報ヲ見マスルト「ダース」ニ付テ僅カニ二十五「セント」上ツタダケデアリマス、靴下ノ値段即チ一足ニ對シマシテ二「セント」ホカ上ツテ居リマセヌ、故ニ此ノ二「セント」或ハ三「セント」位ノモノハ値上リヲシテ居ルガ、「アメリカ」カラシテ生絲ハ買フデアラウ、斯ウ云フ解釋デアリマス、故ニ價格ト致シマシテハ、現在ノ價格ヲ下ゲナケレバ「アメリカ」ニ賣ル物ガ果シテ確保出來ルカ否カト云フコトヲ私ハ心配致シテ居リマス、從來七十萬俵出來マス中デ、四十七萬俵乃至四十五萬俵ガ輸出デアツテ、二十三萬乃至二十五萬ガ國內需要デアリマシタノガ、此ノ國內需要ガ急激ニ増加ラシテ三十萬ガ三十五萬トナリ四十萬トナツタ場合ニ於テ、輸出スル生絲ガ確保サレルカト云フト、是ハ非常ニ心配ナ事柄デアリマシテ極メデ高級品デアリマス、國內デ使ッテ居リマスモノハ、二十一申ト云フノガ大部分デアリマシテ、稍劣ッテ居ル品物デアリマス、併シナガラ順次此ノ高級品ヲ使フ風習ガ起ツテ來ツ、アルノデアリマスガ故ニ、此ノ品物ヲ確保スルト云フ事柄ハ非常ニ大事ナコトデアリマス、故ニ政府ハ此ノ點ニ付キマシテ深ク考慮ヲ拂ツテ、此ノ輸

出生絲ト云フモノノ確保ニ對シテ實ハ全力ヲ盡シテ居リマス、併シナガラ政府ガ若シ輸出品ヲ、必ズ輸出スベキ品物ヲ、此處ニ斯ウ云フ風ナ方法ニ依ッテ、確保スルノダト云フコトガ、若シ是ガ外國ノ見ル所トナリマスレバ、ソレハハ安クテモ賣ルデアラウト云フノデ、又相場ノ崩レル虞ガアルノデアリマス、政府ト致シマシテハ適當ニ之ヲ調節シナケレバナラヌト、考ヘテ居リマス、併シナガラ一面カラ申セバ、生絲ノ値段ガ上レバ上ル程宜イデハナイカ、千圓ノモノガ千二百圓ニナリ千三百圓ニナル、サウスレバ、四十七萬俵ノモノガ約四十萬ニ減ッテモ、三十五萬ニ減ッテモ、三十五萬ニ減ッテ千二百圓ナラバ、即チ四億二千萬圓入ルデハナイカ、昨年ノ三億六千萬圓ヨリズツト宜イデハナイカ、斯様ナ議論モ議論トシテ受取レルノデアリマスケレドモ、併シナガラ我々此ノ監督ノ地位ニ在ル者ト致シマシテハ、是ガ餘リニ賄賂致シタ場合ニハ、ドウ云フ影響ヲ及スカ、一面ニ於テハ國內ノ物價ヲ刺戟シテ、總テノ物價ヲ上ゲル傾向ヲ起シハナイカ、是モ恐ルベキコトデアリマス、是ハ容易ナラザル問題デアリマス、又一面ニハ日本ノ品物ガ高クナツタ結果、アメリカノ市場ニ於ケル所ノ日本品ノ愛好者ガ他ニ奪ハレル虞ハナイカ、即チ是ガ代用品ノ方面ニ奪ハレ、或ハ「イタリ」品ニ之ヲ蠶食サレル、斯様ナル事柄ガアツデハナラヌト又考ヘルノデアリマス、即チ適當ナル價格ニ於テアメリカヲ要求スルダケノ品物ヲ供給致シタイト云フコトガ我々ノ考ヘテ居ル所デアリマシテ、其ノ正當ナル價格ガドノ程度デアルカ、又確保スベキ所ノ生絲ノ數量ガドレダケ必要デアルカ、之ヲ確保スルノニハ如何ナル方法ニ依ッテヤルカト云フコトダケハ、今日只今此ノ席デ私ハ言明スルコトガ出來ナイノデアリマス、唯此ノ點ニ付キマシテハ深ク注意致シテ居

ルト云フコトダケニ付テ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、商工省ニ於テ先般告示セラレタ品物ヲ、即チ暴騰シタル絹絲布、絹織布ヲ相當ノ値段ニ調節シタ、是ハ申シ迄モナク低物價政策ニ即應スルト云フ事柄ト、餘リニソレガ生絲其ノ他ニ較ベテ多ク騰貴シテ居タト云フ關係上カラ、是ハ締制サレタモノト考ヘマス、併シ今後ニ於キマシテドウ云フ風ナ絹織物ニ對シテノ政策ヲ執ルカト云フコトニ付テハ、ソレハ我々常ニ商工當局ト密接ナル關係ヲ取ツテ十分協議ヲ致シテ決メタイト考ヘテ居リマス、最後ニ生絲政策ヲ變換スルノ考ヘナイカ、斯様ナ御質疑デアリマス、即チ輸出生絲ニ對シマシテハ、今日從來ノ損害ノ補償ヤラ或ハ其ノ他ノ關係ニ於テ或ハ「ハンディキャップ」ガ附イテ居リマス、之ヲ一掃シテシマツテ、輸出生絲ノ便利ヲ圖ルノ意思ガナイカ、生絲輸出ニ對シテ獎勵スルノ意思ガナイカト云フ風ナ御意見ノヤウデアリマシタガ、此ノ點ニ付テモ研究ヲ致シテ居リマス、之ニ對シテ今ドウ云フ方策ヲ以テ之ニ對スルカト云フコトハ申上ゲニクイノデアリマスケレドモ、併シ現在ノ國內ノ需要ト云フモノハ、單ニ其ノ位ナ開キノモノデハナイノデアリマス、國內ノ需要ハ恐ラク國外ニ出ル値段ヨリハ更ニ百圓、百五十圓ト云フヤウナ差額ガ起リツ、アルデハナイカト思ヒマス、元來申セバ、輸出品ガ千圓デアアルナラバ國內品ハ九百二十圓デアツテ宜シイノデアリマスケレドモ、此ノ相場ガサウ云フ風ナ懸隔ヲ持ツカ持タヌカト云フコトハ、餘程ノ疑問ガアルコトデアリマス、從ヒマシテ輸出生絲ニ對スル政策ト、又國內需要ニ對スル所ノ生絲ノ獎勵デアルトカ、生絲ノ生産デアルトカ或ハ織リ方デアルトカ云フコトニ付キマシテハ、自ラ變ヘテ行クト云フコトニ付キマシテハ、是ハ考究スベキ必要ガアルト斯様ニ考ヘテ居リマス、サウ云フ點

ニ付キマシテハ十分商工、農林兩省ノ間ニ於テ密接ナル連絡ヲ取リマシテ、萬算ナキヲ期シタイト斯業ニ心得テ居リマスノデ、一應茲ニ御答辯ヲ申上ゲマス
○有吉忠一君 簡單ニ致シマスカラ、此處カラ御許ヲ願ヒマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 宜シウゴザイマス
○有吉忠一君 只今私ノ質問ニ對シテ商工大臣ハ、今後大イニ其ノ取扱ニ付テ注意シヨウ、又慎重ニ取扱フコトヲ心掛ケル積リデアルト云フコトヲ明言サレマシテ、私ハソレニ満足致シマス、尙櫻内農林大臣ノ述ベラレマシタルコトハ、私ガ先ニ述ベタ所ト殆ド同一デアリマシテ、私ハ其ノ所感ヲ農林大臣ガ同ジウシテ居レルコトニ付テ是モ満足ヲ致シマス、唯輸出生絲ト内地消費ノ生絲トノ間今日執ッテ居ル所ノ政策ヲ變更スル所ノ意思ガアルカナイカト云フコトヲ御尋ネシタニ對シテハ、私ハ必ズシモ輸出生絲ニ對シテハ何等カノ補助ヲヤレト云フヤウナ、サウ云フ特別ナル待遇ヲ與フルカドウカト云フヤウナコトヲ御尋ネシタ積リハゴザイマセヌ、唯不均衡ナル負擔ヲシテ居ルノデアリマスカラ、其ノ不均衡ヲ訂正スルコト云フコトガ、特ニ輸出ヲ獎勵シナケレバナラヌ時期ニ際會シテ居ルノデアルカラ、サウ云フコトデア尙均衡ヲ得ルヤウニスルト云フコトガ必要デハナイカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、今農林大臣ハ内地ノ需要ガ非常ニ盛デアルガ故ニ、内地ノ生絲ノ價格ハ輸出ノ價格ヨリモ餘程上ツテ居ル、サレバソレ位ノコトヲ訂正シテモ果シテ輸出ニ生絲ガ向キ得ルカ否カト云フコトハ疑問デアルト云フヤウナ御答デアツタヤウニ諒解ヲ致シマシタ、併シ若シ斯様ニ内地ニ於ケル生絲ノ値段ガ、輸出スル生絲ヨリモ遙カニ上走ルト云フヤウナコトデアツタトシマスルナラバ、幾ラ輸出ヲ獎勵シヨウトシテ

モ、ナカノ其ノ獎勵ハ效果ヲ舉ゲル見込ガ薄イト申サネバナラヌノデアリマス、是ハ實ニ重大ナル問題デアルト考ヘマス、私ハドウカ内地ノ消費ニ向フ所ノ生絲ノ値段ガ、輸出セラレル生絲ヨリモ遙カニ上走ルト云フヤウナコトノ起ラスヤウニ十分ナル注意ヲ農林大臣ニ於テ執ラレムコトヲ切望シテ已マスノデアリマス
〔議長伯爵松平賴壽君議長席ニ復ス〕
尙又今日ハ生産増殖ガ最モ大事デアリマス、只今農林大臣ガ述ベラレマシタル如ク、農家ハ此ノ際織物ノ原料トナルベキ色々ナル物ガ不自由ノ感ジテ居リマス際ニハ、成ルベク斯ウ云フ國內ノ消費ニ當テ得ルダケノ品物ヲ造リ得ラレルヤウニシテヤルト云フコトガ最モ大事デアリ、又ソレガ一般公衆ニ便宜ヲ與ヘルバカリデナク、農家ノ經濟ヲ助ケルコトニモナリマス、サレバ此ノ増産ヲ妨害スルヤウナル政策ハ成ルベク執ラスヤウニシテ貰ヒタイド云フコトヲ私ハ希望致シマス、今日ハ時間モ延ビテ參リマシタカラ私ノ質問ハ是デ打切りマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 小林嘉平治君
○小林嘉平治君 時間ガ切迫致シテ居リマスノデ、私モ簡單ニ此ノ席カラ質問ヲ御許シ願ヒマス、私ハ只今ノ内務大臣ノ御答辯ニ對シテ確メテ置キタイコトガアルノデゴザイマス、内務大臣ノ御答辯ニ依リマス、此ノ際市制ノ改正ハ、又府縣制トモ脱ミ合ハシテ研究センナラヌカラシテ、此ノ際提案ヲ見合セタノデアアル、斯ウ云フ御答デアリマシタ、此ノ市制ノ改正ト云フコトハ單ナル市制ノ改正デナイノデ、大キナ問題ガ其ノ中ニ隱レテ居ルノデアリマス、何カト云フト、アノ都制案デアリマス、是ト切離シテ市制ノ改正ト云フコトハ私ハ出來ナイト思フ、都制案ヲ改正スルト云フコトニナラネバ市制案ヲ改正スルトハ出來ナイ、ソレデナケレバ町村制モ延イテ改正ガ出來

ナイト云フコトニナリマシタナラバ、我々ノ期待ニ反スルコトハ非常ニ大キイノデアリマス、政府ニ於カレテハ、衆議院ニ多少ノ反對ガアルト云フヤウナコトヲ御認メニナッテ居ルヤウデアリマス、私ノ知ル範圍ニ於テハ、如何ニモ最初サウ云フ聲方一部ニアリマシタガ、相當有力ナ人デハ、詳細シイ説明ヲ聽イテ見タガ、アレナラバ結構デアル、多少ノ修正ハシナケレバナラスガ、ナゼ出サヌノデアラウカト云フコトヲ現ニ私ニ告ゲテ居ル人ガアルノデアリマス、又御見合セニナッテカラ、此ノ都下ノ大新聞ガドウ云フ論調ヲ取ッテ居ルカト云フコトヲ能ク御考ヘ下スッテ、サウシテ都制案ノヤウナ大キナ問題ノ潛シテ居ル此ノ市制案トハ切離シテ、サウシテ此ノ町村制ノ改正ニ一日モ早く御掛リ下サルヤウニ切ニ望ンデ置キマス

○國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル
○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 小林サンノ御尋ニ御答ヘ致シマス、此ノ町村制ノ改正ニ付キマシテハ、先般内閣ニ於テ其ノ提案ヲ見合セタコトニ付キマシテノ聲明ヲ致シタノデアリマス、其ノ中ニハ要スルニ市制、自治制度ノ改正ハ、市制、町村制及府縣制ニ互ッテ考究スルヲ要スルヲ以テ、政府ハ更ニ自治制度全般ニ關スル方針ヲ決定シタル上、法案ヲ提出ヲナスコトニシ、今回ノ町村制ノ改正案ハ見合ス、斯ウ云フコトニ決メテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ只今御話ノヤウニ、市制ニ關聯致シマシテ都制案ノ方モ研究致ス筋合ニナッテ居リマス、唯問題ハ要スルニ是等ノ方針ガ一應決定致シマスレバ、必ズシモ全部ノ法案ヲ揃ヘナケレバナラスト云フ建前ニハナッテ居ラスノデアリマス、町村制、市制其ノ他總テノ方針ヲ決定致シマシタ上デ成ルベク速カニ此ノ問題ヲ解決シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○小林嘉平治君 只今ノ御答辯ニ依ッテ私ハ全ク誤解デアッタコトヲハッキリ申上ゲテ置キマス、私ノ了解スル所ニ依レバ市制モ町制ト切離シテ町村制ヲ提案スルノデアルト云フ斯ウ云フコトニ了解致シマシタ、満足致シマス、ドウゾ宜シク御願ヒ致シマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ質疑通告者ハ全部済ミマシタ、是ヨリ討論ニ移リマス、通告順ニ依リマシテ發言ヲ御許ヲ致シマス、長岡隆一郎君

(長岡隆一郎君演壇ニ登ル)

○長岡隆一郎君 本員ハ只今議題ト相成ッテ居リマス、昭和十四年度歲入歲出總豫算案並昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案及豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、右諸案ニ對シテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、但シ之ヲ贊成スルト共ニ本員ノ希望ノ二三ヲ述ベマシテ、贊成ノ理由ヲ明カニ致シタイト存ズルノデアリマス、固ヨリ是ハ本員一人ノ意見ニ止リマシテ、本員ノ所屬スル會派ノ意見ヲ代表スルモノデハゴザイマセヌ、第一ハ政府部内ノ統一、融和ト云フコトデアリマス、事變以來政府ハ屢國民ニ對シテ國民精神ノ融和ト云フコトニ付キ御諭シヲ示サレ、又國內ノ相剋摩擦ヲ戒メテ居ラレマス、併シナガラ國民ハ政府ノ御諭シヲ待ツ迄モナク互ニ相戒メ、其ノ精神ヲ緊張致シテ居リマス、大都會ニ於ケル狀況ヲ見マスト如何ニモ苦々シイ幾多ノ現象ニ接シマスルケレドモ、斯カル悲シムベキ例外ハ比較的少數デアリマシテ、國民ノ大部分ハ相一致シ、又精神ヲ緊張致シ、銃後ノ護リヲ固ク致シテ居リマス、殊ニ地方農村ニ參リマス、男モ女モ老イタル者モ幼キ者モ富メル者モ貧シキ者モ、各、其ノ分ニ應ジテ涙グマシキ程努力致シ、舉國一致ノ實ヲ擧ゲテ居リマス、帝國議會ニ於キマシテモ事變勃發以來、政府ノ

事變遂行ニ關スル政策ト方針トハ極力之ヲ支持致シテ居リマス、固ヨリ議員ノ本分ト致シマシテ、或ハ立入リタル質問、討論ヲ致シタコトハゴザイマセウ、併シナガラ結果ニ於テ見マスルナラバ、政府ノ提案サレタ事變遂行ニ關スル豫算案、法律案ニ對シテハ全部協賛ヲ與ヘテ居リマス、政府ガ現地不擴大主義ト言ハレ、國民ハ之ニ從ッテ居リマス、政府ガ將介石ヲ相手ニセズト言ハレ、國民モ亦之ニ從ッテ居リマス、政府ガ帝國不動ノ方針ト決意トヲ宣言致サレ、國民ハ又默々トシテ之ニ從ッテ居リマス、國民ハ此ノ未曾有ノ大事變ニ際シ只管政變ノ起ルコトヲ憂ヘ、政府當局ガ長ク其ノ職ニ御留リナリマシテ、誠心ヲ披瀝シ、全力ヲ擧ゲテ時局ノ拾收ニ當ラレムコトヲ希望致シテ居ルノデアリマス、然レニ過去ニ於キマスル内閣ニ於ケル實情ハ如何デアリマセウカ、國民精神ノ統一融和ヲ説カレル政府部内ニ於テ、果シテ相剋摩擦ガナカッタデゴザイマセウカ、申ス迄モナク人其ノ面ヲ異ニスル毎ニ各、其ノ心ヲ異ニス、政府ヲ構成スル各省官吏ノ間ニ意見ノ相違アルコトハ、是ハ已ムヲ得ザルコトデアリマス、又斯カル事實ハ如何ナル時代ニ於テモ見ラレタ現象デゴザイマス、併シナガラ斯カル場合ニ於キマシテハ、其ノ異レル各省ノ意見ヲ檢討致シ、十分調査研究ヲ重ネラレタ後ニ、内閣總理大臣ニ於テ最後ノ決定斷案ヲ與ヘラレタル上ニ、國策トシテ決定セラレタル方針ヲ國民ノ前ニ提示發表セラレタモノデアリマス、然ルニ近來ニ於テハ然ラズ、新聞記者ガ第六感ヲ以テ「スクープ」シタル事實ナラバイザ知ラズ、各省官吏ガ口頭又ハ文書ヲ以テ新聞記者ニ獨自ノ意見ヲ發表致シ、内閣ノ方針未ダ定マラザルニ先チ、他省ノ方針ヲ論難攻撃致シテ居ル、斯クノ如キ事例ハ或ハ總動員法第十一條ノ問題起レル際ニ於テ、綜合「リンク」制ノ問題紛糾セル際ニ於テ、又最

近ニ於テ生絲暴騰問題ニ對スル農林、商工兩省ノ對立ノ如キ、其ノ他屢、我々ノ見聞シタル事實デアリマシテ、我々國民ハ國策果シテ何レニアリヤ、其ノ歸趨ニ迷フノデゴザイマス、本員ハ關係各省ノ甲ノ意見ハ是ナリ、乙ノ意見ハ非ナリト云フガ如キ内容ノ批評ヲ致ス意思ハ毛頭ゴザイマセヌ、併シナガラ各省區々ノ意見ヲ發表セラレ、結果、國民歸趨ニ迷フコト尙之ヲ忍ベシ、又平時ニ於テハ各省時トシテ其ノ未定稿ヲ公ニ致シ、輿論ニ探リヲ入レルト云フコトモ是亦一策デゴザイマセウ、然レドモ現在ハ非常時デアリマス、交戰國並ニ我ガ國ニ好意ヲ有セザル第三國ハ飛耳長目虎視眈眈トシテ日本ノ國情ヲ凝視シテ居ル時デアリマス、政府部内ノ意見ノ不統一ヲ發表セラレ、コトハ百害有ッテ一利無シ、平沼内閣總理大臣ハ宜シク前車ノ覆轍ニ鑑ミテ、將來ニ於テハ國民ノ相剋摩擦ヲ戒メラレル前ニ、政府部内ノ意見ノ相違ヲ内部ニ於テ統一セラレルヤウ希望スル次第デゴザイマス、第二ハ官吏、官僚ノ自肅自戒デアリマス、之ニ關シマシテハ從來屢、貴衆兩院ニ於テ議論セラレ、平沼内閣總理大臣ニ於カセラレマシテモ亦官僚獨善ノ非ナルコトヲ認メラレ、二月二十四日付内閣訓示號外ヲ以テ各官廳ニ對シ、濫リニ高ク自ラ標置シ獨リ自ラ大ナリトスルハ取ラザル所ナリト戒メラレテ居リマス、本員ハ平沼内閣總理大臣ガ民ノ聲ヲ聽クニ吝カナラザル御態度ニ對シ、敬意ヲ表スルモノデゴザイマスガ、久シク官界ニ浸潤シ、習性トナッテ居リマスル傲慢尊大ノ惡風ガ、一片ノ御訓示ニ依ッテ掌ヲ覆サガ如ク改マルモノトハ思ハレマセヌ、固ヨリ本員ハ事變以來各官廳ノ事務ノ激増セルコトハ知ッテ居リマス、又官吏諸君ガ御勉勵ニ増ナッテ居ラレルコトモ能ク承知致シテ居リマス、又固ヨリ本員ハ官廳ニ於テ許可スベカラザル事項ヲ許可スベ

シト云フガ如キ、行政ノ内容ニ立入ッテ論議スル意思ハ勿論ゴザイマセヌ、併シナガラ許可スルニセヨ、許可セザルニセヨ、之ガ決定ハ成ルベク速カニ致シ、又國民ニ對スル態度ハ深切丁寧ヲ旨ト致サナケレバナリマセヌ、天ニ口無シ人ヲシテ之ヲ言ハシム、今や官廳ニ於ケル行政處分ノ遷延ト、官吏ノ尊大傲慢ナル態度ニ對スル怨嗟ノ聲ハ巷ニ溢レテ居リマス、之ニ付テハ内閣總理大臣ノ御訓示モ誠ニ結構デゴザイマス、官吏、官僚全員互ニ相戒メ、國民民衆ニ對シテハ一視同仁、深切丁寧ヲ旨ト致サル、ヤウ、嚴ニ自肅自戒セラル、ヤウ希望スル者デゴザイマス、第三ハ行政ノ行過ギデゴザイマス、此ノ問題モ各方面ニ於テ國民ノ苦シンデ居ル所デゴザイマス、本員ハ事變以來政府ノ御方針ニ付テハ何ノ異存ヲ申スモノデハゴザイマセヌ、併シナガラ親ノ心子知ラズト申シマスルカ、執行ノ任ニ當ッテ居ラル、下級官吏ガ、功名ヲ急グノ餘リ兎角行政ノ行過ギヲヤリタガル、例ヘバ綿絲布統制ノ實情ヲ見マスルト、政府最高幹部ノ御方針、即チ惡質ナル法規違反ニ對シテハ嚴罰ヲ以テ之ニ臨ムト雖モ、手續ヲ知ラザリシ爲ニ犯シタル、形式上ノ違反ニ對シテハ、成ルベク説諭ニ止ムルト云フ此ノ御方針、是ハ誠ニ御尤ト存ジマス、然レドモ此ノ御方針ヲ遵守スベキ下級官吏ノ中ニハ、動モスレバ功名ヲ焦セルノ餘リ、檢舉件數ノ多キヲ競ヒ、國民ノ怨ヲ買ヒシ實例實ニ枚舉ニ追アリマセヌ、又例ヘバ落棉問題ヲ初メト致シ、當局ノ御方針、朝令暮改致サレタ爲ニ善良ナル國民ガ犯意ナクシテ法律ニ觸レシ實例實ニ多イノデアリマス、又極メテ些細ナル例デアリマスルガ、怠惰ナル學生ニ對シ、親心ヲ以テ取締ヲナサレト云フノハ誠ニ結構デゴザイマスルガ、或ハ往來ニ於テ學生ヲ毆打シ、或ハ十分ナル法令ノ根據ナクシ

テ長ク人身ノ自由ヲ拘束サル、如キハ、是亦行政ノ行過ギト存ジマス、斯カル事例ヲ舉ゲマスレバ幾ラデモゴザイマスルシ、又事柄ガ小問題デアルヤウニ御聴取ニナルカモ知レマセヌ、又私ハ政府當局ノ御趣旨ノアル所モ能ク承シテ居ルノデアリマス、然レドモ上ノ定ムル所、時トシテ下ニ徹底セズ、國民ヲシテ怨嗟ノ聲ヲ放タシムルコトガ多イノデアリマス、勿論寬嚴宜シキヲ得ルト云フコトハ口ニ之ヲ言フコトハ容易デアリマスレドモ、之ヲ實行スルコトハナカ、困難デアリマスルケレドモ、所謂上意下達、下意上達ト云フコトニ付テハ、政府當局ニ於テ更ニ一段ノ御留意アラムコトヲ望ム次第デゴザイマス、第四ハ豫算經理ニ關スル問題デゴザイマス、近時ノ跛行景氣ハ其ノ進行益々急速度トナッテ參リマシテ、一方ニ於テ軍需工業ノ成金ガ美酒ニ酔フト同時ニ、他方ニ於テハ業ヲ失ヒ生活ニ苦シム者、街ニ充チ滿チテ居リマス、假令職ヲ失ハザルニセヨ、一定ノ收入ニ依リテ衣食スル所謂低額所得者ハ、物價ノ暴騰ト増稅トニ脅サレマシテ、事實ノ減俸ニ遭ウテ居ルノト同様デゴザイマス、而モ彼等ハ戰線ニ於ケル將兵ノ勞苦ヲ思ヒ、何ノ不平モ唱ヘズシテ生活難ト悶ッテ居ルノデアリマス、帝國議會モ亦事變勃發以來、政府ノ提出セラレル豫算案ニ對シテハ一錢ノ削減モ加ヘテハ居リマセヌ、政府ハ、此ノ國民ノ血ノ結晶トモ申スベキ財政ヲ經理スルニ當ラレマシテハ、一厘一毛モ之ヲ濫費シテハナリマセヌ、然ルニ政府ノ爲ス所、非常時ノ蔭ニ隱レテ國民ノ期待ヲ裏切ルコトナキヤ否ヤ、各省豫算ノ經理ニ付テ濫費、濫給、跡ナキヤ否ヤ、私ハ關係者ニ御迷惑ヲ及スコトヲ惧レマスガ故ニ、事件モ年月日モ今日ハ申上ゲマセヌガ、巷間傳フル所ニ依レバ、或情勢ノ變化ニ依リ莫大ナル經費ヲ要スルコトト相成リ、内閣首腦部ニ於テ

臨時議會ヲ召集シテ、追加豫算ヲ要求スル決心ヲシテ居ラレタコトガアル、然ルニ再調査ノ結果、既定歳出豫算ノ見積甚ダ過大ナリシ爲ニ、右歳出豫算ノ剩餘殘額ヲ以テ裕ニ其ノ經費ヲ賄ヒ得ルコトヲ發見シ、臨時議會ノ召集ノ御取止メニナッタ事實ガアリ、而モ此ノ事實ガ豫算査定ノ事務ヲ大藏省ヨリ企畫院ニ移管セムトスル政府内部一部ノ主張ノ、直接ノ動機ト相成ッテ居ルヤニ承ッテ居ルノデアリマス、政府ハ昭和十四年度ノ豫算ヲ實行セラル、ニ當リ、慎重ノ上ニモ慎重ノ注意ヲ加ヘラレ、苟モ國民ノ眼ニ濫費、冗費ノ影ヲ留メザルヤウ御留意ヲ望ム次第デゴザイマス、最後ニ國內革新ニ對スル希望ヲ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス、近衛前內閣總理大臣ハ、帝國ハ必要ナル國內諸般ノ改新ヲ斷行シテ、愈々國家總力ノ擴充ヲ圖リ、萬難ヲ排シテ、進歩ノ達成ニ邁進セザルベカラズト聲明セラレ、而シテ平沼內閣總理大臣ハ、大體ニ於テ近衛內閣ノ方針ヲ踏襲スルト述べラレテ居ラレマス、然ルニ國內革新ニ關スル諸政策ハ今日ノ所行方不明ノ形デアリマシテ、少クモ帝國議會ニハ今日迄殆ド提案サレテ居リマセヌ、此ノ爲ニ或一部ニハ既ニ容易ナラザル不滿ノ聲ガ起ッテ居ルヤウニ承ッテ居リマス、勿論現內閣ハ成立日未ダ淺キガ故ニ、難キヲ責ムルコトハ酷デゴザイマセウ、又平沼內閣總理大臣ハ、衆議院ニ於テスカルクトハ徒ニ聲ヲ大ニシテハイカヌガ、著々トシテ實行スル積リデアルト答辯セラレ、ドウヤラ不言實行ヲ期シテ居ラレラヤウデゴザイマスルノデ、本員ハ此ノ平沼內閣總理大臣ノ御言明ニ信賴シテ、其ノ御實行ヲ待ッテ居ル者デゴザイマスルガ、何卒不言實行ガ不言不實行ニ終ラザルヤウ御願ヒ致ス次第デゴザイマス、以上本員ノ一個人ノ希望ヲ述べマシマス、本案ニ賛成ノ意思ヲ表スル者デゴザイマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 前田利定子爵

(子爵前田利定君演壇ニ登ル)

○子爵前田利定君 只今議題ニ上リマシタ昭和十四年度一般會計豫算各案ニ對シマシテ、私ハ時局ノ重大性ニ鑑ミ、小異ヲ捨テ大同ニ就クト云フ所存ヲ以テマシテ、無修正可決ノ意見ヲ有スル者デアリマス、サリナガラ此ノ機會ニ於キマシテ私ハ、當議會開會以來我が貴族院ノ各會議ヲ通ジマシテ、未ダ議員ノドナカラモ政府ニ對シテ強調論議ヲナサラナカッタ問題ヲ取上ゲマシテ、私ハ私ノ口カラ此ノ議場ニ於キマシテ臺閣諸公ニ御傳ヘテ致シ、政府ノ御賢察ヲ請ヒ、御賢慮ヲ煩ハシマシテ、政府經綸ノ貧困ナル場面ヲ一日モ速ニ是正追補セラレムコトヲ要望セムトスル者デアリマス、ソレハ國民生活ノ安定ニ關スルコトデアリマスルガ、主トシテ私ハ國民中ノ貧困者ニ對シマスル救護ニ付テ申上ゲタイト思フノデアリマス、豫算ト致シマシテハ厚生省ノ所管ノ豫算ニ觸レル問題デアアルノデアリマス、抑、本豫算案ハ、申上グル迄モナク聖戰目的ヲ達成セラレト云フコトヲ眼目ト致シマシテ長期建設ヲ企圖スルト云フコトニ付キマシテハ、國民大衆ヲシテ堅忍持久ノ決心ヲ固メシメタルト云フコトノ必要ナルコトハ論ヲ俟タイノ所デアリマス、右ニ付キマシテハ先ヅ以テ國民ノ生活ノ安定ト云フコトヲ十分ニ圖ラレラト云フコトガ喫緊ノ要務デアアルト信ジマス、就中國民中ニ於キマシテ、社會ノ下層ニ沈淪シテ居リマスル窮民ニ對シマス救護ハ最モ大切デアアルト思フノデアリマス、然ルニ政府ニ於ケラレマシテハ、統後ノ諸對策ニ付キマシテハ、隨分ト御行届ニナッテ居ルニ拘リマセズ、餘リニモ其ノ方ニ御行届ニナッテガ爲カ、其ノ方ニ御心ヲ取ラレタ所以ダラウト思フノデアリマスガ、只今申上ゲマシタ一事ニ付キマシ

テバ、昔ノ儘ニ打捨テ置カレ閑却サレテ居リマシテ、丁度置イテキボリニナクヤウナ感シガ致サレノデアリマス、抑、厚生省ノ新設セラレマシタコトハ何ノ爲デアリマシタカ、國民保健、國民ノ體位ノ向上並ニ國民生活安定ノ爲ニ綜合的國策ヲ遂行スルコト云フノ趣旨デアッタと思フノデアリマス、私ハ此ノ御趣旨ニ對シマシテハ誠ニ結構ト存ズルノデアリマス、其ノ實績如何ト見マスルコト云フト、國民生活、殊ニ窮民ニ對シマスル所ノ救護ガ甚ダ不十分不徹底デアリマシテ、誠ニ身窄シイ感シガ致スノデアリマス、此ノ點ハ國家社會ノ爲ニ轉タ寒心深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、現下ニ於ケル所ノ窮民救護ノ有様ヲ申上ゲマスレバ、私ノ調査スル所ニ依リマスレバ、全國ニ居ラレル所ノ方面委員ノ手ニ依ッテ保護ヲ受ケテ居リマス貧民世帯ノ總人員ハ、二百二十萬ノ多數ニ上ッテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ中ノ極貧者ニ對シマシテハ、政府ハ既ニ救護法並ニ母子保護法ヲ運用サレマシテ、所謂公的ノ保護ヲ加ヘラレテ居リマス、ソレト同時ニ隣保相扶ノ原動力トナッテ働イテ居ラレマスル方面委員ノ手ニ於テ、保護セラレル所謂私的ノ保護ニ付キマシテモ、政府ハソレガ指導誘掖ヲ努力サレテ居ラレルノデアリマス、公私ノ兩面カラシテ萬全ヲ策シテ居ラレマスル政府ノ御心構ニ對シマシテハ私ハ之ヲ多トスル者デアリマス、但シ御心構ヲ多トスルコト云フノデアリマシテ、其ノ實績ヲ見マスルコト云フト誠ニ寂寞ノ感ガ致スノデアリマス、昭和十二年ノ四月以降、半箇年間ニ於キマシテ、此ノ救護法ノ發動ニ依ッテ救護ヲ受ケマシタ人員ハ僅カニ十五萬八千人デアリマス、之ニ對シマスル救護費ハ三百十二萬餘圓デアリマシテ、一人平均當リハ二十六圓餘ニ相成ルノデアリマス、又母子保護法ニ依リマシテ、保護ヲ受ケマシタ人員ハ二萬一千

人デアリマシテ、之ニ對シマスル經費ハ三十一萬七千餘圓デアリマス、之ヲ一人平均ニ致シマスルコト云フト、十四圓餘ニナルノデアリマス、誠ニ少額デアルト思フノデアリマス、ドウシテ此ノ救護費ガ少額デアルカト申シマスルコト云フト、救護法ニ依リ救護ハ、生活ノ扶助費、兒女ノ教育費、疾病ニ對シマス療養費ナドガアルノデアリマス、其ノ救護ノ限度ハ勅令ニ於テ定メラレテアルノデアリマス、而シテ救護法ノ救護ノ場合ヲ申上ゲマスルコト云フト、居宅救護即チ被救護人ノ居宅ニ於テ救護シマス救護ハ、一日一人二十五錢以内、一世帯一日一圓以内ト定メラレテアルノデアリマス、地方ニ於キマシテハ、地方長官ガ此ノ勅令ノ規定ノ限度ニ鑑ミマシテ、其ノ地方ノ情勢ニ應ジテ手加減ヲスルコトニナッテ居ルノデアリマス、多クノ府縣ニ於ケル現狀ニ於キマシテハ、都市ニ於テモ、町村ニ於キマシテモ、其ノ限度ハ只今申上ゲマシタ勅令ノ最高限度以内デ、而モ遙カニ、遙カニ低位ニ定メラレテ居ルノデアリマス、デアリマスカラシテ、全國平均シテ見マスルコト云フト、一日一人十錢餘ニシカ付カスノデアリマス、皆様方モ御承知ノ通り、淺草觀音ノ境内ニ居リマス鳩デサヘモ、毎日々々明ケテモ暮レテモ、一年三百六十五日、絶間ナキ善男善女ノ參詣ニ依リマシテ、又其ノ子供達ヨリ鳩ガ撒イテ貰フ所ノ豆代ノ一日ノ總高ハ、私ハナカ、相當ノ高ニナルデアラウト思フノデアリマス、鳩ノ一日ノ餌代ニモ遠ク々々及バナイヤウナ細イ救護費ヲ以テ、救護ヲスル者モスル者デアリマスケレドモ、其ノ救護ヲ受ケル者ノ慘メサ加減ト云フモノハ實ニ想像ニ餘リアリト思フノデアリマス、如何ニ落チブレタリトモ、萬物ノ靈長タル人間一匹ガ鳩ニ頼ルケスルヤウナ悲惨ナル生活ヲスルコト云フトハ誠ニ同情ニ堪ヘヌ次第デアリマシテ、是等窮民ノ

生活ノ狀況ノ上ニ思フ御連ビニナリマシタナラバ、皆様方モ必ズ眼頭ガ熱クナラレルコトデアラウト私ハ思フノデアリマス、況シテヤ救護法ノ實施ニナリマシタノハ昭和十二年ノ一月カラデアリマスガ、其ノ當時ハ皆様御記憶ニアル通り、經濟界ハ誠ニ沈衰ヲシテ居リマシタ時代デアリマシタ、從ヒマシテ物價ハ著シク低落ヲシ、國民生活ハ今日ノソレト較ベテ見マシテ、比較的樂ナ時勢デアッタノデアリマス、其ノ時勢デアリマシテモ、一人一日平均十錢餘ノ生活費ト云フコトデアリマシテハ、ナカ、ニ生活ヲ支ヘル所カ、生命ヲ支ヘルコトスラモ容易ナコトデアリマシタ、思フノデアリマス、況ヤ其ノ後數年後ヲ經マシテ、經濟界ハ年々遂ウテ上向ニナリ、諸物價ハ騰貴ノ一路ヲ辿ッテ居リマス、殊ニ戰時態勢強化ノ今日ニ於キマシテハ、各物價ハ一齊ニ騰貴シテ居リマシテ、國民ハ之ヲ爲ニ生活上ノ脅威ヲ受ケツ、アル今日デアリマス、斯ノ經濟狀況ノ變異ニ伴ハナイ所ノ依然タル救護費ヲ被救護人ハ受ケテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、被救護人ト致シマシテハ已ムヲ得ナイ、自分ガ毎日常食トシテ居ル所ノ米ナリ、麥ナリ、鹽ナリ、味噌ナリ、野菜ナリ、其ノ量目ヲ二割方モ切詰メナケレバナラヌト云フ事態ニナッテ居ルノデアリマス、ト申シマスモノハ、最近ノ小賣物價指數ヲ調べテ見マスルコト、昭和十三年十二月ノ平均ト、昭和七年ノ平均トヲ較ベテ見マスルコト云フト、七割七分ノ騰貴ヲ示シテ居ルノデアリマス、尙又朝日新聞社調ノ、全國生計費指數ヲ調べテ見マスルコト云フト、昭和十三年ノ平均ト、昭和七年ノ平均ト指數トデハ、二割七分五厘ノ昂騰ヲ示シテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、被救護者ハ金高ノ方ハ變ラナイノデアリマシテ、物價ガ騰貴スルノデアリマスカラ、自分ノ食スル分量ヲ減ラ

スヨリ外ニハナイノデアリマス、誠ニ慘澹タル惻々ムベキ境遇ニ居ルモノト、皆様方ニ於テモ十分御想像ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、斯クノ如ク經濟界ノ變動ハアリマシテモ十年一日ノ如クニ、切詰メラレタル救護費ノ限度ト云フモノハ、未ダ曾テ引上ゲラレテ居ラナイノデアリマス、釘付ケニサレテ居ルノデアリマス、若シモ此ノ事實ヲ巴臺閣諸公ガ御承知ニナクナラバ、必ズヤ打棄テ、置カレナイコトデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、我々常識者ヘテ見マシテモ、物價ガ高クナッテ收入ガ變ラナケレバ、ソコニ破綻ノ生ズルコト云フトハ是ハモウ自明ノ理デアリマス、詰リ今日迄是等ノ給與限度ノ引上ガ行ハレナカッタ云フコトハ、又ソレニ關スル勅令ナゾノ改訂ガナカッタコト云フトハ、恐ラクハ臺閣諸公ハ此ノ邊ノ消息ヲ、餘リ高イ處ニ居ラレマスカラ御耳ニ達セラレナイノデアラウト思フノデアリマス、此ノ際此ノ席ニ於キマシテ、其眞情ヲ御耳ニ達シマスルデ、十分御考慮ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、之ニ對シマシテハ、要シマスルノニ、救護費ノ増額ヲスルコト云フト、ソレカラ關係勅令ノ規定ヲ所要ニ應ジテ改訂スルコト云フト、府縣ニ御指揮ニナリマシテ、其ノ府縣ノ標準限度ヲバ引上ゲサセルト云フ必要ガ迫ッテ居ルモノト、私ハ確信ヲ致シテ居ルノデアリマス、或一部ノ人ハ斯様ナコトヲ申スカモ知レマセス、救護費ハ其ノ額ノ儘デ宜シイノデアアル、未ダ曾テ救護費ガ足ラナイカラト云ッテ餓死シタ者ハ一人モ居ラナイノデアアル、日本ニハ古來隣保相扶ト云フ美風ガアッテ、救護費デ足ラナイ所ハ隣人ガ互ニ助け合フト云フコトニナッテ居ル、此ノ美風ハ何時迄モ尊重シテ行キタイモノデアアル、デアアルカラ、慈ニ救護費ヲ増額スルト云フヤウナコトハソレハ不可デアアル、斯様ナ見解ヲ持ツヤウナ方ガ、廣イ世ノ中ニ

若シアリトシタナラバ、ソレハ非常ナ御料
簡達ヒデアルト私ハ思フノデアリマス、此ノ
隣保相扶ノ美風ハ誠ニ尊重スベキコトハ勿
論デアリマスガ、此ノ隣保相扶ニ依リマ
シテ、貧民ノ救護ヲ致シテ居ル者ハ、是ハ
寧ろ方面委員ノ手ニ於テ行ハレテ居ルノデ
アリマス、何サマ、二百二十萬以上ノ窮民
ニ對シマシテ、法律ノ保護ヲ受ケテ居ル者
ハ、前述ノ如クニ僅カニ約二十萬人位ニ過
ギナイノデアリマス、アトノ二百萬人ト云
フモノハ、方面委員ガ此ノ隣保相扶ノ美風
ニ則リマシテ、益々ソレヲ普及徹底サセマシ
テ、今日迄モ懸命ニ努力シテ居ラレル其ノ
方ノ範圍ニ屬スルモノデアリマス、
ノミナラズ、救護ヲ受ケル者ハ元來ドウ云
フ人デアアルカト申シマス云フト、老人ト
カ子供トカ疾病者、癱瘓者ノ手合ヒデアリ
マシテ、自ら立テ立チ働イテ活路ヲ求メル
ト云フコトノ不自由ナ徒輩デアリマス、ソ
レガ人間並ミラシクナイ暗イ生活ヲ、
陽ノ目モ見ナイヤウナ路次裏デ、呻キ喘イ
デ居ルヤウナ有様デアリマス、デアリマス
ルカラ、救護費ガ殖エナケレバ、先程申上
ゲタ通りニ食ベル物ヲ減ラシテデモ何トカ
シテ行カケレバナラナイト云フ、悲シキ
境遇ニ陥ッテ居ルノデアリマス、デアリマス
カラ、救護法ニ依ル救護ハ、獨リ此ノ生活
ノ扶助バカリデアリマセヌ、子女ノ教育ト
カ、疾病ノ療養費ナドモアリマスルケレド
モ、ナカ／＼以テ露命ヲ繋イデ行クト云フ
コトスラモ困難デアリマスルカラ、ナカナ
カ自分ノ保健トカ榮養トカ云フヤウナコト
ニ手ノ届キヤウ答ハアリマセヌ、況ヤ子女
ノ教育ニ於テヤデアリマス、斯カル手合
ヒガ自分ノ健康ヲ害シ、天壽ヲ全ウスルコ
トヲ得ズシテ死期ヲ早メ、其ノ影響トシテ
子女ガ不良ノ仲間ニ入り込ンデ行クト云フ
コトモ、是モ分リ切ッタコトデアラウト思フ
ノデアリマス、斯ウ云フヤウナ境地ニハ得

テ惡思想ガ醸成サレルモノデアリマス、所
謂主義者ノ手ガソレニ伸ビマシテ、之ニ誘
致サレ引込マレ易イ所ノ素質ガ、斯カル所
ニ醗酵シ醗酵セラレルモノデアラウト思フ
ノデアリマス、故ニ斯ク考ヘテ參リマスレバ、
外ニ對シマシテ、日獨伊ノ防共ノ協同ノ鐵
陣ヲ張ルコトヲ圖ラレマスルト同時ニ、内
ニ對シマシテハ、地元タル國民ノ生活ノ安
定、殊ニ最モ呻吟シテ居ル所ノ、生活ノド
ン底ニ居ル所ノ此ノ窮民ノ救護ト云フ上ニ
溫キ手ヲ差伸ベテ、サウシテ自分ノ足許ヲ
バ踏ミ固メ、ドンナ主義ガ舞ヒ込ミマシテ
モ、貧乏搖ギモシナイヤウナ地盤ヲ作ルト
云フコトガ、誠ニ私ハ喫緊ノ急務デアルト
思フノデアリマス、抑、思想犯人ト云フモノ
ハドウ云フ者ガナルノデアアルカ、ドウ云フ
人ガ思想犯人ニナルノデアアルカ、ト斯ウ申
シマス云フト、私ノ乏シイ考カラ考ヘマ
シテモ、先づ第一ニハ親代々ノ貧乏暮シノ
者デアリマス、第二ニハ、自分ノ家ガ貧シ
クシテ、學校ニモ通フコトガ出來ズニ、徒
ニ身丈バカリ伸ビシテシマヒマシテ、人夫
的ノ勞働ハ出來マスト致シマシテモ、他ニ
何モ能ガ無イヤウナ人間、サウ云フヤウナ
手合ヒ、又第三者ニハ、自分ノ身體ガ病氣
デアルトカ、又自分ガ病氣デナクテモ、其
ノ家族内ニハ母親トカ女房トカ云フ者ガ病
ミ續キデアリマシテ、ドンナ／＼朝カラ
晩迄働キ續ケマシテモ貧乏神ガ側カラ離レ
テ呉レナイ、稼ギニ追ヒ付ク貧乏ナシト云フ
ノハ昔ノ諺デアリマスガ、幾ラ稼イデモ稼イ
デモ貧乏ノ淵カラ免レルコトガ出來ナイ、
丁度恰モ底無シノ沼ニ足ヲ踏ミ込ンダヤウ
ナモノデ、幾ラ藻掻イテモ喚イテモ、其ノ
沼カラ足ガ離レナイト云フヤウナ情勢ニ在
ル者ガ社會ノ隅々ニ夥シク存在シテ居ルノ
デアリマス、斯様ナ手合ヒガ假ニ威儀堂々
タル所ノ大廈高樓ノ、富シダ人ノ、所謂物
ヲ持ッタ人ノ立派ナル邸宅ヲ見マシタリ、都

大路ヲバキラビヤカナ服裝ヲシテ贅澤ニ味
ニ練リ歩ク所ノ、所謂持ッタル人々ノ得意ノ
有様ヲ見マシタ場合ニ、フト自分ノ慘メナ
境遇ニ思ヒ較ベマシテ、人ヲ呪ヒ世ヲ呪
ヒ、此ノ世間ト云フモノニ對シマシテ不滿
ト反感トヲ持ット云フヤウナ、若シ場合ニ
ナリマシタナラバ、其處ヘ主義ノ話ヲ持チ
込マレマシタナラバ、如何デアリマセウカ、
若シモコナラノ身體ガ左様ナ話ヲ受付ケナ
イヤウナ境遇デアリマシタナラバ、碌々ニ
聽キモ致シマスマイシ、又聽キマシテモ聞
キ流シテシマスモノデアリマスルケレドモ、
自分ノ慘メナ有様ニ思ヒ較ベマシテ、其ノ
話ガ如何ニモ面白ク聽キ取レルデアラウト
思ヒマス、此ノ社會デハナイ、自分ノ行手
ニハモット美シイ樂シイ所謂樂園ガアルヤ
ウニモ思ハレマシテ、而モ話ヲ聽イタダケ
デモ、自分ノ毎日々々憂鬱ナ、不快ナ暮シ
ヲシテ居ル身ニ取リマシテハ、誠ニ心ノ慰
メニモナルト云フヤウナ所カラ、知ラズ識
ラズニ主義ノ話ニ聽キ惚レマシテ、又主義
モ研究シテ見タクナリ、遂ニハ主義者ノ群
ニ入り、主義者ノ群カラ引張リ込マレルト
云フヤウナ徑路ヲ辿ルモノデアラウト私ハ
思フノデアリマス、固ヨリ思想犯人ナリマ
ス者ハ、獨リ貧民階級バカリノ者デハナイ
ニデアリマス、婦人ニ致シマシテモ、學生
ニ致シマシテモ、其ノ境遇ニ依リマシテハ、
フト思想犯人ニルヤウナ傾向ヲ持ッテ居リ
マスヤウナ者ハ、又入ルト云フヤウナ場合
モアリ得ルノデアリマスルケレドモ、此ノ場
合ハ貧民ノコトニ限局ヲ致シマシテ申上ゲ
テ居ルノデアリマス、如何ナル理論デアリ
マシテモ、其ノ理論ガ良クテモ、之ヲ受入
レ易イヤウナ缺陷ガ、社會ニゴザイマセヌ
デアリマシタナラバ、何ノ恐レル所ハナイ
ト思フノデアリマス、左様ナ理論ヲ受ケ
易イヤウナ缺陷ガ社會ニアリマシタ場合ニ
於キマシテ、政府ノ政治ノ御行届キ方ガ惡

カッタ場合ニ於キマシテハ、主義ハ其ノ缺陷
ニ乘ジテ割込ンデ來マシテ、擴ガテ行クト
トガ燎原ノ火ヲ睹ルヤウナモノデアラウト
思フノデアリマス、堯舜ノ時代ニハ、社會問
題ヤ生活問題ハ蓋シ無カッタラウト思フノ
デアリマスガ、恐ロシイノハ貧苦ニ、生活
ノ苦ニ呻吟シテ居リマス者ガ、此ノ世ノ中
ニ對シマスル不滿反感ノ情デアリマス、故
ニ政府ニ於カレマシテハ、思想犯人ヲ檢舉
シタリ、罰シタリスル事前ニ於キマシテ、斯
様ナ感情ノ懷カレナイヤウニ、十分溫イ政
治ヲ御ヤリニナラナケレバナラヌト思フノ
デアリマス、殊ニ先程モ二荒伯爵ノ仰セラレ
マシタ通りニ、現時ノ戰爭ハ、兵力戰ノミ
ナラズ思想戰ニナッテ居ルノデアリマス、而
モ長期ノ建設ノ長帳場ノ上ヲ進ンデ行ク
我ガ國ト致シマシテハ、斯様ナル窮民ヲシ
テ更生セシメテ、サウシテ貧シイナガラモ、
是等ノ人々ノ軒カラ朝晩炊事ノ煙ノ立昇ル
ヤウニ致サレヤウナ御施設ガナケレバナ
ラヌ時デアラウト思フノデアリマス、ソレ
ニ付キマシテハ、畏多クモ 明治天皇ハ斯
様ナ御製ヲモノサレマシタノ事アルニツケ
テ「ヨ／＼オモフカナ民ノカマトノ煙イカ
ニト」、是ハ明治三十七年中ノ御作デアリ
マス、惟フニ日露戰爭ノサ中ニ御詠出ニ相
成ッタ御製デアラウト拜察シ奉ルノデアリマ
ス、只今モ日本建國以來ノ未曾有ノ國難ニ
臨ンデ居リマシテ、大イニ事アル時デアリ
マス、尙又此ノ御製ト照シ合ハセテ誦シ奉ル時
ニ、誠ニ一天萬乘ノ神ノ御末ノ光輝アル御
位ニ在ラセラレナガラ、國ツ民ヲバ大御寶
ト思召ス大御心ノ程返ス／＼モ恐懼至極ニ
存ジ奉ルノデアリマス、且又皇室ニ於カレ
マシテモ、社會慈善事業ノ上ニ軫念アラセ
ラレマシテ、毎年紀元節ノ佳節ニハ妙カラ
ザル御内帑金ヲ平民間ニ御下賜ニ相成ッテ
居ルノデアリマス、誠ニ天恩ノ山ヨリ高ク

海ヨリモ深キ御仁恤ノ辱ナサハ、唯感泣感
激スルミノデアリマス、抑、救護法ノ救護
ト云フモノハ、當ニ生命ノ維持バカリデハ
アリマセズ、先程申上ゲマシタ通りニ、
生業ノ補助、疾病ノ治療、子女ノ教育ナド
ノ目的ヲ含ンデ居ルモノデアリマス、
マスガ、現状ノ支給ノ限度カラ見マシテ、
到底ソレハ及ビモ付カナイコトデアリマス、
政府ノ折角ノ御仁政モ徹底シテハ居ラスノ
デアリマス、又母子保護法ノ方ヲ見マシテ
モ、是ハ政府ニ於テモ大變ニ誇リ顔ニ仰セ
ラレタコトガアツタノデアリマス、母子保護
法ハ單ナル救貧法制デハナイ、母性ノ保護
ト子女ノ救養ニ重點ヲ置クノデアツテ、是ハ
積極的法制デアルト云フコトヲ申サレテ居
ルノデアリマス、何ガ積極的法制デアリマ
スカ、其ノ保護ノ經費ヲ見マスト云フト、
是亦救護法ノ救護費ト同様ニ、一日一人二
十五錢以内、養育扶助費モ一日一人二十五
錢以内、親子共ノ扶助費一世帯一圓以内、
救護法ト何等變ル所ハナイノデアリマス、
デアリマスルカラ、是モ矢張り母子保護法
ノ此ノ保護金額モ時ノ經濟情勢ニ應ジテ、
眞實ニ最下限ノ生活ヲ支ヘテ行クニ足ルガ
ケノモノ位ハ、奮發ヲ、政府ガナサラナケ
レバナラスト思フノデアリマス、之ヲ要シ
マスルノニ、救護サルベキ所ノ人員ハ、先
程申上ゲマシタ通りニ二百萬人以上ニモ上
テ居ルノデアリマシテ、之ニ對シマスル救
護費ハ、誠ニ較ベテ見マスレバ雀ノ涙ミタ
ヤウナモノデアリマス、是デハ到底所期ノ
目的ヲ達スルコトハ出來ナイ、折
角有難イオ役所ガ出來、又有難イ法律ガ出
來テモ、其ノ實際ノ救護、保護ヲ受ケル者
ノ側カラ申シマスルコト云フト、誠ニ頼ミ
ナラナイ心細イ次第デアリマシテ、ソレコ
ソ露ノ玉ノ緒ヲ繫ギ留メテ居ルト云フダケ
ノコトデアリマス、是ハ何トカ此ノ際政府
ノ方ニ於キマシテモ、此ノ窮民ノ救護ノ上

ニ十分思ヒヤリノ御頭ヲ傾ケラレマシテ、
サウシテ是等ノ窮民ノ法ノ目的タル更生ヲ
シテ參リマスヤウニ御仕向ケニナツテ、其ノ
成績ヲ御舉ゲニナルト云フコトガ、平沼内
閣ノ口癖ニ仰シヤル所ノ萬民輔翼、總親和
ノ實ガ其ノ時ニ舉ルモノダラウト私ハ思フ
ノデアリマス、サウナツテコソ初メテ廣大無
邊ナル御仁慈ニ浴シ、御仁慈カラ漏レル者
ガナイヤウニナルノデアラウト思フノデア
リマス、以上ノ理由ニ依リマシテ私ハ政府
ニ要望スルコトハ、救護法ニシテモ、母子
保護法ニシテモ、其ノ扶助額ヲバ、給與額
ヲバ増額ヲナサレト云フコトデアリマス、
幸ナコトニハ此ノ救護法ニ依ル救護費補助
モ、母子保護法ニ依ル處ノ保護費ノ補助モ、
之ハ補充科目ニナツテ居ルノデアリマスカ
ラ、昭和十四年度ノ豫算ノ運用ニ當ラレマ
シタ時ニ、所要ニ應ジテ増額支給ヲ爲サレ
バ足ルノデアリマス、又關係勅令ノ限度ヲ
御直シニナルト云フコトモ、左迄困
難ナコトデハナイノデアリマス、誰ガ聞
イテモ是ハ合理的ノ話デアリマス、又
府縣ニ對シマシテハ、府縣ノ限度ヲバ引上
ガルコトヲ御命令ニナリマスレバ宜シイノ
デアリマス、此ノ際終リニ臨ミマシテ私ハ
厚生大臣ニ對シマシテ御留意ヲ請ヒタイト
思フコトガアリマス、ソレハ昭和十四
年度ノ厚生省豫算、經常部第十五款ノ第五
項ニ、救護法ニ依ル救護費ノ補助費額ガ計
上サレテアリマス、又同第十項ニハ、母子
保護法ニ依リマスル保護費補助ガ計上サレ
テアルノデアリマス、然ルニ此兩方ノ補助
費ガ本年、十四年度ノ要求額ト、前年度ノ
要求額ヲ較ベテ見マスト云フト、兩方共ニ
各、三十萬圓宛減額ニナツテ居ルノデアリ
マス、誠ニ怪訝ニ堪ヘナイ次第デアリマス、
惟ヒマスニ、政府ニ於カレマシテハ、昨
年度ノ精算ノ結果、豫算所要額ヨリモ支拂
ガ少クナリマシテ使ヒ殘リガ出タカラ、其

ノ使ヒ殘リガ出タコトニ鑑ミマシテ査定減
ヲ行ハレタコトデアラウト、御推察ヲ申上
ガルノデアリマス、成ル程現状ノ儘デ、六
七年前ノ物價ノ廉イ時ニ決メテ勅令ノ限度、
而モ其ノ當時サヘモ誠ニ覺束ナイ程ノ少額
デアツタ限度、ソレハ六七年モ経ツテ、諸物
價ガ騰貴シタ今日ニ於テモ依然トシテ變ラ
ナイ限度、ソレデアリマスルカラ使ヒ殘リ
ノ出ルコトハ當然過ギル程當然デアリマシ
テ、若シ殘ラナカツタラバ、ソレコソ摩訶
不思議ト言ハナケレバナラヌノデアリマス、
申上ゲル迄モナク、地方ニ於キマシテハ、中
央ノ意ヲ體シマシテ勅令ノ最高限度ヨリモ
遙カニ、低イ限度ヲ定メテ居ルノデアリ
マス、ソレデアリマスルカラ、一日一人二
十五錢ノ割合デ豫算ヲ御組立ニナツテ居リ
マスルナラバ、勘定殘リノ出ルコトハ是ハ
當リ前ノ話デアリマス、ソレヲ政府ノ方ニ
於カレマシテ、是ハ救護ガ行居イテ使ヒ殘
リガ出タノダト云フ風ニ、若シ御考ニナツテ
居リマスナラバ、實ニ滑稽千萬デアリマス、
失禮ノ申分デハアリマスケレドモ、誠ニ御
目出度イ方ト申上ゲネバナラスト思ヒマス、
芳バシクナイ使ヒ殘リデアリマス、尙又進
ンデ申上ゲマスナラバ、此ノ救護費ノ補助
ト云フモノハ、國庫ニ於テ二分ノ一負擔シ、
地方ニ於テ二分ノ一負擔スルト云フコトニ
ナツテ居リマシテ、詳シク申上ゲマス、道
府縣ニ於テ四分ノ一、市町村ニ於テ四分ノ
一ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、
デアリマスルカラ、府縣ニ於キマシテハ、
何モ負擔ヲ輕クスルガ爲ニト申ス譯デモア
リマスマイガ、成ルベク此ノ限度ヲバ引上
グルナント云フコトハ、夢ニモ考ヘテ居ラ
スト思フノデアリマス、又實際ニ於キマシ
テ今日迄、引上ゲタト云フ話ヲ私聞ニシ
テ聞イテ居リマセズ、デアリマスルカラ、
是ハ政府ノ方ニ於テ先ヅ以テ率先シテ勅令
ノ規定ヲ改訂サレマシテ、經濟ノ狀況ニ適

應シタ所ノ救護費ヲ御遣ハシニナリ、窮民
ヲシテ更生セシムルヤウニ爲サラネバナ
スト思フノデアリマス、尙茲ニ申上ゲテ置キ
タイコトハ、全國ニ互リマス五萬ノ方面委
員ハ、從來トテモ隣保相互扶助ノ原動力ト
ナツテ隨分勉強シテ働イテ涙グマシキ努力
ヲ續ケラレテ居ルノデアリマスガ、斯様ナ
戰時下ニ於キマシテハ、此ノ法的ノ救護ヲ
モット發達進歩セシメマスト同時ニ、他面
ニ於キマシテハ、此ノ方面委員ノ手ニ於テ
スル救護ノ方モ拍車ヲ掛ケテ、モット之ヲ
強化シテ行カケレバナラヌ必要ニ迫ツテ
居ルト思フノデアリマス、ソレニ付キマシ
テハ、此ノ方面委員ニ對シマシテモ、一ツ
政府ノ方デ御奮發ニナツテ、精神的ノ優遇ノ
途ヲ與ヘ、又ソレト共ニ相當ノ經濟的援助ヲ
バ與ヘルト云フコトニナサツタラバ宜カ
ラウト私ハ思フノデアリマス、成ル程方面
委員ニ對シマシテハ後援ヲスル所ノ助成團
體ハ、アルコトハアリマスルケレドモ、全
國ヲ通ジマシテ僅カニ二千五百ノ團體キリ
シカナイノデアリマス、然ルニ委員設置ノ
市町村ヲ數ヘテ見マスルコト云フト、九千餘
ニナツテ居ルノデアリマスルカラ、助成團體ガ
其ノ四分ノ一ニシカ満タナイ譯デアリマス、
ノミナラズ、助成團體ト申シマシテモ敢テ
資力ガ豊富デアルト云フ譯デハナイノデア
リマシテ、事實ニ於テ隨分行詰ツテ居ル狀
況ヲバ見聞ヲ致シテ居ルノデアリマス、要
シマスルノニ、法的ノ救護ニ於テ十分ニ御
考慮ニナルコトト、又別働團體トシテ働イ
テ居ル所ノ、法律以外ニ働イテ居ル所ノ此
ノ方面委員ニ對シマスル一層ノ活躍、活潑
ニ努力ノ出來マスルヤウ途ヲ講ジテヤル
ト云フコトガ、私ハ兩々必要ナコトデアラ
ウト思フノデアリマス、尙先程申上ゲマシ
タ通りニ、昭和十四年度ノ豫算ノ運営ニ付
キマシテ、政府ノ御考一ツデハ直チニ實行
ノ出來ルコトデアリマスルケレドモ、萬々

一ニ昭和十四年度ニ於テハ豫備費カラ増額
スルトカ云フヤウナコトガ、御出来ニクイ
ヤウナ御事情ガアリト致シマスルナラバ、
已ムヲ得マセヌ、昭和十五年度ノ豫算編成
ニ際シマシテ、救護法ニ依ル救護費ノ補助、
母子保護法ニ依ル所ノ保護費補助ノ費用ニ
付キマシテモ、十分ニツ御考慮アラムコト
ヲバ煩ハシタイト思フノデアリマス、尙又
畏イコトデアリマスルケレドモ、 昭憲皇
太后ノ御歌ニ「アヤニシキトリ重ネテモ
オモフカナ寒サオホハム袖モナキ身ヲ」、何
ト御同情深イ御心デアラウカト拜察シ奉ル
ノデアリマス、寒イ夜、隙漏ル風ニモ、
其ノ寒氣ヲバ凌グニ足ルダケノ衣類調度ノ
持合セモナイヤウナ窮民ノ上ヲ、深ク御同
情遊バサレマシタ所ノ誠ニ畏イ御歌ト誦シ
奉ルノデアリマス、デ重ネテ申上デマスガ、
私ハ此ノ同情ト云フコトハ、同情ト云フ精
神ハ、社會道德カラ申シマスレバハ第一
義ニ置クベキモノデアラウト私ハ思フノデ
アリマス、又政治道德ノ上カラ申シマシテ
モ、此ノ同情ト云フモノハ第一ニ置クベキ
モノデアルト思フノデアリマス、甚ダ諄イ
ヤウデアリマスガ、ドウカ政府當局者ト致
サレマシテハ、社會ノ下層ニ沈淪ヲ致シテ
居リマスル、生活ノ下層ニ居リマスル憫
レムベキ無辜ノ窮民ヲ救護ナサイマシテ、
其ノ境地方主義ノ温床ニナリマセヌヤウニ、
進シデハソレ等ガ更生シマシテ、所謂萬民
輔翼ノ健全ナル國民ニ相成リマスルヤウニ
御願ヲ致シタイト思フノデアリマス、ソレ
デアツテコソ初メテ日頃標榜ナサル所ノ祭
政一致、道義政治ト云フモノノ表現ニナル
ト思フノデアリマス、私ハドウカ政府モ此
ノ點ニ重點ヲ置カレマシテ、他ノ銃後ノ諸
對策ノ行届クト同様ニ、此ノ邊ノ問題ニ付
キマシテモ、温カイ思ヒ遣リノアル、行キ
届イタ政治ヲシテ戴キタイト云フコトヲ切
ニ切ニ望ミマシテ、私ノ討論ヲ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ討論ハ終
リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議
ガナケレバ兩案全部ヲ問題ニ供シマス、兩
案全部ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス
(議員起立)

○議長(伯爵松平賴壽君) 全會一致ト認メ
マス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、軍馬
資源保護法案、日程第四、軍馬統制法案、日
程第五、競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律
案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是
等ノ三案ヲ一括致シテ議題ト爲スコトニ御
異議ハゴザイマセスカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス 櫻内農林大臣
(左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サ
ルモ參照ノクメ茲ニ載録ス以下之
ニ做フ)

軍馬資源保護法案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月四日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿
(小字ハ衆議院ノ修正ナリ)

軍馬資源保護法案
軍馬資源保護法案
第一條 本法ハ國防上特ニ必要トスル馬
ノ資質ノ向上ヲ圖リ軍馬資源ノ充實ヲ
期スルコトヲ目的トス
第二條 政府ハ軍馬タルベキ資質アル馬
ヲ選定スル爲メ命令ノ定ムル所ニ依リ毎
年馬ノ檢定ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノ
ヲ軍用保護馬ニ指定スルコトヲ得
市町村長ハ前項ノ檢定ニ立會ヒ又ハ當
該市町村ノ吏員ヲシテ之ニ立會ハシム

第三條 政府ハ前條第一項ノ檢定ヲ受ク
ル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ手當
及旅費ヲ給ス
第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎
年度豫算ノ範圍内ニ於テ軍用保護馬ヲ
飼養スル者ニ對シ補助金ヲ交付スルコ
トヲ得
第五條 軍用保護馬ノ所有者其ノ他命令
ヲ以テ定ムル者ハ其ノ軍用保護馬ニ付
本法ノ定ムル鍛鍊ヲ受ケシムルコトヲ
要ス
第六條 本法ニ依ル軍用保護馬ノ鍛鍊ハ
普通鍛鍊及鍛鍊競技トシ政府之ヲ管理
ス
普通鍛鍊ハ軍馬トシテ必要ナル能力及
馴致ノ向上維持ヲ圖ルコトヲ目的トス
鍛鍊競技ハ普通鍛鍊ヲ受ケタル軍用保
護馬ノ能力及馴致ヲ審査シ併セテ軍馬
ノ資質ニ關スル知識ノ普及ヲ圖ルコト
ヲ目的トス
第七條 普通鍛鍊ノ事業ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ地方長官之ヲ行フ
市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ普通
鍛鍊ニ關スル事務ノ一部ヲ行フ
普通鍛鍊ノ施行ニ因リ軍用保護馬死亡
シ又ハ傷害ヲ受ケタルトキハ政府ハ勅
令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス
第八條 鍛鍊競技ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ北海道、府縣、畜産組合聯合會、畜
産組合其ノ他政府ノ指定スル團體ヲシ
テ之ヲ行ハシム
鍛鍊競技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル
施設ヲ伴フモノ(以下鍛鍊馬競走ト稱
ス)ヲ行フコトヲ得ル者ハ命令ヲ以テ
定ムル畜産組合聯合會又ハ道府縣ノ區
域ニ依ル畜産組合其ノ他政府ノ指定ス
ル法人ニシテ鍛鍊馬場ニ付政府ノ許可
ヲ受ケタルモノニ限ル

第九條 鍛鍊馬競走ノ施行ハ鍛鍊馬場ニ於テ
入場者ニ對シ額面金額三圓以下ノ優等
馬票ヲ額面金額ヲ以テ發行スルコトヲ
得
優等馬票ノ發行ハ鍛鍊馬競走一競技ニ
付一人一枚ヲ限リ單式優等馬票及複式
優等馬票ヲ發行スル場合ニ於テハ鍛鍊
馬競走一競技ニ付一人一枚ヲ限ル
優等馬票ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ
學生生徒又ハ未成年者ニ對シ優等馬票
ヲ發行スルコトヲ得ズ
當該鍛鍊馬競走ニ於ケル命令ヲ以テ定
ムル施行委員又ハ當該鍛鍊馬競走ニ關
スル騎乘者其ノ他鍛鍊馬競走ノ事務ニ
從事スル者ニ對シ亦前項ニ同ジ
鍛鍊馬競走ノ施行者ハ優等馬票ノ的
中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該
競技ニ付テノ優等馬票ノ發行ニ依リ得
タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ拂戻
ヲ爲スモノトス但シ其ノ金額ハ優等馬票
ノ額面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ズ
優等馬票投票ノ的中者無キ場合ニ於ケル
優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額又ハ
前項但書ノ規定ニ依リ生ジタル超過金
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ優等馬票
ヲ購買シタル者ニ拂戻スベシ
前二項ノ拂戻金ノ債權ハ一年間之ヲ行
ハザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ入場者ヨリ入場料ヲ徵收
スベシ
鍛鍊馬競走ノ施行者ハ鍛鍊馬場ニ於テ
入場者ニ對シ額面金額三圓以下ノ優等
馬票ヲ額面金額ヲ以テ發行スルコトヲ
得
優等馬票ノ發行ハ鍛鍊馬競走一競技ニ
付一人一枚ヲ限リ單式優等馬票及複式
優等馬票ヲ發行スル場合ニ於テハ鍛鍊
馬競走一競技ニ付一人一枚ヲ限ル
優等馬票ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ
學生生徒又ハ未成年者ニ對シ優等馬票
ヲ發行スルコトヲ得ズ
當該鍛鍊馬競走ニ於ケル命令ヲ以テ定
ムル施行委員又ハ當該鍛鍊馬競走ニ關
スル騎乘者其ノ他鍛鍊馬競走ノ事務ニ
從事スル者ニ對シ亦前項ニ同ジ
鍛鍊馬競走ノ施行者ハ優等馬票ノ的
中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該
競技ニ付テノ優等馬票ノ發行ニ依リ得
タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ拂戻
ヲ爲スモノトス但シ其ノ金額ハ優等馬票
ノ額面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ズ
優等馬票投票ノ的中者無キ場合ニ於ケル
優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額又ハ
前項但書ノ規定ニ依リ生ジタル超過金
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ優等馬票
ヲ購買シタル者ニ拂戻スベシ
前二項ノ拂戻金ノ債權ハ一年間之ヲ行
ハザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十一條 鍛鍊馬競走ノ施行者優等馬票ヲ發行シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ發行ニ依リ得タル金額ノ百分ノ二十五以內ノ金額ヲ收得スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鍛鍊馬競走ノ施行者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納付金ヲ軍用保護馬鍛鍊中央會ニ納付スベシ
前項ノ納付金ハ軍用保護馬鍛鍊中央會ノ目的ヲ達スル爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス

鍛鍊馬場ノ開設又ハ維持、競走ノ觀覽、優等馬票ノ發行又ハ購買、撫辰金又ハ賞金ノ交付又ハ受領其ノ他鍛鍊馬競走ノ施行又ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十二條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ法人トシ鍛鍊競技ノ健全ナル發達ヲ圖リ以テ軍用保護馬ノ能力及馴致ノ向上ニ資スルト共ニ軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ヲ期スルコトヲ目的トス

軍用保護馬鍛鍊中央會ハ全國ヲ通ジ一箇トシ第八條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

軍用保護馬鍛鍊中央會成立シタルトキハ會員タル資格ヲ有スル者ハ總會會員トス

第十三條 政府ハ軍用保護馬鍛鍊中央會ノ保有スル資金ガ勅令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十四條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ
軍用保護馬鍛鍊中央會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ
第十五條 本法ニ定ムルモノノ外軍用保

護馬鍛鍊中央會ノ設立、登記、管理、監督、解散、清算其ノ他軍用保護馬鍛鍊中央會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 行政官廳ハ鍛鍊競技ノ施行者ニ對シ鍛鍊競技ノ施行ニ關シ監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 政府ハ鍛鍊馬競走ノ施行者又ハ軍用保護馬鍛鍊中央會ニ對シ鍛鍊競技ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ鍛鍊馬競走ノ施行者又ハ其ノ役員若ハ施行委員ノ行爲ガ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第八條第二項ノ許可ノ取消
二 鍛鍊馬競走ノ停止
三 優等馬票發行ノ停止又ハ制限
四 施行委員ノ職務執行ノ停止

第十九條 軍用保護馬ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出シ又ハ移出スルコトヲ得ズ第二條第一項ノ檢定ニ合格シタル馬ニ付命令ヲ以テ定ムル期間內亦同ジ

第二十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年軍用保護馬ノ檢査ヲ行ヒ之ニ合格セザルモノニ付軍用保護馬ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二條第二項ノ規定ハ前項ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第二十一條 政府ハ第二條第一項ノ檢定又ハ前條第一項ノ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ區域及期間ヲ指定シ馬ノ移動ヲ制限スルコトヲ得

第二十二條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付之ヲ適用セズ
一 當歲ノモノ又ハ明ケ十八歳以上ノモノ

二 國又ハ道府縣ノ所有ニ係ルモノ
三 前二號ノ外命令ヲ以テ定ムルモノ
第二十三條 軍用保護馬ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ軍用保護馬ノ指定ハ其ノ效力ヲ失フ

一 明ケ十八歳ニ達シタルトキ
二 輸出又ハ移出セラレタルトキ
三 國又ハ道府縣ノ所有ト爲リタルトキ

四 前三號ノ外命令ヲ以テ定ムル場合
第二十四條 市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付馬籍ニ其ノ旨記載スベシ

一 第二條第一項ノ檢定ニ合格シタルモノ
二 軍用保護馬ニ指定セラレタルモノ又ハ軍用保護馬ノ指定ヲ取消サレタルモノ若ハ其ノ指定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 鍛鍊競技ニ關シ第八條第二項ノ許可ヲ受ケズシテ優等馬票ヲ發行シ又ハ之ニ類似ノ行爲ヲ爲シタル者

二 第十八條第三號ノ停止又ハ制限ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

三 鍛鍊競技ニ關シ常習シテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

四 第十條第六項ニ掲グル者ニシテ前號ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタルモノ

第二十六條 鍛鍊馬競走ノ施行委員鍛鍊馬競走ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ

示シ若ハ數人共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シ同條ニ規定スル軍用保護馬ニ非ザル馬ヲ鍛鍊競技ニ出場セシメタル者

二 第十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ制限ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

三 第十條第五項又ハ第六項ノ規定ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

四 第十條第六項ニ掲グル者ニシテ優等馬票ヲ購買シタルモノ

五 第十條第七項ノ規定ニ依リ制限ニ違反シ拂辰金ヲ交付シタル者

六 第二十五條第一號乃至第三號ノ一ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ制限ニ違反シ優等馬票ヲ購買シタル者

二 第十條第五項ニ掲グル者ニシテ優等馬票ヲ購買シタルモノ

三 優等馬票ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

檢査ニ應ゼザル者

二 第二條第一項ノ檢定、第七條第一項ノ普通鍛鍊又ハ第二十條第一項ノ檢査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シタル者

禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 軍用保護馬鍛鍊中央會ノ役員又ハ鍛鍊馬競走ノ施行委員ガ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第三十六條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第三十二條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 本法ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村又ハ町村長ニ準ズベキモノトス

第三十三條 法律ノ規定ニ依ラザル馬ノ競走ニ關シ優等馬票、勝馬投票券若ハ之ニ類似ノモノヲ發賣シ又ハ之ニ類似ノ行為ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

第三十九條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十七條又ハ第三十條第一號若ハ第三號ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第四十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條並ニ第三十條第一號及第三號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ

第四十一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第三十六條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第四十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第三十七條 鍛鍊競技ノ施行者又ハ鍛鍊馬競走ノ施行委員第十六條、第十七條又ハ第十八條第四號ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第三十八條 本法ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村又ハ町村長ニ準ズベキモノトス

第四十四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第三十九條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十九條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第四十九條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五十八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

昭和十四年三月四日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯耆松平頼壽殿

種馬統制法案

種馬統制法案

第一條 本法ハ種馬ヲ整備シ其ノ配合ヲ統制シ以テ馬ノ改良増殖ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 馬ノ種付事業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ管掌ス

第三條 種牡馬ハ總テ國ニ於テ之ヲ所有スルモノトス但シ第七條ノ規定ニ依リ指定セラレタル種牡馬ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 政府ハ種牡馬タルベキ資質アル馬ヲ選定スル爲命令ノ定ムル所ニ依リ毎年公共團體又ハ私人ノ所有(以下民有ト稱ス)ニ係ル種牡馬ノ檢定ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノヲ候補種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第五條 政府ハ國有ノ種牡馬ヲ整備スル爲毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ所要ノ頭數ヲ限リ民有ノ候補種牡馬ヲ購買ス

第六條 政府ハ必要ニ應ジ國有ノ種牡馬ヲ候補種牡馬ニ、國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ種牡馬ニ決定ス

第七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ノ所有スル種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第八條 種牡馬ニ非ザレバ種付ニ供用スルコトヲ得ズ

第九條 種牡馬又ハ候補種牡馬ニハ去勢ヲ行フコトヲ得ズ

第十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ニ對シ種牡馬ノ飼養管理又ハ種付ニ關スル設備ノ改善ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ノ行為ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ特許ヲ取消シ又ハ種牡馬ノ種付ニ關スル業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第十三條 政府ハ優良種牡馬タルベキ資質アル馬ヲ選定スル爲命令ノ定ムル所ニ依リ毎年明ケ二歳ノ民有ノ種牡馬ノ檢定ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノヲ候補種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第十四條 政府ハ前項ノ檢定ヲ受ケル者ニ對シ勸令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第十五條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ所有者又ハ命令ヲ以テ定ムル者ノ申請ニ依リ明ケ三歳以上ノ民有ノ種牡馬ノ檢定ヲ行フ

第十六條 政府ハ前項ノ檢定ニ合格シタル馬ヲ優良種牡馬又ハ候補優良種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第十七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ候補優良種牡馬ヲ優良種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第十八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ種付ヲ爲スコト不適當ト認ムル種牡馬ニ付命令ノ定ムル所ニ依

リ其ノ種付ヲ制限スルコトヲ得

第十八條 政府必要アリト認ムルトキハ優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ當該馬ノ飼養管理又ハ種付ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ學術研究ノ爲ニスル馬ノ種付ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ政府ノ貸付シタル種牝馬若ハ候補種牝馬ヲ飼養スル者又ハ優良種牝馬若ハ候補優良種牝馬ヲ飼養スル者ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第二十一條 種牝馬、候補種牝馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出シ又ハ移出スルコトヲ得ズ

第二十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年民有ノ種牝馬、候補種牝馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ノ検査ヲ行ヒ之ニ合格セザルモノニ付其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 民有ノ種牝馬、候補種牝馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ指定ハ效力ヲ失フ

一 國有ト爲リタルトキ

二 輸出又ハ移出セラレタルトキ

三 前二號ノ外命令ヲ以テ定ムル場合

第二十四條 市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ種牝馬、候補種牝馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ニ指定セラレタル馬ニ付馬籍ニ其ノ旨記載スベシ其ノ指定ヲ取消サレタル馬又ハ其ノ指定ノ效力ヲ失ヒタル馬ニ付亦同ジ

區長トシ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキモノトス

第二十五條 第二十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條第二項ノ特許ヲ受ケズシテ馬ノ種付事業ヲ行ヒタル者

二 第八條ノ規定ニ違反シタル者

三 第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルモノ

四 第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルモノ

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第十一條ノ規定ニ依ル處分ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

四 第十二條ノ規定ニ依ル業務ノ停止又ハ制限ニ違反シタル者

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十三條第一項ノ檢定又ハ第二十二條ノ檢査ニ應ゼザル者

二 第十三條第一項ノ檢定又ハ第二十二條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者以外ノ者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルモノ

四 第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者以外ノ者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル處分ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルモノ

五 第十七條ノ規定ニ依ル種付ノ制限ニ違反シタル者

六 第十八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十九條 法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十五條、第二十六條第二號若ハ第三號、第二十七條第一號、第二號若ハ第四號又ハ前條第一號、第三號、第五號若ハ第六號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十條 第二十五條、第二十六條第二號及第三號、第二十七條第一號、第二號及第四號並ニ第二十八條第一號、第三號、第五號及第六號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ島嶼ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ施行セザルコトヲ得

種牝馬檢査法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前種牝馬檢査法ニ依ル檢査ニ合格シ本法施行ノ際現ニ同法ノ種牝馬タルモノハ第七條ノ規定ニ依リ種牝馬ニ指定セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際現ニ馬ノ種付事業ヲ行フ者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日より一年間ヲ

限り引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ前項ノ期間經過後引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

政府ハ勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ限り第十條ノ規定ニ拘ラズ國有ノ種牝馬又ハ候補種牝馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

本法施行前種牝馬檢査法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍其ノ罰則ニ依ル馬匹去勢法第一條中「種牝馬」ヲ「又ハ候補種牝馬」ニ加フ

馬匹去勢法第二條左ノ如ク改ム

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル牝馬ニハ去勢ノ施行ヲ猶豫ス

一 疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルモノ

二 學術研究ノ爲行政官廳ノ許可ヲ得タルモノ

三 前二號ノ外命令ヲ以テ定ムルモノ馬匹去勢法第四條第三號中「種牝馬」ニシテ檢査合格ノ證明ノ效力ヲ失ヒタルモノ「種牝馬」又ハ候補種牝馬ニシテ其ノ指定ヲ取消サレ又ハ指定ノ效力ヲ失ヒタルモノ」ニ改ム

馬匹去勢法第九條中「種牝馬檢査法」ヲ「種馬統制法中種牝馬又ハ候補種牝馬ニ關スル規定」ニ改ム

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月四日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案

競馬法第八條第一項ノ規定ニ依リ日本競馬會ガ政府ニ納付スベキ金額ハ同項ノ制限ニ拘ラズ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ十一・五以內ニ於テ命令ノ定ムル金額トス
前項ノ規定ニ依ル政府ニ納付スベキ金額ト競馬法第九條ノ規定ニ依ル賣得歩合金額トノ合計ハ賣得金ノ額ノ百分ノ十八ヲ超ユルコトヲ得ズ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

國務大臣(櫻內幸雄君) 只今議題トナリ

マシタ軍馬資源保護法案外二法律案ノ提案理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、先ヅ軍馬資源保護法案及種馬統制法案ニ付テ御説明申上ゲマス、今次ノ支那事變ニ依リ我が國トシテハ未曾有ノ多數ノ馬ガ徵發セラレ、支那各地ニ於テ軍馬トシテ大規模ニ各種ノ作戰ニ供用セラレマシタ結果、軍事ニ於テハ勿論、産業上ニ於テモ幾多貴重ナル經驗ヲ得タノデアリマス、右支那事變ノ經驗ト、最近軍備各般ノ施設ニ一大變革ヲ來シマシタ等ノ事情ニ依リ、陸軍ノ馬政ニ關スル要望ノ次第モアリマシテ、此ノ際廣義國防ノ見地ニ立チ、有事ノ際ニ於テ國軍所要ノ軍馬ノ供給ヲ容易ナラシムルト共ニ、努メテ産業上ニ及ス支障ヲ輕減致シマス爲ニハ、一面ニ於テ日滿等ヲ通シ、馬ノ生産及分布ノ調整ヲ圖リ、以テ馬資源ノ培養充實ニ努メマスルト共ニ、他面國內ニ於キマシテ、國內保有馬ノ資質及能力ノ向上、馬ノ生産力ノ擴充ヲ圖リ、以テ馬政上遺憾ナキヲ期スルコトヲ緊要ト認ムルノデアリマス、仍テ國內保有馬ノ資質及能力ノ向上ヲ圖ル方策トシテ茲ニ軍馬資源保護法ヲ制定シ、又馬ノ生産力ヲ擴充スル方策ト致シマシテ種

馬統制法ヲ制定シ、國防上特ニ必要トスル馬ノ資質ノ向上ヲ圖ルト共ニ、有能馬ノ造成ニ努メトスルモノデアリマス、而シテ軍馬資源保護法案ノ主要ナル内容ト致シマシテハ、國防上特ニ必要トスル馬ヲ軍用保護馬ニ指定シ、之ガ飼養管理ヲ十分ナラシムル爲、飼養費ノ一部ニ對シ助成ヲ爲シ、又軍用保護馬ニハ一定ノ鍛鍊ヲ行ハシメ、常ニ軍馬タル必要ナル能力ヲ充實セシムルト共ニ、軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ニ資スル爲、鍛鍊馬競走ノ施行ヲ認メ、且軍馬資源確保ノ爲、輸移出ニ付政府ノ許可ヲ要スルコトトシ、尙又軍用保護馬鍛鍊中央會ヲ設置スル等ノ規定ヲ設ケマシテ、軍馬資源ノ保護充實ヲ圖ルコトヲ目的ト致シテ居ルノデアリマス、種馬統制法案ノ主要ナル内容ト致シマシテハ、優良ナル種牡馬及種牝馬ヲ整備充實スルト共ニ其ノ配合ヲ統制シ、以テ馬ノ改良増殖ヲ圖ルコトヲ目的ト致シ、之ガ爲種牡馬及種牝馬ノ制度、優良種牝馬及候補優良種牝馬ノ制度、馬ノ種付事業ノ特許制度等ヲ設クルコトトシテ居ルノデアリマシテ、種牡馬ハ之ヲ國有トシ、又優良種牝馬等ノ飼養者ニ對シテハ保護助成ノ途ヲ講ズルノ外、生産資源確保ノ爲、其ノ輸移出ニ付政府ノ許可ヲ要スルコトトシ、以上ノ制度ノ運用ニ依リマシテ馬ノ改良増殖上遺憾ナキヲ期シタイト存ズルノデアリマス、次ニ競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、今次支那事變ノ推移ニ對處シ、併セテ最近ニ於ケル競馬施行ノ實況ニ鑑ミマシテ、此ノ際競馬法ニ依ル政府納付金ニ關シ所要ノ改正ヲ加フルノ要アリト認メマシテ、右ニ關シ過般馬政調査會ニ對シテ諮問ヲ致シ、其ノ答申ニ基イテ本案ヲ立案致シタモノデアリマシテ、競馬法ニ依ル政府納付金率及比之ニ關聯スル勝馬投票券ノ賣得金ニ對スル控除率ニ關シ、臨時的

ニ必要ナル改正ヲ加ヘムトスルモノデアリマス、以上ガ軍馬資源保護法案、種馬統制法案及競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案提出ノ理由ノ大要デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 質疑者ガゴザイマス、通告ノ順ニ依リマシテ御許シ致シマス、大河内輝耕子爵
○子爵大河内輝耕子爵 簡單デゴザイマスカラ、此ノ席カラ……
○議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス
○子爵大河内輝耕子爵 私人內務大臣ニ質問シタイ、此ノ軍馬資源保護法案ニ付キマシテハ衆議院デ修正ニナリマシタ、此ノ修正ニ付キマシテ政府ハ御同意デアアルヤ否ヤ、其ノ點ヲ伺ヒタイ、尙御同意アルニシテモ、ナイニシテモ、其ノ理由ヲ併セテ伺ヒタイ
○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 大河内サンニ御答ヲ致シマス、此ノ軍馬資源保護法案ニ付キマシテ衆議院ハ修正ヲ致シタノデアリマスガ、此ノ修正ニ對シマシテハ政府ハ此ノ際同意致シ兼ネル次第デアリマス、其ノ理由ト致シマシテハ、內務省ノ關係ニ於キマシテ、所謂馬券ヲ買ヒマスル者ニ對シマシテ地方稅又ハ之ニ代ル寄附金ノ制度ヲ存置致シマスコトハ相當理由ノアルコトデアアルト考ヘマスルシ、又此ノ所謂馬券ヲ買ヒマスル者ノ擔稅力竝ニ他ノ奢侈的ノ課稅トノ間ノ均衡其ノ他ニ考ヘマシテ、之ニ課稅スルノハ何等差支ナイト思ハレマス、從前此ノ地方稅ヲ課シ、又ハ之ニ代リマスル寄附金ヲ收納シテ居リマシタ地方團體ノ財政ニ付テモ相當影響ガアリマスノデ、此ノ際此ノ修正ニハ應ジ兼ネル次第デアリマス
○子爵大河内輝耕子爵 仰セノ通り此ノ問題ハ財政上相當ノ關係モアルノミナラズ、種馬統制法ノ上カラモ重大ナ問題ダ

ト私ハ考ヘル、ドウカ此ノ委員會ノ議ヲ進メラレルニ付キマシテモ十分其ノ點ヲ考慮ノ中ニ入レテ御審議ヲ願ヒタイト存ジマス、是デ質問ハ終了致シマシタ
○議長(伯爵松平賴壽君) 土方寧君
○土方寧君(演壇ニ登ル)
○土方寧君 只今議題ニ上ツテ居リマスル三號乃至五號ノ中ノ一番オ終ヒノ競馬法ノ法案デアリマスガ、是ハマア現行ノ競馬法ヲ基礎トシタモノデアリマシテ、之ニ付テ兎ヤ角言フ考デハアリマセヌ、現行ノ競馬法ト云フノハ、所謂馬券附競馬法デアリマス、是ハ私ハ思想ヲ惡化スルモノデアアルカラ斷然廢スベキモノデアアルト固ク豫デカラ信ジテ居ルノデアリマス、長イコトハ申シマセヌガ、日清戰爭ノ時分ニ、日本ノ馬匹ト云フモノハ非常ニ貧弱ナモノデアッタノデ、ソレカラ後、馬匹改良ノ必要ヲ感ジテ馬政局ガ出來、其ノ改良ノ方法トシテ、馬券附競馬ヲ行フヤウニナツタ、日露戰爭ノ時ハ幾分改良サレタ結果ガ見エタト云フコトデアリマス、日露戰爭後大變ニ繁昌シタ時分ニ、人心ガ輕佻浮薄ニ流レテ、馬券附競馬ト云フモノガ盛ニ行ハレタノデアリマスガ、其ノ弊害ヲ御憂慮遊バサレタノデアリマセウ、明治天皇カラ戊申詔書ヲ拜スルヤウニナツタノデアリマス、時ノ政府ハ其ノ戊申詔書ノ御趣旨ニ基イテデアリマセウ、馬券附競馬法ヲ斷然廢シマシタ、處ガ何回デアリマスカ知ラスガ、大正十一年カラ十二年ニ跨ル議會デ、矢張り馬匹ノ改良ヲスルノハ競馬ニハ、馬券附デナケレバイケヌト云フノデ提案サレタ、其ノ時ニ私ハ極力反對シマシタガ、仕甲斐ガナクテ今日行ハレテ居ル、ソレカラ又地方ニモ色々ノ小規模ノモノガ段々殖エマシテ、私ハ都會ノ人心ガ隨分惡化シテ居ルト思ヒマスガ、ソレニ比スレバ實ニ堅實ナ農村ノ住民ニ對シテ、多ク競馬ハ郡部デ行

ハレマスカラ、都會ノ近クデモ何程害ヲ及
シテ居ルカ分ラヌ、私ハ長イコトハ申シマ
セヌガ、何事ニ付テモ思想ガ根本デアリマ
ス、思想改善、善導ト云フコトハ内閣
デモ常ニ仰シヤル、斯ウ云フ時局ニ際シテ
ハ尙更必要デアリマス、私ノ考デハ、此ノ
馬券附競馬ト云フモノハ賭博類似ノモノ思
フ、賭博トハ申シマセヌ、賭博ハ維新前カ
ラ國禁デアリマス、處ガナカノ根絶スル
コトハムツカシイ、支那人ハ賭ケガ好キ
デ、麻雀ナント云フモノハ賭ケノ道具ダサ
ウデアリマスガ、是ガ輸入セラレテ、近
頃都會等……東京ナンゾデモ隨分麻雀俱樂
部ガ澤山アルヤウデスシ、斯ウ云フ風ナ國
禁ノ賭ケ事ヲスルト云フコトハ、ソレト類
似ノ馬券附競馬ヲ公許シテ居ルト云フコト
ガ、一大原因ヲ爲シテ居ルト思フ、國民ハ
ソレ程惡イト思フデ居ナイ、是ハ大變ナ間違
ヒト私ハ思ヒマス、馬匹改良ノ爲ニハ競馬
ガ必要、競馬ヲ盛ニスル爲ニハ馬券ノ賣買
ヲ許サナケレバナラヌト言ヒマシテモ、人
心ヲ惡化スルモノデアアルナラ比較ニナラ
ヌ、輕重顛倒シテ話デ、是程人ヲ馬鹿ニシ
タ考ハナイト思ヒマス、馬匹ノ改良ガ必要
デモ人心ガ惡化シタラドウナリマセウ、是
程人ヲ馬鹿ニシタヤリ方ハナイト私ハ考ヘ
ル、ソレデ此ノ件ニ付キマシテ、總理大臣
ガ非常ニ國民思想ニハ深甚ノ關心ヲ持ッテ
居ラル、コトハ豫テ承知シテ居リマス、デ
スカラ文部大臣ハ先刻迄御出席デアリマシ
タガ御歸リデアリマシタカラ他日宜シウ
ゴザイマスガ、是ハ教育ノ方ノ主管デアリ
マスカラ、總理大臣ト文部大臣ニ馬券附競
馬ヲ許スト云フコトガ、思想ヲ惡化セシム
ルモノデアアルカラ宜クナイト云フヤウニ私
ハ考ヘマスガ、サウ御考ニナラナイカ、廢
スベキモノト思フケレドモ存置シテ置イテ
モ宜イト思フケレドモ存置シテ置イテ
ヲ御尋シマシテ、抽象的ニ御伺ヒスル代リ

ニ、私ノ考デハ明治十五年ノ陸海軍軍人ニ
賜ッテ、明治天皇カラ賜ッタ軍人ニ對スル
勅諭デス、ソレカラ二十二年ノ十月、欽定憲
法ガ實施セラレル一年數箇月後、是ハ大イ
ニ前後ノ關係ニ意味ガアルト思ヒマスガ、
教育勅語、ソレカラ先刻申シマス所ノ戊申
詔書時ノ政府ハ之ニ依ッテ廢シタノデアリ
マス、ソレカラ大正十二年ノ關東震火災ノ
後、御承知ノ通り下町六、殆ド灰燼ニ歸シ、人
心ガ混亂狀態ニ陥ッタ時ニ、大正天皇カラ
精神作興ノ詔書ヲ拜シテ居マス、此ノ中デ
教育勅語ニ反スルト御考ハナイカト申シタ
ラ、ソレハ直グニ即答ガ出來ルト思フ、多分
總理大臣ニ於テハ暗誦シテ御イデガラウト
思フ、暗誦シテ御イデニナラナケレバ大變ナ
不心得ダト思フ、明治天皇御自身、拳拳
服膺云々ト云フコトガアリマスガ、私ノ考
デハ立憲治下ニ於テ、天皇ヲ輔弼シ奉ル
重責ニアル國務大臣ハ、毎日朝何デスニ、殆
ド教育勅語ト云フモノノ暗誦、復習ヲサレ
ル積リデ職ニ當ルモノト思フデ行カナケレ
バナラナイ、是ハ御承知デアリマセウガ、
十五年ノ軍人ニ對スル勅諭ト云フモノハ長
イモノデアアル、是ハ陸軍大臣ハ大體ノ趣意
ハ御承知ガラウケレドモ、文句ハ一々御存
ジナイト思ヒマス、私讀ンデ見マシタガ大
變長イ、戊申詔書デアリマスツカ、大正十
二年ノ精神作興ノ詔書ト云フヤウナモノニ
反シナイカト云フタ時ニ、其ノモノヲ御覽
ニナラナケレバ御答ガ出來ナイト思ヒマス
カラ、即答ハ促サナイ、此ノ四ツノモノニ
照ラシ、之ニ示サレテ居ル所ノ一貫シタル
御聖旨ニ反スルモノデナイカ、私ハ反スル
ト思フノデスケレドモ、反スルモノナラ無
論廢シナケレバナラヌ、其ノ點ヲ今日ハモ
ウ即答ハ出來ナイガラウト思フガ、是等ノ
モノヲ見ナイヲ御答ハ出來マスマイ、之ニ
反シナイカ、見ナイデハ即答ハ出來マスマ
イ、ソレダカラ、サウ云フ質問ヲシテ、後

- 日御回答ヲ得タイト思ヒマス
- 子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
軍馬資源保護法案外二件ハ重要ナル法案デ
アリマスルガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十
八名トシ、其ノ委員ノ氏名ヲ議長ニ一任ス
ルノ動議ヲ提出致シマス
- 子爵秋田重孝君 贊成府藩子爵ノ動議ニ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
- 〔丸龜書記官朗讀〕
- 軍馬資源保護法案外二件特別委員
- | | |
|----------|----------|
| 伯爵西郷 從德君 | 侯爵四條 隆德君 |
| 伯爵溝口 直亮君 | 子爵高倉 篤磨君 |
| 子爵會我 祐邦君 | 子爵西尾 忠方君 |
| 大島 健一君 | 宇佐美勝夫君 |
| 男爵千田 嘉平君 | 堀切善次郎君 |
| 男爵關 義壽君 | 男爵佐藤達次郎君 |
| 次田大三郎君 | 金杉英五郎君 |
| 高島 順作君 | 三橋 彌君 |
| 宇野 勇作君 | 米原 章三君 |
- 議長(伯爵松平賴壽君) 日程第六、裁判
所構成法改正法律案、日程第七、檢察廳法
案、衆議院提出、第一讀會、是等ノ兩案ヲ
一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイ
マセヌカ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス
- 裁判所構成法改正法律案
右本院提出案及送付候也
昭和十四年三月二日
- 衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿
- 裁判所構成法
第一章 總則
- 第一條 裁判所ハ民事及刑事ヲ裁判ス

- 第二條 裁判所ハ區裁判所、地方裁判所、
控訴院及大審院トス
- 司法事務上必要アルトキハ法律ヲ以テ
或ル地方裁判所ヲ民事ノミヲ管轄スル
裁判所又ハ刑事ノミヲ管轄スル裁判所
ト爲スコトヲ得
- 第三條 裁判所ニ判事ヲ置ク
- 第四條 裁判ニ關スル職務ノ執行ニ付テ
ハ判事ハ獨立ノ地位ヲ有ス
- 第五條 區裁判所ニ於テハ判事單獨ニテ
裁判ヲ爲ス
- 地方裁判所ニ於テハ三人ノ判事、控訴
院ニ於テハ五人ノ判事、大審院ニ於テ
ハ七人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於
テ合議ニ依リ裁判ヲ爲ス
- 第六條 裁判所ノ設置及管轄區域ハ別ニ
法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 裁判所ニ於テハ國語ヲ用フ
- 第八條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十
二月三十一日ニ終ル
- 第九條 裁判所ノ事務章程ハ司法大臣之
ヲ定ム
- 大審院ハ自ラ事務章程ヲ定ム
- 第二章 區裁判所
- 第十條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ
事件ニ付管轄權ヲ有ス
- 一 千圓ヲ超過セサル金額又ハ價額千
圓ヲ超過セサルモノニ關スル事件
- 二 價額ニ拘ラス左ノ事件
- イ 住家其ノ他ノ建物ノ賃貸借關係
ニ基ク事件
- ロ 占有ノミニ關スル事件
- 反訴ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス訴訟
法ノ定ムル所ニ依リ管轄權ヲ有ス
- 第十一條 區裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左
ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス但シ豫審ヲ經
タルモノ及特ニ大審院ノ管轄ニ屬セシ
タルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一 拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ事件

二 短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該

ル罪ヲ除ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ノ事件

第十二條 區裁判所ハ破産事件ニ付管轄權ヲ有ス

第十三條 區裁判所ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付管轄權ヲ有ス

非訟事件中登記事務ハ錄事ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十四條 區裁判所ノ權限及權限行使ノ方法ハ本法ニ規定スルモノノ外訴訟法其ノ他ノ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 司法大臣ハ區裁判所ノ事務ノ一部ヲ同一地方裁判所ノ管轄區域内ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條 司法大臣ハ區裁判所ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲區裁判所出張所ヲ設置スルコトヲ得

第十七條 判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トス

第十八條 監督判事又ハ判事一人ノ區裁判所ニ於テハ其ノ判事ハ其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

監督判事差支アルトキハ他ノ判事席次ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

判事一人ノ區裁判所ニ於テ其ノ判事差支アルトキハ裁判事務ノ代理ヲ爲ス判事之ヲ代理ス

第十九條 區裁判所ノ事務ハ各判事ニ分配ス

第二十條 判事差支アルトキハ其ノ區裁判所又ハ他ノ區裁判所判事之ヲ代理ス

第二十一條 區裁判所ニ於ケル事務分配

及代理順序ハ地方裁判所長毎年豫メ之ヲ定ム

第二十二條 司法大臣ハ區裁判所カ事務ヲ取扱フコトヲ得サル事由ヲ生シタル場合ニ於テハ地方裁判所長ノ毎年豫メ定メタル順序ニ依リ他ノ區裁判所ヲシテ代理之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十三條 事務ノ分配ハ司法年度中ニ之ヲ變更セス但シ判事事務分擔著シク不均衡ト爲リタル場合又ハ轉職、退職、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 區裁判所判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第二十五條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 第一審トシテ

區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ事件

二 第二審トシテ

イ 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

ロ 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル

抗告

第二十六條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 第一審トシテ

區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノ及特ニ大審院ノ管轄ニ屬セシメタルモノヲ除キ其ノ他ノ事件

二 第二審トシテ

イ 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

ロ 大審院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判所ノ決定命令ニ對スル

抗告

第二十七條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關スル區裁判所ノ決定及命令ニ對スル抗告ニ付管轄權ヲ有ス

第二十八條 地方裁判所ニ一又ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ置ク

第二十九條 地方裁判所ニ所長ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク

第三十條 所長ハ部長ト爲リ且其ノ廳ノ行政事務ヲ、部長ハ裁判長ト爲リ部ノ行政事務ヲ掌ル

第三十一條 所長差支アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部長之ヲ代理ス

部長差支アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部員之ヲ代理ス

第三十二條 豫審事務ヲ取扱フヘキ判事ハ司法大臣之ヲ命ス

第三十三條 地方裁判所ノ事務ハ之ヲ各部各豫審判事及其ノ他ノ各判事ニ分配ス各部長、部員ノ配置及所長、部長、部員差支アル場合ニ於ケル代理ノ順序ハ部長及上席判事ト協議シテ所長毎年豫メ之ヲ定ム

第三十四條 地方裁判所判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其ノ廳ノ判事中代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得但シ豫備判事ハ各部一人ニ限ル

前項ノ場合ニ於テ緊急ノ必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ管轄區域内ノ他

ノ地方裁判所判事ヲシテ豫審事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三十五條 民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テ裁判事務上必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ民事地方裁判所又ハ刑事地方裁判所ノ判事ニ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所又ハ民事地方裁判所ノ判事ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第三十六條 第十四條及第二十三條ノ規定ハ地方裁判所ニ之ヲ準用ス

第三十七條 司法大臣ハ地方裁判所ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲支部ヲ設置スルコトヲ得

支部ノ上席ノ部長又ハ上席ノ判事ハ支部ノ行政事務ヲ掌ル

上席ノ部長又ハ上席ノ判事差支アル場合ニ之ヲ代理スヘキ者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 控訴院

第三十八條 控訴院ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

二 大審院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル抗告

第三十九條 控訴院ニ院長ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク

第四十條 院長ハ部長ト爲リ且其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

部長ハ裁判長ト爲リ其ノ部ノ行政事務ヲ掌ル

第四十一條 院長ハ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其ノ廳ノ判事

中代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ管轄區域内ノ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得但シ豫備判事ニ之ヲ命スルコトヲ得ス

第四十二條 第十四條、第二十三條、第二十八條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ控訴院ニ之ヲ準用ス

第五章 大審院

第四十三條 大審院ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 終審トシテ

イ 上告

ロ 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令並に控訴院ノ決定及命令ニ對スル抗告

ハ 地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條、第七十七條乃至第七十九條及第八十一條乃至第八十九條ノ罪並に治安維持法第一條第一項ノ罪及其ノ未遂ノ罪ノ事件

第四十四條 大審院ニ院長ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク

第四十五條 院長ハ部長ト爲リ且其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

部長ハ裁判長ト爲リ其ノ部ノ行政事務ヲ掌ル

第四十六條 院長ハ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其ノ廳ノ判事中代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ事件緊急ナリト認ムルトキハ控訴院ノ判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第四十七條 法律上ノ點ニ付爲シタル大審院ノ裁判ハ當該事件ノ裁判ニ付裁判所ヲ羈束ス

第四十八條 大審院ニ於テ法律上ノ點ニ付前ニ爲シタル裁判ト異ル裁判ヲ爲サントスルトキハ事件ノ性質ニ從ヒ民事若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シタル部ニ於テ審判ヲ爲ス

聯合審判ハ當該事件ヲ擔任スル部ノ請求ニ因リ院長之ヲ命ス

第四十九條 聯合部ハ相當ト認ムルトキハ當該法律上ノ點ニ限リ裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ聯合審判ノ請求ヲ爲シタル部ニ於テ事件ヲ完結ス

第五十條 聯合部ノ審判ハ聯合部ノ判事三分ノ二以上關與シテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ聯合部ノ判事中席次最モ高キ者ヲ部長トス但シ院長ハ自ラ部長ト爲ルコトヲ得

第五十一條 院長ハ第一審ニシテ終審タルヘキ刑事ノ事件ニ付其ノ廳ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ他ノ裁判所ノ判事ニ豫審ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 第十四條、第二十三條、第二十八條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ大審院ニ之ヲ準用ス

第六章 判事

第五十三條 判事ハ三年以上辯護士トシテ實務ニ從事シタル者ヨリ之ヲ任ス

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ判事ニ任セララルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二 破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
三 懲戒處分ニ因リ免官セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者

第五十五條 新ニ判事ニ任セラレタル者ハ一時豫備判事トシテ地方裁判所ニ勤務セシムルコトヲ得

第五十六條 判事ハ終身官トシ親任、勅任又ハ奏任トス

第五十七條 大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ヲ親補ス

控訴院長、大審院部長及地方裁判所長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ヲ以テ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ヲ以テ司法大臣之ヲ補ス

第五十八條 五年以上判事タル者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セララルコトヲ得

第五十九條 十年以上判事タル者ニ非サレハ大審院判事ニ補セララルコトヲ得

第六十條 判事タル資格ヲ有スル者ニシテ左ニ掲クルモノノ在職ハ前二條ノ適用ニ付テハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス
一 朝鮮總督府判事
二 臺灣總督府法院判官
三 關東廳法院判官
四 南洋廳判事
五 實務ニ從事スル辯護士
六 帝國大學令又ハ大學令ニ依リ大學ニ於テ民事又ハ刑事ニ關スル法律學ノ教授ヲ擔任スル教授、助教授又ハ專任教員

七 行政裁判所長官及行政裁判所評定官
八 司法次官、司法省各局長及司法書記官
九 訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務

並登記事務ニ從事スル領事官
第六十一條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關係スルコト
二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト

三 帝國議會ノ議員又ハ道府縣市町村ノ議會ノ議員トナルコト

四 行政事務ニ關スル公務ヲ兼ヌルコト
五 商業ヲ營ミ又ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員ト爲ルコト

第六十二條 司法事務上必要アルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ判事ニ轉職ヲ命スルコトヲ得

第六十三條 判事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ本人ノ願ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第六十四條 前二條ノ總會ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第六十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ關位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待タシム

第六十六條 判事禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第六十七條 判事ハ第六十二條ノ規定ニ依リノ外懲戒ノ處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官、轉職又ハ免官セララルコトナシ

前項ノ規定ハ豫備判事ニ對シ勤務スヘキ裁判所ノ變更ヲ命スルコトヲ妨ケス
第六十八條 判事ニ對シ懲戒訴追又ハ刑事訴追ヲ始メタル爲法律上職務ヲ執ラシムルコト能ハサル期間内ハ俸給ノ三分ノ一ヲ減ス

第六十九條 判事ノ席次ハ司法大臣之ヲ定ム

第七章 錄事及通譯官吏

第七十條 裁判所ニ錄事ヲ置ク錄事ハ奏任又ハ判任トス

錄事ハ民事及刑事ノ審理ニ關スル準備、法廷ノ立會、調書ノ作成、記錄ノ整理保管其ノ他法令ノ定ムル事務ヲ取扱フ

錄事ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ裁判所ニ於ケル諸般ノ事務ヲ取扱フ

第七十一條 地方裁判所及錄事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ監督錄事、控訴院及大審院ニ錄事長ヲ置ク

錄事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

監督錄事及錄事長ハ上官ノ命ヲ受ケ錄事ノ事務ヲ監督ス

第七十二條 裁判所ニ通譯官及通譯吏ヲ置クコトヲ得

通譯官ハ奏任、通譯吏ハ判任トス

通譯官及通譯吏ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八章 開廷

第七十二條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

事務ノ處理上必要ナル事情アルトキハ司法大臣ノ許可ヲ受ケ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ開廷ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 開廷中秩序ノ維持及審判ノ

指揮ハ裁判長ニ屬ス

第七十五條 開廷ハ定數ノ判事列席シテ之ヲ爲ス但シ裁判所ノ長ハ裁判長ノ請求ニ因リ補充判事ヲ命スルコトヲ得

補充判事ハ審判ニ立會ヒ判事差支アルトキ之ニ代ルモノトス

第七十六條 安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第七十七條 對審ノ公開ヲ停ムルノ決定ハ理由ヲ開示シテ之ヲ言渡スヘシ

第七十八條 判決ノ言渡ハ之ヲ公開ス但シ理由ニ付テハ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ公開ヲ停ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 公開ヲ停メタルトキト雖裁判長ハ相當ト認ムル者ノ入廷ヲ許スコトヲ得

第八十條 裁判長ハ未成年者、裁判所ノ威儀ニ適セサル風體ヲ爲ス者其ノ他秩序維持ニ害アリト認ムル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ之ヲ退廷セシムルコトヲ得

第八十一條 裁判長ハ法廷ノ秩序維持ノ爲必要ト認ムルトキハ開廷中審判ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ閉廷迄留置スルコトヲ得

裁判所ハ決定ヲ以テ前項ノ違反者ヲ五百圓以下ノ過料又ハ五日以内ノ勾置ニ處スルコトヲ得

留置命令及其ノ理由ハ之ヲ訴訟記錄ニ記載スヘシ

第八十二條 過料又ハ勾置ヲ命スル裁判ニ對シテハ該事件ノ手續ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

勾置ニ付テハ勾留ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十三條 第八十一條ノ場合ニ於テ其ノ行爲刑ヲ科スヘキモノナルトキ及法廷ニ於テ偽證其ノ他ノ犯罪アリタルトキハ裁判長ハ事實ヲ明確ニシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ裁判長ハ違反者ノ逮捕ヲ命スルコトヲ得

第八十四條 第七十四條及第七十六條乃至前條ノ規定ハ區裁判所判事、豫審判事及受命判事ノ審判ニ之ヲ準用ス但シ裁判長ノ權限ハ審判ヲ爲シタル判事之ヲ行フ

第八十五條 豫審判事又ハ受命判事ノ爲シタル過料又ハ勾置ノ裁判ニ對シテハ二日以内ニ判事所屬ノ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 法廷ニ於テハ審判ニ關與スル判事、檢事、錄事及辯護士ハ一定ノ制服ヲ着ス

第九章 合議

第八十七條 裁判ノ合議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス

合議ハ之ヲ公行セス

合議ノ顧末並各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルヘシ

第八十八條 合議ニ於テハ席次低キ判事ヨリ順次意見ヲ陳述シ裁判長ヲ終トス

判事ハ意見ノ陳述ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十九條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル數額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ何レモ過半數ニ達セサルトキハ過半數ニ達スル迄多數ノ意見ヨリ順次數額ニ合

算ス

刑事ニ付意見三說以上ニ分レ何レモ過半數ニ達セサルトキハ過半數ニ達スル迄被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十章 司法行政ノ監督

第九十條 司法大臣ハ裁判所ヲ監督ス

大審院長、控訴院長及地方裁判所長ハ各其ノ廳及管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

區裁判所ノ監督判事又ハ一人ノ判事ハ其ノ廳ヲ監督ス

第九十一條 司法大臣及監督權アル判事ハ不當ナル事務取扱ニ關シテ注意ヲ爲シ且職務ノ内外ヲ問ハス地位ニ不相應ナル行狀ニ對シテ諭告ヲ爲スコトヲ得但シ處分前當該官吏ヲシテ辯明ヲ爲サシムヘシ

第九十二條 前條ノ規定ハ法令ニ依ル懲戒ノ事由アル場合ニハ之ニ適用セス

第九十三條 本章ノ規定ニ依ル監督權ノ行使ハ事件ノ裁判ニ關スル判事ノ職務ノ實行ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第九十四條 司法事務取扱ノ延滞又ハ不適當ナル事務取扱ニ對シテハ利害關係人ハ司法大臣又ハ監督權アル判事ニ之ヲ申告スルコトヲ得

附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十六條 裁判所構成法施行條例ハ之ヲ廢ス

第九十七條 本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ノ管轄ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄

ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
第九十八條 本法施行前ニ聯合審判ヲ命
シタル事件ノ聯合審判ニ付テハ仍從前
ノ規定ニ依ル

第九十九條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規
定ニ依リ判事ノ資格ヲ有スル者ハ本法
施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス大審院判
事又ハ控訴院判事ニ補セラルル資格ニ
付亦同シ

第一百條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定
ニ依リ裁判所書記タル資格ヲ有スル者
ハ本法施行後ト雖仍裁判所録事タル資
格ヲ有ス
第一百一條 本法施行前從前ノ規定ニ依リ
罰金又ハ拘留ニ處スヘキ行為ヲ爲シタ
ル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判
ヲ受ケサルモノハ本法ニ依リ處罰ス但
シ過料ノ額ハ從前ノ規定ニ依リ額ヲ超
ユルコトヲ得ス

第一百二條 本法施行前從前ノ規定ニ依リ
爲シタル罰金又ハ拘留ノ裁判及陳述禁
止處分ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第一百四條 本法施行ノ際現ニ裁判所勤務
ノ裁判所書記又ハ書記長ハ別ニ辭令ヲ
用ヒス同官等俸給ヲ以テ裁判所録事ニ
任セラレ各其ノ現ニ勤務スル裁判所ノ
録事又ハ録事長ニ補セラレタルモノト
ス

第一百五條 違警罪即決例、明治三十二年
法律第七十號及刑事交渉法ハ本法ノ爲
ニ變更ヲ受クルコトナシ

第一百六條 他ノ法令中裁判所勤務ノ裁判
所書記ニ關スル規定ハ之ヲ裁判所録事
ニ關スル規定トシ裁判所書記長ニ關ス
ル規定ハ之ヲ裁判所録事長ニ關スル規
定トス

第一百七條 裁判所勤務ノ裁判所書記ノ職
務上ノ行為ハ之ヲ裁判所録事ノ職務上
ノ行為ト看做ス

檢察廳法案
右本院提出案及送付候也
昭和十四年三月二日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯耆松平 賴壽殿

檢察廳法案
檢察廳ハ區檢察廳、地方檢察廳、
檢察院及總檢察院トス
第一條 檢察廳ハ區檢察廳ノ事務ノ一部ヲ
司法大臣ハ地方檢察廳ノ事務ノ一部ヲ
取扱ハシムル爲支廳ヲ設置スルコトヲ得
第二條 檢察廳ニ檢事ヲ置ク
第三條 檢事ハ公訴ヲ實行シ、裁判ノ執
行ヲ指揮シ其ノ他公益上必要ナル事項
ニ付法令ノ定ムル職權ヲ行フ

第四條 區檢察廳ノ檢事ハ區裁判所ノ管
轄ニ屬スル事項、地方檢察廳ノ檢事ハ
地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事項、檢察
院ノ檢事ハ控訴院ノ管轄ニ屬スル事項、
總檢察院ノ檢事ハ大審院ノ管轄ニ屬ス
ル事項ニ付其ノ職務ヲ行フ
第五條 總檢察院ニ檢事總長、檢察院ニ
檢事長、地方檢察廳ニ檢事正ヲ置ク
檢事二人以上ヲ置キタル區檢察廳ニ於
テハ其ノ一人ヲ首席檢事トス
第六條 檢事總長ハ總檢察院ノ長、檢事

長ハ檢察院ノ長、檢事正ハ地方檢察廳
ノ長ト爲リ各其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル
支廳ノ上席ノ檢事、首席檢事又ハ檢事
一人ノ支廳若ハ區檢察廳ニ於テハ其ノ
檢事ハ檢事正ノ命ヲ承ケ其ノ廳ノ行政
事務ヲ掌ル
第七條 檢察廳ノ設置及管轄區域ハ別ニ
法律ヲ以テ之ヲ定ム
第八條 檢事ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ任
ズ
一 三年以上辯護士トシテ實務ニ從事
シタル者
二 判事及判事タル資格ヲ有スル朝鮮
總督府判事及朝鮮總督府檢事
第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ檢
事ニ任ゼラルルコトヲ得ズ
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二 破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者
三 懲戒ノ處分ニ因リ免官セラレタル
者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタ
ル者
第十條 檢事ハ親任、勅任又ハ奏任トス
檢事總長ハ親任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス
檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢
事ヲ以テ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ
勅任檢事及奏任檢事ヲ以テ司法大臣之
ヲ補ス
第十一條 新ニ檢事ニ任ゼラルル者ハ
一時豫備檢事トシテ區檢察廳又ハ地方
檢察廳ニ勤務セシムルコトヲ得
第十二條 檢事總長年六十五、其ノ
他ノ檢事ノ職ニ在ル者年六十三ニ
達シタルトキハ退職トス但シ司法大臣
ハ三年以内ノ期限ヲ定メ仍在職セシム
ルコトヲ得

第十三條 檢事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因
リ職務ヲ執ルコト能ハザルニ至リタル
トキハ總檢察院ノ總會ノ決議ニ依リ之
ニ退職ヲ命ズルコトヲ得
疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル
場合ニ於テハ本人ノ願ニ依リ前項ノ規
定ニ拘ラズ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得
第一項ノ總會ニ關スル事項ハ司法大臣
之ヲ定ム

第十四條 法律ヲ以テ檢察廳ノ組織ヲ變
更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ
檢事ヲ補スベキ關位ナキトキハ司法大
臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待
タシム
第十五條 檢事禁錮以上ノ刑ニ處セラレ
タルトキハ其ノ官ヲ失フ
第十六條 檢事ハ懲戒ノ處分ニ因ルニ非
ザレバ其ノ意ニ反シテ轉官又ハ免官セ
ラルルコトナシ
檢事ノ懲戒ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ
之ヲ定ム

第十七條 檢事ニ對シ懲戒訴追又ハ刑事
訴追ヲ始メタル爲法律上職務ヲ執ラシ
ムルコト能ハザル期間内ハ俸給ノ三分
ノ一ヲ減ズ
第十八條 檢察廳ニ録事ヲ置ク
録事ハ奏任又ハ判任トス
録事ハ書類ノ作成、記録ノ整理保管其
ノ他法令ノ定ムル事務ヲ取扱フ
録事ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ檢察
廳ニ於ケル諸般ノ事務ヲ取扱フ
第十九條 地方檢察廳及録事二人以上ヲ
置キタル區檢察廳ニ首席録事、檢察院
及總檢察院ニ録事長ヲ置ク
録事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第二十條 檢事ハ親任、勅任又ハ奏任トス
檢事總長ハ親任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス
檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢
事ヲ以テ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ
勅任檢事及奏任檢事ヲ以テ司法大臣之
ヲ補ス
第二十一條 新ニ檢事ニ任ゼラルル者ハ
一時豫備檢事トシテ區檢察廳又ハ地方
檢察廳ニ勤務セシムルコトヲ得
第二十二條 檢事總長年六十五、其ノ
他ノ檢事ノ職ニ在ル者年六十三ニ
達シタルトキハ退職トス但シ司法大臣
ハ三年以内ノ期限ヲ定メ仍在職セシム
ルコトヲ得

第二十三條 檢事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因
リ職務ヲ執ルコト能ハザルニ至リタル
トキハ總檢察院ノ總會ノ決議ニ依リ之
ニ退職ヲ命ズルコトヲ得
疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル
場合ニ於テハ本人ノ願ニ依リ前項ノ規
定ニ拘ラズ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得
第一項ノ總會ニ關スル事項ハ司法大臣
之ヲ定ム
第二十四條 法律ヲ以テ檢察廳ノ組織ヲ變
更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ
檢事ヲ補スベキ關位ナキトキハ司法大
臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待
タシム
第二十五條 檢事禁錮以上ノ刑ニ處セラレ
タルトキハ其ノ官ヲ失フ
第二十六條 檢事ハ懲戒ノ處分ニ因ルニ非
ザレバ其ノ意ニ反シテ轉官又ハ免官セ
ラルルコトナシ
檢事ノ懲戒ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ
之ヲ定ム
第二十七條 檢事ニ對シ懲戒訴追又ハ刑事
訴追ヲ始メタル爲法律上職務ヲ執ラシ
ムルコト能ハザル期間内ハ俸給ノ三分
ノ一ヲ減ズ
第二十八條 檢察廳ニ録事ヲ置ク
録事ハ奏任又ハ判任トス
録事ハ書類ノ作成、記録ノ整理保管其
ノ他法令ノ定ムル事務ヲ取扱フ
録事ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ檢察
廳ニ於ケル諸般ノ事務ヲ取扱フ
第二十九條 地方檢察廳及録事二人以上ヲ
置キタル區檢察廳ニ首席録事、檢察院
及總檢察院ニ録事長ヲ置ク
録事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

首席録事及録事長ハ上官ノ命ヲ承ケ録事ノ事務ヲ監督ス

第二十條 檢察廳ニ通譯官及通譯吏ヲ置クコトヲ得

通譯官ハ奏任、通譯吏ハ判任トス
通譯官及通譯吏ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第二十一條 司法大臣ハ公訴ノ實行ニ付檢察ヲ指揮ス

檢察總長以外ノ檢察ニ對スル指揮ハ
檢察總長ヲ經由シテ之ヲ爲ス但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ規定ニ依リ指揮ヲ爲シタルトキハ司法大臣ハ檢察總長ニ其ノ指揮ヲ爲シタル事項ヲ通告ス

第二十二條 檢察總長、檢察長及檢察正ハ公訴ノ實行ニ付各其ノ廳及管轄區域内ノ檢察廳ノ檢察ヲ指揮ス

檢察總長、檢察長及檢察正ハ公訴ノ實行ニ付各其ノ廳及管轄區域内ノ檢察廳ニ於テ或ル檢察ノ取扱フベキ事務ヲ自ラ取扱ヒ又ハ之ヲ他ノ檢察ニ移スコトヲ得

第二十三條 檢察ハ犯罪ノ捜査其ノ他職務ノ執行ニ付司法警察官吏ヲ指揮ス

第二十四條 司法大臣ハ檢察廳ヲ監督ス
第二十五條 檢察總長、檢察長及檢察正ハ各其ノ廳及管轄區域内ノ檢察廳ヲ監督ス

區檢察廳ノ首席檢察又ハ一人ノ檢察ハ其ノ廳ヲ監督ス

第二十六條 檢察總長、檢察長及檢察正ハ各其ノ廳ノ檢察ヲシテ監督事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十七條 檢察總長、檢察正、

支廳ノ上席ノ檢察又ハ首席檢察差支アルトキハ各其ノ廳ノ檢察席次ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

檢察一人ノ支廳又ハ區檢察廳ノ檢察差支アルトキハ其ノ廳ヲ監督スル檢察正ハ其ノ職務ヲ代理スベキ者ヲ命ズ
檢察ノ席次ハ司法大臣之ヲ定ム

第二十八條 司法警察官及司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ對スル監督ハ前四條ノ例ニ依ル

第二十九條 檢察廳ノ事務取扱ノ延滞又ハ不當ナル執務若ハ處分ニ對シテハ利害關係人ハ直近上級ノ監督官廳ニ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ裁判所ニ於テ取消又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得ル檢察ノ處分ハ此ノ限ニ在ラズ
抗告ハ原檢察廳ヲ經由シテ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十條 抗告ニ對スル處分ハ抗告申立人ニ通知スベシ

第三十一條 檢察廳ノ事務章程ハ司法大臣之ヲ定ム

附則

第三十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 區檢察廳ノ檢察ノ職務ハ當分ノ内司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三十四條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ檢察タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

第三十五條 從前ノ檢察局ハ第八條ノ適用ニ付テハ之ヲ檢察廳ト看做ス
第三十六條 舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ第九條ノ適用ニ付

テハ之ヲ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十七條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ裁判所書記タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍檢察廳録事タル資格ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際現ニ檢察ノ職務ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ同官等俸給ヲ以テ檢察ニ任ゼラレタルモノトシ

各區裁判所檢察局ノ檢察ハ當該區檢察廳ノ檢察ニ、各地方裁判所檢察局ノ檢察又ハ檢察正ハ當該地方檢察廳ノ檢察又ハ檢察正ニ、各控訴院檢察局ノ檢察又ハ檢察長ハ當該檢察院ノ檢察又ハ檢察總長ハ總檢察院ノ檢察又ハ檢察總長ニ補セラレタルモノトス

本法施行ノ際現ニ休職中ノ檢察又ハ退職檢察タル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ各休職又ハ退職ノ儘檢察ニ任ゼラレタルモノトス

第三十九條 本法施行ノ際現ニ檢察局勤務ノ裁判所書記ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ同俸給ヲ以テ檢察廳録事ニ任ゼラレタルモノトシ各區裁判所檢察局勤務ノ書記ハ當該區檢察廳ノ録事ニ、各地方裁判所檢察局勤務ノ書記ハ當該地方檢察廳ノ録事ニ、各控訴院檢察局勤務ノ書記ハ當該檢察院ノ録事ニ、大審院檢察局勤務ノ書記ハ總檢察院ノ録事ニ補セラレタルモノトス

本法施行前地方裁判所檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ區檢察廳ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前大審院檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ總檢察院ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前區裁判所檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ區檢察廳ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前地方裁判所檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ區檢察廳ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前地方裁判所檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ區檢察廳ニ於テ之ヲ處理ス

理シタル事件ハ其ノ地ノ地方檢察廳ニ於テ之ヲ處理シ地方裁判所支部檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ地方檢察廳支廳ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前控訴院檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ檢察院ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前大審院檢察局ニ於テ受理シタル事件ハ總檢察院ニ於テ之ヲ處理ス

第四十一條 他ノ法令中檢察局ニ關スル規定ハ之ヲ檢察廳ニ關スル規定トス
他ノ法令中區裁判所檢察局ニ關スル規定ハ之ヲ區檢察廳ニ關スル規定トシ地方裁判所支部檢察局ニ關スル規定ハ之ヲ地方檢察廳又ハ其ノ支廳ニ關スル規定トシ控訴院檢察局ニ關スル規定ハ之ヲ檢察院ニ關スル規定トシ大審院檢察局ニ關スル規定ハ之ヲ總檢察院ニ關スル規定トス

第四十二條 他ノ法令中區裁判所ノ檢察ニ關スル規定ハ之ヲ區檢察廳ノ檢察ニ關スル規定トシ地方裁判所ノ檢察又ハ檢察正ニ關スル規定ハ之ヲ地方檢察廳ノ檢察又ハ檢察正ニ關スル規定トシ地方裁判所支部ノ檢察ニ關スル規定ハ之ヲ地方檢察支廳ノ檢察ニ關スル規定トシ控訴院ノ檢察又ハ檢察長ニ關スル規定ハ之ヲ檢察院ノ檢察又ハ檢察總長ニ關スル規定トシ大審院ノ檢察又ハ檢察總長ニ關スル規定ハ之ヲ總檢察院ノ檢察ニ關スル規定トス

第四十三條 他ノ法令中第一審裁判所、上訴裁判所、控訴裁判所、上告裁判所又ハ管轄裁判所ノ檢察ニ關スル規定ハ之ヲ各當該裁判所ノ管轄ニ屬スル事項

ニ付職務ヲ行フ檢察廳ノ檢事ニ關スル規定トス

他ノ法令中裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル事項ニ付職務ヲ行フ檢察廳ノ檢事ニ關スル規定トス

第四十四條 他ノ法令中檢事所屬ノ裁判所ニ關スル規定ハ之ヲ當該檢事ノ職務ヲ行フベキ事項ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ關スル規定トス

第四十五條 他ノ法令中檢事局勤務ノ裁判所書記ニ關スル規定ハ之ヲ檢察廳錄事ニ關スル規定トス

第四十六條 従前ノ檢事又ハ檢事局勤務ノ裁判所書記ノ職務上ノ行爲ハ各之ヲ檢事又ハ檢察廳錄事ノ職務上ノ行爲ト看做ス

○子爵戸澤正巳君 只今上程セラレマシタ裁判所構成法改正法律案外一件ハ、關聯スル所ガゴザイマルガ故ニ、人事調停法案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 次會ノ議事日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後六時二十九分散會